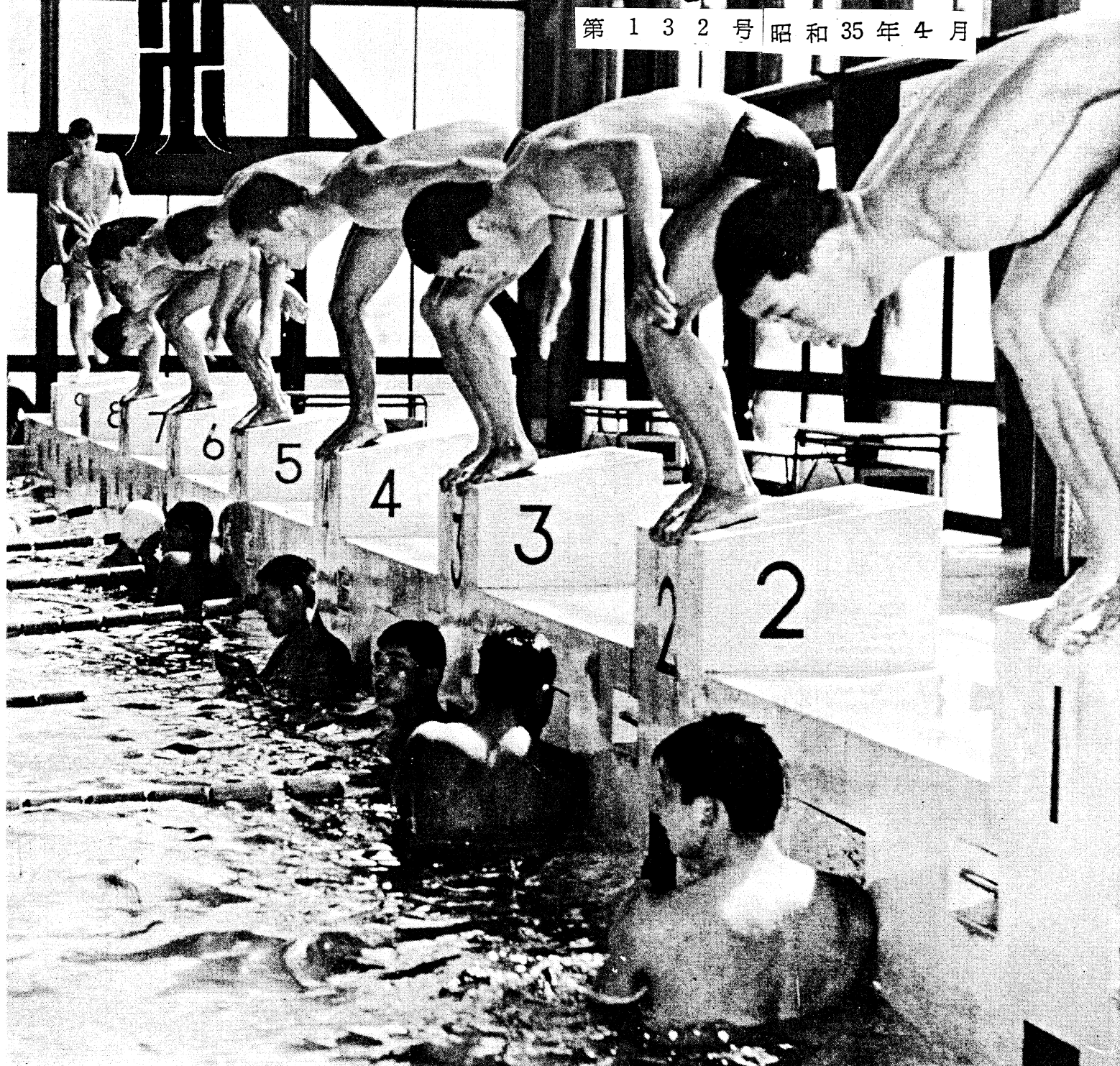


日本水泳連盟 機関誌

水泳

第 1 3 2 号 昭和 35 年 4 月



No. 132 "SUIEI" April 1960

NIPPON SUIEI RENMEI
(Amateur Swimming Federation of Japan)

昭和35年度主要行事日程予定

2月20日(土)21日(日)	日本泳法研究会……………静岡・伊東温泉プール
3月23日～27日	シンクロ実技講習会……………東京・国立競技場 室内プール
4月2日(土)3日(日)	第2回末弘記念日本室内選手権水上競技大会…東京・都営屋内プール
5月28日～7月3日	関東学生水球リーグ……………東京・神宮プール
6月5日(日)	第32回早慶対抗水上競技大会……………東京・神宮プール
6月12日(日)	第25回明・日・立三大学対抗水上競技大会…東京・神宮プール
6月19日(日)	第5回日大・中大対抗水上競技大会……………東京・神宮プール
7月22日(金)23日(土)24日(日)	昭和35年度日本選手権水上競技大会……………東京・神宮プール 兼 ローマ・オリンピック大会最終予選会
8月上旬	昭和35年度日本選手権シンクロ競技会……………東京・目白プール
8月上旬	地域別高等学校選手権水上競技大会……………各 地
8月7日(日)	第6回日本中学校水泳通信競技大会……………各 地
8月10日(水)～18日(木)	第8回水泳教室……………各 地
8月15日(月)～21日(日)	国民皆泳週間……………各 地
8月19日(金)20日(土)21日(日)	第28回日本高等学校選手権水上競技大会……………東京・神宮プール
8月20日	第5回日本泳法競技会……………奈良・天理プール
8月22日(月)～25日(木)	第4回ジュニア水泳指導会……………神奈川・鎌倉プール
8月26日(金)27日(土)28日(日)	第11回全国勤労者水上競技大会中央大会……………
9月3日(土)4日(日)	第33回関東学生選手権水上競技大会……………東京・神宮プール
9月9日(金)10日(土)11日(日)	第36回日本学生選手権水上競技大会……………東京・神宮プール
9月14日(水)15日(木)	関東学生水球新人戦……………東京・神宮プール
9月24日(土)～27日(火)	第15回国民体育大会水上競技大会……………熊本・熊本城プール

表紙写真は、ローマ・オリンピック強化練習風景

平泳陣のスタート。(都営屋内プール)

目

次

ローマ・オリンピック大会への抱負.....	樋 口 一 成.....	(2)
ローマ・大会を目前に控えて.....	柴 原 恒 雄.....	(3)
ローマ・大会への抱負.....	鷗 田 武.....	(4)
水球練習報告.....		(5)
指 導 者 講 習 会 研 究 報 告		
1. 座 談 会.....		(7)
2. 水泳選手の医事面について.....	梶 田 幸 徳.....	(16)
3. 泳法研究の出発点.....	角 野 晃 二.....	(21)
オリンピック回顧座談会.....	N・Mクリュコフ 稲 垣 兼 一 訳.....	(25)
今日の背泳技術の特徴.....		(38)
「競泳の適齢調べ」について.....		(41)
日本史上競泳女子50傑 (4)		(43)
海 外 ニ ュ ー ス.....		(47)

ローマ・オリンピック大会への抱負

樋 口 一 成

ローマオリンピック大会は愈々あと半才を残すこととなった。一昨年私は会長の重職に御推薦を受けて以来、日本水泳界の発展に微力を尽してきたが、幸い多数関係者の御協力を得て、一昨年の日豪大会を経て昨夏の第5回日米大会には躍進途上にあるアメリカチームを破ったほか、これらの大会を通じ山中君の数次にわたる世界新記録の樹立を初め幾多の新進気鋭の諸君の輩出により、世界に日本水泳界の存在を誇示し得たことは洵に御同慶にたえない次第である。しかしながら「ローマは一日にして成らず」というが如く、ローマへの道はしかく簡単ではない。のみならず、本大会の成果は当然東京オリンピック大会につながる重要な試金石ともなることに想いを至せば、責任の倍加することを考えざるを得ない。即ち、前記米、豪世界の二強との対戦を経験し、その実力をまのあたりに見た結果はどうであったか。多くを論ずるまでもなく、その力はすべてにおいて、まさに端尻すべからざるものがあつたことは周知のとおりであつた。もとより勝負の世界は厳しく一時の偷安も許されぬことは言を俟たない。

ロスアンゼルス、ベルリンのあの偉業は日本水泳人の長年にわたる努力精進の所産とはいえ、常に王座を維持することの如何に難かしいことか。ロス、ベルリンの勝利から敗戦を経てここに二十数年、栄枯盛衰は世の常とはいへ、ただ老舗を誇り太平の夢をむさぼることはもち論許されない。春秋の筆法をもってすれば、一日にして成らないのはローマのみではない。豪州のメルボルン大会の制覇の蔭には、ロンドン大会いな、ロス、ベルリン大会以来の二十数年の苦節が実つたものというべく、だからこそ日本水泳界におけるわれわれの先輩及び全国の関係者は、敗戦のあの混乱と諸困難を克服していち早く水連を再建し、財政を確立すると共に、古橋君のあの超人的活躍や古川、石本君等の奪起が実り、水泳日本の存在価値を遺憾なく世界に認識せしめた次第であつて、これら先人の偉業には敬意と深甚の感謝の意を表さねばならない。しかし戦後最初のヘルシンキ大会には、残念ながら日本の準備不足もあつて僅かに水泳王国の片鱗を見せたに止まり、メルボルンでは急速にその力を発揮した豪州の底力に屈した感があつたが、本大会を契機とし、練習方法の技術的変革が各国の間に叫ばれるようにな

つたことは、日本にとつてもよき教訓となつたものといへよう。また一昨年、古賀、石本、山中君等を中心として村上監督の下に参加した米国招待競技会での貴重な体験は、練習方法の変革を裏付けるに大いに役立ったものといふことができる。練習方法乃至練習量の実際については、何が最善で何が優れているかは一がいには断じ難い。実際問題として体力、年齢差、気候、風土乃至生活環境からくる練習条件の相違を前提とした場合、一挙に断定することは至難事であろう。しかしながら、練習方法の基本原則となるべき基準、練習量等の設定は定説として存在されるべきことは否定し難いと考えられる。この意味からも、水連が一昨年来とりあげ検討しつつあるインターバル練習法は、それ自体困難な問題点を含んではいようが、米、豪の強国により実証され、歴史的には古くから採用されていることに徴しても、我々が優れたものを学びとつて悪い理由は決してない筈である。寧ろ問題は、インターバル練習法を単にうのみにしないことであつて、前記諸条件に対応してどう消化するかにかかつているものといえよう。従来からとられていた基礎練習に、日に8,000~10,000m 泳ぎこむというスタミナの養成ももち論必要であり、これらの練習方法との調整は、今後の課題として十分考慮されるべきであらう。同時に、水泳理論の一分野として兎角等閑視されがちであつた科学的管理、特に体力医学乃至健康管理の分野については十分とり入れ、日本人の体質、習性に適応した新しい科学的分析を試みることの妥当性については申す返もないことと考える。われわれとしては、ローマオリンピック大会に備え、既に一昨年から着々その体制を整え昨夏の日米対抗を経て11月から3回に分けオリンピック候補30名の強化合宿練習を実施したほか、地方から参加した第一線指導者の方々の講習会を開催する等練習方法に対する習熟、泳法理論の解説等各般にわたり強化を期した次第である。その他全国を六地区に分けて実施した水泳教室や、第3回ジュニア指導講習会についても、例年以上に所要経費を計上するとともに地方水連の積極的な御協力により効果の向上を期した次第であるが、もとより早急に実効を期することは望めないにしても、出来る限り中央、地方を通じての意思の疎通を計り強化の充実を図つた積りである。かくしてローマ大会も旬月に迫ま

り、第三次強化合宿を経て第2回末弘杯記念室内選手権を迎えたが、幸い第一線選手は好調を持しており、新記録を目指して意気頗る高い。三次にわたる強化練習を通じ各選手共相当泳ぎこんでおり、自己のベストに近いものを出しているのもその成果が期待されるが、偕、ローマ大会での活躍はどの程度期待できるか。体協の方針としては、東京オリンピック大会組織委員会が設置されたことに伴い東京大会中心主義というような傾向がとかく見られ、施策、就中予算面にこの傾向が強いのはいなめない。しかしわれわれとしては、東京大会もさることながら目途に迫ったローマ大会こそ日本水泳陣の鼎の軽重を問わなければならない重要な場であり、同時に東京大会につながる重要な試金石として、水泳日本の再現を果すべき好機と考えるものである。米豪二国だけについてみても、昨年の日米大会とその後の汎米大会、最近の全豪大会の記録その他から見れば決して楽観は許されない。しかし、可能性から論ずれば、山中君の400m、1,500mおよび800mリレー、那須君の200mバタ、ギャザコールの不調から推した200m平泳、米、豪の間隙をつき400mメドレーリレーと六種目の勝利も夢ではないが、勝敗は水ものであり、ましてや当日のコンディションに支配されやすいので、最後は精神力と闘志が勝敗を左右することは十分考えられ激戦は免れない。加えて世界のレベルは、メルボルン当時より飛躍的に伸びを見せており、各種目の準決勝通過予想記録も大幅に上廻ることと考えられるだけに、決勝進出入賞のチャンスも一段の努力を要し

よう。選手団決定の暁は、大会当日までの日程、練習計画については慎重に検討し、選手団をして絶好調となるようすべてについて十分な配慮の下に措置致したい。従来の経験から申しても、大会前における練習計画と休養との調製は、コーチングスタッフの重要な課題であるが、どんなベテランでも未知の世界での晴の舞台を前にしては極度の緊張感におそわれることは経験済みの原則ともいふべきものであるから、選手の自覚はもち論ではあるが、適度の解放感も適宜織りこむ等意を尽すべきものとする。ただ残念なのは、FINA総会の決定に基づき、各種目エントリー2名以内となったことで日本にとり不利ではあるが、この上は精鋭をすぐり最上の効果をあげるべく全力を尽すのみである。最後に東京大会に対する強化対策については、さきの代議員会に本部案を発表したが、多少問題もあるので目下これが整備対策につき鋭意検討中である。要は水泳連盟の持てる力をフルに動かし各層の識者かつての実績ある有力者の御意見を十二分に反映せしめ施策に遺憾なきを明したい所存である。

最後に「日米対抗を制するものはオリンピックを制する」とは水連の古くからの標語ではあったが、豪州の非常な台頭があるにせよわれわれとしては、今次オリンピックをして文字通りかくあるべきことを祈らざるを得ない。ローマ大会を迎えるに当り全国の関係者各位の一層の御協力、御支援を切望してやまない次方である。

(筆者は本連盟会長)

ローマ大会を目前に控えて

柴原恒雄

ローマ大会を愈々目前に控えて、先づ飛込に於ける過去の戦績を見るに、オリンピックの初参加は、男子に於ては第9回のアムステルダム大会で当時高階選手(辻氏)が飛板飛込に於て第9位を占めたのが日本選手の最初の成績で有る。続く第10回のロスアンゼルス大会に於ては小林、生江、石田の三選手の参加で小林選手の飛板飛込第6位、生江選手の第8位で続く第11回ベルリン大会では小柳選手と私が参加し、私の飛板飛込第4位、高飛込第8位、小柳選手の飛板第8位で、第12回の東京大会が戦争の為中止となり、日本飛込界としては、又とないチャンス逃した事は、今もって残念の至りである。

女子に於いては、第10回ロスアンゼルス大会の鎌倉選手の初参加で高飛込に第6位を占め、女子の初参加とし

ては誠に立派な戦績であったと思ふ。之に続いて第11回のベルリン大会に於ては、大沢姉妹と香野選手で大沢選手(西沢氏)の高飛込の第4位は大いに賞讃に値ひするもので有った。

引続いて戦後になってからは第10回のヘルシンキ大会には男子で毛利(弟)選手女子では宮本選手が各々参加したが、充分に実力を発揮出来なかつた事は、戦後の日本としては或る程度止むを得なかつたかも知れない。

続く第16回のメルボルン大会は男子で馬場、馬淵の両選手女子では、津谷、広瀬の両選手が各々参加、男子では馬場選手の飛板の第11位、高飛込では同じく馬場選手の第12位、馬淵選手の第12位、女子では津谷選手の飛板第8位、高飛込では津谷の第10位、広瀬の第11位と云う

結果が現在に至る飛込の戦績である。

以上の如く之等の戦績を種々検討して見ると個々に理由は有ると思うが、第9回のアムステルダムを除いては、私の知る限り何れも、競技を最後迄完全に飛び切っていないと云う点にしばられる。

例えばロスアンゼルスに於ける小林選手の第6位は最も得意とされた後踏切前宙返り1回半に致命的な失敗で第4位の地位を逃してしまった。

ベルリン大会では、私が当時最も好調で有った前宙返り1回半の一発の失敗が1点差で日章旗を逃してしまった。

又メルボルン大会に於ても選手各自が練習通りのペースで飛び了せなかった様に思われる。之等は何れも競技に対する平素の練習の方法と心構へに、大きな理由が有ると思うし、此の点我々指導の任に当るものにも徹底を欠いていたのではないかと思う。

即ち競技には自己の持つ最高の力量を100%発揮出来ない迄も、絶対に一発の僅かな失敗も出さないと云う練習の方法に徹すべきで有ると云う事は今さら口にすべき事でも無いと思うが、事実は大いに之を言はなければならぬ従来の戦績で有った事には間違いはない。ローマへは只此の点に方法をしばっても、決して消極的な戦法とは云へない。

来るべきローマでは開催地が欧州で有るだけに、参加選手も相当多人数が予想されるし、得点差1点或は0、何がしが、順位に如何に大きく響くかが、大問題になると思う。

故に再び之を繰返へず事無き様に鋭意努力を致さねばならぬと同時に、選手自身も充分に此の一線に徹底してもらい度く大いに期待している次第です。

(筆者は本連盟・常務理事飛込委員長)

ローマ大会への抱負

鴉 田 武

愈々ローマ・オリンピック大会も半年後に迫って参りました。

メルボルン、オリンピック大会を視察し、国際学生スポーツ大会及オランダ遠征を行って、世界の水球界のレベルが如何に高度なものであるかをはっきり知らされた吾々にとって、今後日本の水球を如何にして向上発展させ彼等のレベル迄に到達するかを真剣に検討して参りました。その手初めとして、当面の目標であった等三回アジア大会での優勝も成遂げる事が出来、ローマ・オリンピック大会への出場の機会を得たのでありますが、アジア大会で目標としましたジンガポールは、前回のメルボルン・オリンピック大会では最下位のチームである事を考へます時に、吾々の道は未だ遠しと痛感いたして居ますので6月後のローマ大会及4年後の東京大会迄を如何に努力して行くべきか、吾々にとっては大きな問題が残されていると思ひます。

而しここで当面の問題としてローマ・オリンピック大会を第一の目標として、これに対する強化対策及抱負を述べる事にいたします。

吾々水球委員会といたしましては昨年全日本選手権を主とした選考対照として16名の候補選手を選出したし、昨年八月よりローマ・オリンピック大会迄の一年間

の練習計画をたて、これにもとづいて現在も練習を続行いたして居ります。又一方昨年日本高校選手権大会に於ても大会終了後、高校生の優秀な選手を12名選抜し、その選手を中心に22名で浜松市に於て一週間合宿練習を行ひました。

後者の高校生の合宿練習は初めて行なはれたものですが、この機会に高校生より優れた選手の養成につとめ、今後これを続行する事により、今迄より積極的に選手の発掘に力をそそぎ東京大会への一助としたいと考へて居ります。

又前者の候補選手の年間練習計画は水球委員会といたしましては初めての試みではありますが、日本の水球を基礎から分析して、一步一步基礎技術を訓練して行き一年間を通じて理想的なチームを作り上げ様と云ふのが主眼であります。

ではどの様なチームを作ってローマ・オリンピック大会にのぞむべきかと云ふと、再三の国際試合を体験して、機動力とスタミナに富んだチームを作り、動き乍らのプレイに徹したチームをつくるべきであると云ふ結論にもとづいて練習計画をたてて居ります。

これを具体的に説明いたしますと、攻撃に際しては速攻を主体とし、動く事によって相手の固いマークをはづ

し、相手方のゴール・キーパーを左右に振切って確実な得点をする事、又防禦に対しては、ゴール・キーパーの強化を第一に、マン・ツー・マン・デフェンス及びゾーン・デフェンスを習得して、ボディ・タツクルを避けて、ボールにタツクルする技術を養成して行きたいと考えています。而しこの様なチームを充分に活躍させる為には、

1. 優れた泳体力（泳力、出足、回転）
2. 良くコントロールされたボール・ワーク。
3. 良く連絡のとれたコンビネーション。

以上が大きな要素であります。年間練習計画にはこれらの事を前提として練習計画をたてて実施いたして居りますので、その大略を御紹介いたします。

1. 泳体力の強化（泳力は62秒前後を目標）
2. ボール・ハンドリングの強化（主として動きながらのパス・ワークの訓練）

ここ迄を昨年8月の浜松市の合宿及び11月より2月下旬迄屋内プールで練習を行ひ、

3. シュート・ハンドリングの強化及ゴール・キーパーの強化、（シュートは全てドリブル・シュートで止るのプレイを禁じ、ゴール・キーパーは飛び付きと、左右への動き、）

4. ワンサイドの攻防及ゾーン・デフェンスの攻防以上を3月初旬より、屋内プールで、其の間10日～20日迄東大プールと屋内プールを利用して第二次の強化合宿を行ひ、ここ迄を第一期のしめくりといたします。

5. フォーメーションの習得

6. ゲーム・センスの育成強化

これを4月中旬よりの練習目標として、4月29日～5月8日迄長野県野沢温泉プールに於て第三次の合宿練習を行います。

続いて5月以降にはゲームを主体に強力なチームを組立て、7月の最終合宿を最後にローマ・オリンピック大会に臨む考へで居ります。

16名の候補選手の中には、御承知の通り国際学生スポーツ大会及アジア大会に出場した選手が9名含まれて居り、彼等が原動力となって練習をして居りますので、コーチからの指示も充分に徹底する事が出来、長く苦しい練習計画ではありますが、着々とその成果をあらはして居ります。此の様にO.B.選手が長がく第一線で活躍して居る現状は、今後何んとか持続して行きたいと願ひして居ります。

而しメルボルン・オリンピック大会、及国際学生スポーツ大会で見ました各国の実力は、この4年間に進歩しつつある事は充分察知する事が出来ますので、吾々としてはこれからの余す6ヶ月間を大いに活用して、ローマ・オリンピック大会に於て、これ迄の練習の成果を充分に発揮する様頑張りたいと思ひます。尙現在最近到着いたしましたハンガリーの水球読本も東大水泳部の方々の御好意により全訳も出来上り、ハンガリーの水球のフィルムと併せて技術の向上に全力をあげて居ります。

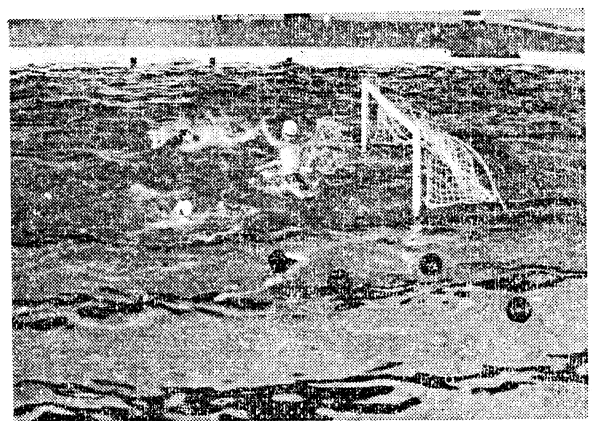
（筆者は本連盟水球委員長）

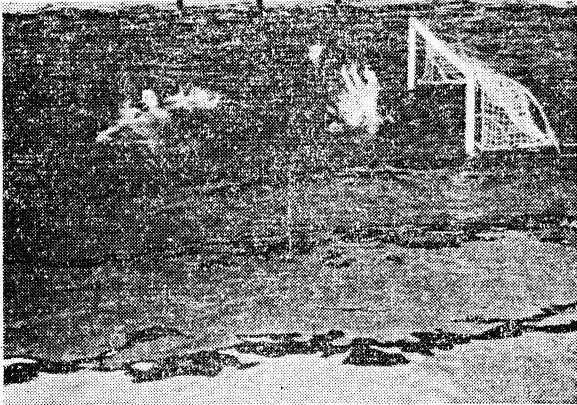
水 球 練 習 報 告

—— ローマオリンピック水球競技強化練習経過報告 ——

来るべきローマ大会に於て、如何にしたら立派な成績を挙げる事が出来るか、そして此の長い練習期間に対して何の様に重点を配分したらよいか、過去の対外試合（F.I.S. 学生大会、第2回、第3回アジア大会等）及び視察員（メルボルン・オリンピック）よりのデータを検討し、体格の異なる外国選手に対し、水中で如何にして優位を保つ事が出来るか、等を考慮した結果日本人の素質体格技量より大体次の要点に絞られると思われる。

- 泳耐力養成、及び水球泳法の修得（特に頭を高く上げる）
- 鋭い出足、及びターン

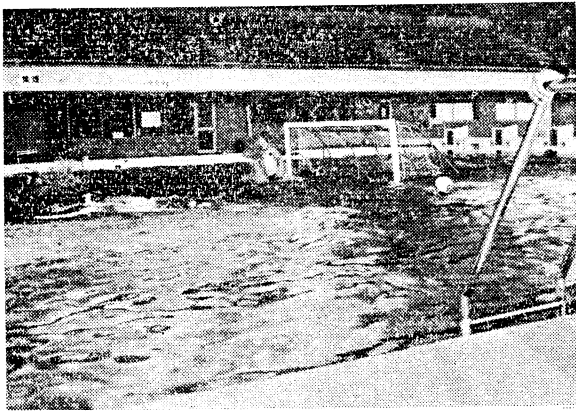




- 適確なる速いパス
- 泳ぎ乍らの総ゆる角度のシュート
- コンビネーション

以上特に泳ぎ乍らのシュートに重点を置くと共に各課題を如何にして目標期間中に配分、仕上げするかに専念しました。

昭和34年度全日本選手権後直ちに代素選手候補を決定、7月28日より8月10日まで浜松にて浜名湾遊泳協会幹部の御厚意により同市内半僧坊寺に宿泊、市営プール及び信愛高校プールにて合宿練習、此の期間中泳力、水球泳法基礎（ブターテング・Lターニング、Uターニン



グ、フローテング）ハンドリング、スローイング、に重点を置き充分にその成果を揚げることができました。

昭和34年10月上旬16名の代表選手候補を選び11月1日より12月28日まで都立室内プールに於て練習、選手中心社会人が半数以上を占めているため日曜日午前中、ウィークデーは夜間（19.00～20.45）飛込小プールに行う。

此の期間中従来日本選手の悪癖であった肘の曲り、逆手の利用（右効は左、左効は右）、手首の返し、効かせ方、体重の移動（特にスローする時の腰）、総ゆる方向よりのキヤッチ、スロー等ドリブルによる泳耐力増強、ロングパスによる遠投力コントロールの養生に重点を置く、期間中最初の内は社会人と学生候補の間に基礎技術上可成の差があったが、12月後半に至り社会人の進歩よ

りも若手候補の積極的な努力によりその差が断然少なくなったことを認めた。

勿論それは基礎技術上の事であり水球競技上欠く事の出来ないゲームセンスに於ては未だ相当の差を認めざるを得ない、併しこの若手の進歩は更に社会人の基礎技術向上への刺戟剤となり従来のO.B.競技者に見られた様な学生時代の技量の維持のための練習に終始せず常に積極的に自己の技量を展ばす事に意欲を見せたことは大いなる収穫であり今後の日本水球発展のために大いに好結果を齎すものと信じます。

続いて昭和35年1月11日より2月中旬まで前期の如く一週四回都立室内プール大小を併用して練習を行う。

此の期間はハンドリング、並びにシュート（総べて泳ぎ乍ら）に重点を置く、特に中距離（6～7m）及び、各方角よりの処置等、従来より更に実戦的な練習を行うことができた。選手中心にあっては今迄あまり、多種多様なシュート練習を行っていなかったため自己の埋れた特徴を発見或は延ばすことができにくかったが一線級はもとよりそれ以外の者に著しい進歩の跡を見せたことは今後大いに期待できるものと信じます。又此のため攻撃則は勿論のこと特にG.K.に於て従来或る程度限定された方角に対する防禦練習に終らなかつたことは今後の成果が楽しみである。

全体的に無理の無い練習時間を選定したのであるが社会人は自己の務めに相当の無理を強いてまでも非常によい出席率を示したことは全体の盛り上げる力及びチームワークの賜と心強く感じました。

第二回強化合宿（3月10日～20日）前日までに今までの練習を一応完修しておいてチーム全体としての攻防技術に全力を注ぎ第三回（4月下旬～5月上旬）第四回（7月中旬）の強化合宿に於てチームワークと諸技術を完成しそのコンディションを整え立派に国際試合に臨みたいと思います。

水球競技の権威として世界第一人者といわれるハンガリー国立チームのコーチ B3la Rajki 氏の傑出した著書を東京大学水泳部諸君の厚意によりその全訳を見、今後技術及び作戦をコーチする上に大いに参考になるものと深く感謝致します。

最後に練習中の諸写真を載せまして2月中旬までの練習報告に致します。

（神田明善記）

指導者講習会研究報告

日時 昭和35年2月29日夜 7時～9時

(出席者) 場所 青年会館

大田光雄	三枝美貴子	奥平幸夫	森好男	石井計一郎
赤樫卓爾	串田志都子	原田静子	池田岩夫	青木行義
吉田勝平	小野寺巖	中村明彦	鎌田寿夫	黒住年明
金田平八郎	平尾静子	木村文也	末弘力	岡田正一
南佳恵	奥村健治	井上正一	金井照夫	藤田平八郎
笹岡昭平	中村隆一	黒田実	出田数良	植栗祐輔
高橋理悦	近藤鈴松	河瀬正喜	原保夫	永井武治
根本日清	牧野哲夫	浦畑チズ子	広重俊一	東郷清一
有安恵徳	鈴木重孝	浦井保弘	古賀長善	

1. 〔座談会〕

太田 到着以来かけ足のような状態で十分納得のいく迄お話もできないので大変申訳けないと思っているが時間あるいはその他の制限もあつてとことんまでというわけにいかないの、こういう機会を通じて座談的にどんどん発言していただき、本部への質問だけでなく先生方同士でも質議応答の形で進めてもらい度いと思います。その前に昨日からいろいろ専門的な立場で医学或は力学というようなことを話していただいたが、これは結局ある特定の選手をピックアップしてやったわけではなく、全般的な医学の面、力学の説明であつて、全部がそうしなければならないというものではない。われわれの目標とするところは何如にして世界記録を出すか、又世界の第一線になる選手を作るかと云うのを目標にしているのであるから、こういうことをしてはいけないとか、こういうことをしては損だというような事が多少あつても十分承知の上でなおかつきつトレーニングをやり、又その他の計画に従つてやっていかねばならないことが非常に多々あると思います。先生方には、一応一般の医学的な面から考えた点についてのご意見というふうにしていただきましたが、御言葉のはじめにも世界記録の人を作り出すためにはやはり非常に常識をこえたようなトレーニングもしなければならないというようなこといっておられるから、その点は一つ先生方の賢察にしたがつて、その範囲内における最高のもの、あるいはそれは矛

盾するようなものがあるかも知れないが、もっときついものというふうに我々コーチが皆様と一緒に研究して行きたいと思つています。

こんどのオリンピック候補合宿の練習をごらんになって、例えばインターバル練習方法の実習見学かと御考えられた方もあると思いますが、最初に合宿の目標で申し上げた様に今回は先生方に現在やっている第一線選手たちのフォーム、泳ぎ方を参考に供したわけであつて、インターバル練習法をごらんになっていただいたのではありません。従来に於ては11月と云う月には殆んど練習をやつた事はありませんが、来年八月のローマ大会を考えると、新しい人の出てくるとともに少なくとも現在第一線にある人のレベルをもっと向上しなければならぬ。それには例年行っている様なシーズンが終つてから1月の冬期合宿迄、約3カ月も全然泳がないと云うのではどうしても水に対する感覚が薄れ、1月の水に入つての合宿が非常に効果が薄くなると考えたので、体力医学の先生とも相談の結果1カ月半か1カ月くらいの間隔をもつて10日間くらい相当強い練習をすれば感覚を失われないうでまた次の練習に入れるのじやないかという結論に達しこういう計画をした次第です。その結果としてはフォームや泳ぎつぷりをごらんになって十分察し得たと思つますが、最盛期のシーズンにおける泳ぎ方に非常に近いと云う事です。例年ですと一月に合宿を行つても三カ月も水に入っていないし、しかも正月がすんだあとでもあるので非常に体が生つていて三月、四月十分泳ぎ込まない

と相当なスピードで泳ぐことができない状態であったが今度は1カ月から1カ月半の休養で水に入ったので非常に安定したフォームをしている。これによってまた1月10日から合宿練習がはじまるが、例年の1月とは違った合宿ができるのじやないかと考えている。勿論1月の合宿は新しい年度をむかへ、而もあと8ヶ月でオリンピックがはじまるからその意味でもスピードを主眼としたレベル向上を目的とする練習をしたいと思っている。そういうようなわけですから、冬の間におけるインターバル練習はまだまだ研究してやらなければならないと考えているので、こんどの合宿の練習方法をそのまますべての練習の参考にしてというようなことのない様に御願います。もう一つ今回の合宿の特徴として夏の間に試合、試合に追いまわされる選手たちもターンとかスタートを練習の中に取入れて行っていないのじやないかと考へ、こういうような際に特に強調して習慣になる程度までやっていきたいというようなねらいから一流の選手たちに対してはなはだ基礎的でつまらないという考えを起すかも知れないが、あえてスタート、ターンを取入れてやりました。それについてはやはり自分でターンとかスタートを重要視しなければならないという気持ちになりさへすれば、そのまずさも解決できるのじやないかと思っている。ターンにしても特に長距離に於ては、山中君の場合でも遅れることは明らかであるから、こうした面も積極的に直し、しかもフォームとかスタミナリズムなどと云う要素と相俟って、はじめて世界記録がこれから作られていくのじやないかと思ひます。どうか、そういう面から一つ力を入れて先生方にもご研究をわがたいと考えているそれではこれからフォーム、練習法そういうようなものを取りまぜて一つとんどん発言していただきたいと思ひます。尙先程の体操の講義で、エキスパンダとか似て非なる運動をするということは全然無意味だというふうにお取りなつた方があるやに開きましたので申し加へますが、結局総合的な体位をとにかく向上しなければフォームとか練習方法というようなことが研究しつくされた際にはどうしても強力な体力までもってこななければ勝負にならないので(強力な体力がなければ又強力な練習も出来ない)、総合的な体力を強化していくためにはやはりあらゆる運動をしていいのじやないかと考えている。ただこれには筋肉が堅くなるとか、足首が堅くなるとかあるので、それを行った際にはそういう堅くなるとか、あるいは動きが鈍くなるというようなことのないように十分に柔軟体操をやってやわらかくして体力をつけていくことを考えればいいのじやないかと思ひます。あまり窮屈に考えてあれもやっちやいけない、これもやっちやいけないというようなことで、それじや何をやったらいい

いかというようなことになっては困るが、南さん中央大学では泳がないときの陸上のトレーニングの仕方、その例を一つ。

南 うちの場合はシーズンが終ってからそのシーズンの一通りの反省をして、そして各個人、個人が来シーズンに出す目標を一応立てる。その目標も今シーズンの優勝タイムがこうだからその記録を出せば来シーズンは優勝できるのだというようなことでなく、もっと高いところに目標をだき、例えば来年のロスオリンピックのバタフライの優勝タイムがおそらく昨年よりも4、5秒高まるのじやないかと、いうことで、その辺に目標をおいてそれを出すためにはこのシーズンオフの間に何をしておかなければならないか、いまのままで練習をしていたのではやっぱり来シーズン1秒か2秒上るのがせいぜいじやないかと思う。それでは追いつかないので、更に飛躍した記録を出すためにはシーズンオフの時に何をしておかなければならないか、筋肉をつけなければならないものは徹底的に筋肉をつける。今シーズン肩が堅かった為に記録が出なかったものは、今シーズンのうちに徹底的に肩を自分でマークしてやわらかくしておく、結局全体としてのトレーニングもあるが、殊に個人が今シーズン反省して自分の欠点を見出しそれをシーズンオフの間に徹底的に直して来年めざす記録が出せるように、目標をおいているわけです。ずっと選手を観察してみると内臓器官がシーズン中の過労や泳ぐので水を飲んだりして腸とか胃とか肝臓とか目に見えないところに疾患がある場合が非常に多い。ですからこのシーズンオフの間に徹底的に体の精密検査をして内臓器管をよく調べて見る。胃が悪いものはシーズンオフの間に完全に治療をして胃を直す、その為にトレーニングをしない方がよかったら、やらさない、そして、食事療法がよかったらそれに専念する、こういうことをしてシーズンオフをすごすことになっているわけですが、全体としてはやはり昨年と同様に四期に分けて陸上トレーニングを行う計画でやっている。

赤樫 四期はどの様に区分していますか、又筋肉強化と柔軟度の関連を御説明下さい。

南 前にも水連の座談会で話したが、去年オーストラリアのタルボット、ギヤスリー両プロコーチにいろいろ話をうかがったことが非常に参考になったわけです。それは冬の間徹底的に筋肉を強化しておけということなんです。オーストラリアの場合とはとにかく筋肉を強化するだけで柔軟にするのは泳げばなるから、とにかく筋肉を強化するという事だった。アメリカの場合はむしろ逆に柔軟性に主眼をおいてトレーニングを行うということであった。どっちともいえないが両方が必要じやない

かと考えるのでシーズンに入る直前に筋肉強化をやればほぐすまでに時間が相当かかるので、シーズンオフになつてすぐ筋肉の強化トレーニングを行い、それと同時に柔軟性をふくめたトレーニングをする。水に入るときは柔軟を主にしたトレーニングを行った方がいいと云う考へ方でやる。それをシーズンが終わったあと十日間ぐらいつつ四回に分けて練習している。

太田 実際に筋肉強化の方法はどういうことをやっていますか、

南 いろいろ種目があると思うが、腕の強化の場合はタルボット、ギヤスリーのいっていた腕を組んで行うハンドプツシユをやっている。これはやっぱり柔軟性をつけるための運動じゃなくて筋肉強化のための運動である一番問題になるのは相撲と同じで泳ぐ場合も足とか腕が強くなることも必要ですが、根本は腰じゃなくかという気がする。ですからやはり腰を中心としたトレーニングそういったことを多く受け入れてやっている。そのために具体的な例として相撲のハズ押し、(技をかけるということではなくして、相手の胸にヒタイをつけて押す)という種目も取り入れてやっている。ただそれだけじゃ堅くなるのでそれに対する柔軟性をつける運動を付け加えてやっていく。体操は専門でないからいろいろな資料、あるいは吉田先生なんかのずっと前に出されたトレーニングの本だとかマツトワークという書物もあるのでそういうのからいろいろ引用してやっているわけですが。

太田 名取先生がおられないからはっきりうかがう事が出来ないが先生のおっしゃられた似て非なる運動ということについて、例えばキッパス監督なんか冬の間陸上で筋肉強化に時間を割いてやっている一つの腕を強くするために、泳いでいると同じようにふさって重りのついたヒモを引くとか、ゴムを引くといくようなことは、これもやはり名取先生のいわれる似て非なる運動でしょうね、吉田さんこういう面は体操の方からみて名取先生のいう効果のないことであるか、どうか分ありませんか

吉田 やっぱり力をつけるのには非常に効果はあると思う。全然名取先生のお話することは判らないことじゃないが、あれを正直にほんとにこう考えてみると何もできなくなってしまって、結局先ほど申し上げたんですが、僕の言葉がまずいので通じなかったかも知れないが少なくとも総合的な力をつけるのにはなんといっても部分的な運動が必要で、ことに先ほどの相撲の押し、これなどは腹筋を強くするのに非常に役立つと思う。平泳と相撲のハズ押しは非常に似た運動で足の強化の為には良いのではないかと。

出田 名取先生の解釈はゴムを引くということはおかしいが、その目的が腕が弱いから強めるためにやる

と云うのであれば良いと云うのであって、結局名取先生のいうことはアンバランス、即ちバランスがなくなる、全身を使う水泳において手だけ強くすることはバランスをなくするというのであって、腕が弱いものはバランスのとれるように強くすることはかまわないというように私は解釈している。

赤樫 例えば4分16秒で泳ぐ選手の手は最高の好緻運動と云う芸術品であって、泳いでいるときの手即ちストロークをそのまま強くしようとして、浴槽にひたり体を立ったままで練習したとしてもそれは結局無意味だ、そういうときは泳いでいるときの手じゃなしに立っている手だからそういう練習を強く長時間やると習性となり泳ぎのタイミングがあわなくなるからさけて下さいと云う事だと思えます。この場合が先生の云はれる似て非なる運動であって、ブレストとハズ押しは似て非なる運動じゃなくそれは平泳を強くする為の足腰の部分強化の一つの方法だと思ひます。

出田 結局腰を強めるというのは野球の選手はバットが、腰が強いと効くと同じで、どこが一番強くなければならないかと云うと腰だと思う。腰をきたえておけばあらゆるところまでいけるのじゃないかという感じがするだから名取先生の理論もそんな解釈にとっている。私の所は水泳のプールがないので体育館を利用してプールの使用時間まで水の中でやる様な格好で、足だけを空中で振らしている。それだけでも足を強める一つの運動になるのじゃないか、結局2時間くらいしか使用できないので準備運動の格好で体育館などを利用して自転車に乗るような格好をやらせたり。色々な事をしている。手の強化運動については良く判りましたが、何か足を強めるにトレーニングのいい方法があれば聞きたいのですが。

吉田 足の強さはなんといっても足首が柔軟でなければならぬ。これが根本的な問題だと思う。勿論足首だけやわらかくても腹筋が弱ければカンジンのビートが効かないので腹筋を強くする運動も非常に重要な問題になってくる。

池田 強化体操はあくまで疲労の残らないような軽い練習を早くということ、早くやった方がいいので、あまりきついやつをやることは悪いというようにおっしゃったが。

吉田 強くしようと思って反抗運動、抵抗運動、例えばボディビルでいうなら重いものをむりをして急激に練習をさせたりすると筋肉を痛めるおそれがあるので、むしろ軽いものを常時多くやらせる方法が良い。泳ぎにそれほど必要のない強い筋肉ができてしまうと、(そのあと体操などやってもみほぐせば別ですが、)かへって水泳にマイナスになる。ある程度強い運動は必要ですが、

軽いということはそういう意味で強すぎないようにむしろ調整してやった方が賢明じゃないか、エキスパンダーを使うのでも軽いのでやるという方が効果的であり、疲労も少ない、体をそこなわないという面からいっても非常に大切じゃないかと思う。

池田 シーズンオフなら少々疲労が出て差支えないむしろ筋肉を強くすることが疲労を直すというそういう鍛錬がいいのじゃないかという感じをうけたのですが、赤櫻試合前の整調期は別として練習は鍛錬であるから余り日々のコンディションばかりに気をとられていると、本当の練習にならないと思う、疲労が蓄積して休養により一定の期間に回復する見込みがあるなら徹底的にハードトレーニングをやり、強い練習にたへ得る体作りをしなければならぬ。勿論練習の過程は忠実に守らなければならないが、ある段階からある段階に飛びこえていくには多少の無理はしょうがないのでそれは必要じゃないのですか。

吉田 一番注意しなければならないのは最初の段階において急に強くやらないことで、体操を軽くやって地ならしして強いのをやるのは有効です。最初からバツと強いのをやらないように注意していただかないと失敗することが多い。

藤田 ランニングの話が出ないが、ぼくたちは、平地を走るより山の頂上まで（大体1000m位ある）かけ足で登るといふ、足、腰をきたえる目的をもったランニングをやっているが、その点についてちょっと。

吉田 水泳選手はよくかけ足、ことにカガトを上げて走ったりしてケンを痛めることが多い。これはなれないのに心臓が丈夫だからつい足に負担をかけすぎるからである。最初軽く足をならしておけばいいのです。そういうような山登りやなんかによって足、腰を強めるのもあるが、肺と心臓の鍛錬というか、いままで水泳できたえてそれを少なくとも落さないという意味で必要じゃないかと思う。いまの山登りやなんかの場合にも足の手入れはおこたらないようにしていただきたいと思う。

藤田 ラグビーをさせているのですが。

吉田 ケガをしないようにやるのはむづかしいが、問題はそこにある。非常にいいと思うが太い骨を折ると回復に随分かかるので、余りゲームに熱中してケガを生じる様な運動はなるべくさせた方がよい。

藤田 シーズン中両足とも関節炎になって折角の選手が記録が止まってしまって困ったのですか、そういう選手の冬季における足に対する考えはどうでしょうか、本人は自分の経験でトレーニングをやった方が記録が保持できてよかったといっているのですがね。

吉田 マッサージの柔軟法というのがある。お医者と

の話合いで、筋肉体操としてほかの人にやらしてもらおう。そういうのはおそらく急性じゃないと思いますが「慢性のものならそういうようにして早く直おし徐々にやるといふふうにしないと失敗すれば記録どころか、足の方に問題が出てくるからこれは一つ充分医者に相談するのが先決問題だと思う。

奥平 先般愛知県の水連理事会が来年に差し迫ったローマ大会については本部がそれに専念する。だから東京大会については各ブロック毎において強化対策を講じてほしい。そういう方針だと承ったのですが、しかし各ブロックでやるとはいうものの日本水連としてもおそらくわれわれが生きている間に日本へオリツピックがくるのは東京大会一回だろうと思う。そうするとわれわれは趣意書にも書いてあったように東京大会には悔いのない成果をあげるべく、この指導者の強化研究会もそういう指示の下におやりになったろうと思う。ですからそういうことについて概略本部で現在までお考えになっていることを折角われわれがここまで集まってきているのですから一応うかがいたい。ローマ大会は東京大会の一つの段階として考えていけばいいと思うが、いまからローマ大会に急にあわてたところでももちろんやることはやるがそう大きく変化することはおそらくないだろうと思います。オーストラリアもロンドン大会が終わったあとメルボルンを目指して強化して行ったとの事ですが、同じようなことが日本の場合にもいえるのじゃないかと思う。そこで東京大会には大学四年になる生徒は現在高校二年の生徒であり、高校一年の生徒は現在の小学校の五年生の生徒である。とくに女性の場合はそういうことを下の方で相当考えられると思う。そういう意味で競泳委員会として、もちろんローマ大会に勝つことが先決問題ですが東京大会まで大いに考えていただき出来ればここに集まったものが強化推進委員会というようなものに改めていって、東京大会にはいかにしても日本の水泳の成果を大いに世界に問う、そういうところまでいきたいものと思っている。夢の様なところもあるかも知れないが、ちょっとおうかがいたい。

太田 皆さんのお手元か、又は各連盟の方に行っていると思うが、とにかく差し迫ったローマ大会には現在の第一線級の選手を非常にいいところまでもって行かなければならぬ。東京大会については奥平先生からお話しがあったようにジュニアを中心にした東京大会において活躍し得る年齢層に重点をおいてやっていこうという方針です。第1回の試みとしてとにかく毎年ジュニアの講習会をやっているが、それだけではやはりレベルを上げることができないのでなんとかその選手たちは地方の先生方が中心になっていただいて引き上げてもらわなければ

ばどうしても手が回らないというところでああいうような主旨の連絡をしておねがした次第です。その第1回の試みとして今年のシニア大会は出場した90人の選手についてその選手たちが集まりやすいところで合宿を考えていただく。もちろん連盟は経済的な事情をあって十分な費用も、出せないでジュニアの選手1人について3,000千円だったと思うが、そういうような概算で費用を出して指導をしてもらう。その指導については一応地方の先生方が自由にできる構成を連盟の方へご回答をねがいたいということでお手紙を差し上げている。けれどもそれに対してどうしてほしい、ああしてほしいというようなお回答が期待するほど得られなかったわけです。しかし水泳連盟としてはそういう地方にやりいようにしたいということでもって連絡をしたので、まだ全部回答をいただいておらないので連盟としては一応ジュニアの選手を中心としたこの企画にもとづく強化合宿を計画している。その後のことについては改めてここで特別に変ったというようなことは現在のところではまだ考えていない、というのはやはり文部省その他の制約があって中学生の対抗試合ができないのでこれ以上押し進めた中学校全国大会というようなものも現状ではまだできないからで体協あたりでも何とか強化対策を打ち立てなければならぬということでもって文部省に各連盟のそういう意見をもちよってそれを緩めてもらうという方向に動いている。現在のところでは東京大会についてはその程度の構想ですが。

奥平 陸上を例にとってみると二十数年前に作られた記録が依然として残っている。吉岡さんの百メートル10秒、南部さんの記録。現在とそこを比較すると小学校の県下大会があった。中学校を五年間やって大学は4年ないし5年やってああいう記録が出来た。現在は中学生といえどもほんとうにやれる期間は極くわずかです、高等学校も3年になると試験が忙しいというので、そのころと生徒の環境が全然違う、少なくともオリンピックで優勝するとか、それに近い成績をとるといった目的のためには現在の文部省の堅いワクの中でどんなにもがいても到底望めないと思うので、できるだけ強く当たって少なくとも小学校の対抗競技も行い、中学校でやりさらに高校大学でやるというふうにならなかつたらどんなにいい方法、研究をしてもそこまでは到達できないのじゃないかと考えられるので強力に押し進めていただきたいと思う。

太田 各協会、団体の中でもとくにスキー、スケート水泳というものはできるだけ早い時期にその方向に向ってこれなければダメだということが大分文部省あたりでも分かっている、せめてものなぐさめとして水泳、陸上

はジュニアの大会ができていくというのが現在で考えられる最高の手段です。東京大会があるのでそんなことではいけないと盛んに文部省に圧力をかけているので、何とか回答があると思うが、一方文部省ではもしそういうようなワクをはずすということになると水泳の特殊性はよく分かるが、おそらく野球へ全部行ってしまうのじゃないか、だからそのワクの中でジュニア大会をやっているのがかえっていいのじゃないかということもいっている人もある。文部省が一番警戒しているのは現在の状況においてはそういうようなワクをはずしたならばあらゆる中学生が野球に行ってしまうのじゃないか、かえって悪い結果を生むのじゃないかと云う事です。しかしそうはいってもとにかく水泳と云う特殊性をなんとか認めてもらって少なくともインターミドルができるように現在盛んにいっている。これは大分前にも話があって、やらなければならないということになっているが、やはりお国のことですからなかなか思うようにいかない状態です。而しおそらく近いうちに体協の方でなんとか回答できるのじゃないかと思うのです。文部省の気持ちをうかがっていると、手前ミソのように拝察されるが、これは水泳人だから水泳に都合のいいようにいうので、やはり小、中学校の校長委員に中体連、高体連を通して文部省に教師はこういう気持であるということも全国のスポーツマンがだれがきいても分かるような方法をとってもらって下の人は働くのにやさしいのじゃないかと思う。

太田 分かるようにすると結局野球の方へみんないくだろうということなんです、ですから分らないようにやってくれということらしいのですがね。

出田 今年6月国立競技場で青少年のスポーツ活動という問題で指導者講習会があった。そのときにやはり栗本様(体協)は東京にオリンピックがくるというこの機会をとらて青少年のスポーツを発達させてその中から適材を見出す決意であると言われたので、私などはクリモトさんはそういうふうにいるが、文部省の方はどういう意向かと盛んにただした。我々がいくら活動しようとしてもできないようじゃ困まる。文部省の方から各校長に通達を出すようにしてくれということも要求して帰ったわけです。大島さん(陸上)の講演の内容も東京オリンピックが決まったからこうしなければならぬというお話だった。帰って今年7月と9月大体各学校の体育指導者をよせて県としても一応講習会をやった。地方でも水泳とか個々にはやらないがあらゆる方面にそういう活動を起こしているわけです。

赤樫 今年のジュニア指導講習会は実際は競技会形式をとり、まがりないにも名古屋でのインターミドルと云う事になったと思う。文部省としても他の競技団体に先

がけて行っている水泳教室の実績を認めてくれ、その生活指導も規則正しいので水泳連盟のやっていることは試合に近いものということも知っているが、別に悪いともいわれないのです。問題は全国ジュニア指導講習会につながる県下大会、ブロック大会を如何にして実現し、中学生を強化するかにあると思います。運営面で何とか適当にと云うものの、次官通達をタテにとる学校があれば仲々にわづらわしい事もあり簡単には行かないと思いますがどうかと云って現在でも地方によってはやっている所もあるので、その辺は都合の良い様に拡大解釈して積極化して下さい。中体連との関係もある事だし先程委員長が申しした様に最終目標は次官通達のとっばいに努力します。

奥平 水泳誌の事です、私の学校でもなるべく沢山買取りようにいっているが、中には水泳誌を買うところまでいっていない選手がいる。これからだんだん東京オリンピックも近づいてくるとああいう部厚なものは出すのに時間がかかるから新聞形式でもいいからみんなにPRの意味でもう少し回数を多くして例へば隔月くらいに出していただくと関心も高まり熱をあげてくれるのじゃないかと思う。

出田 もう一つ私の案はほとんどの学校もそうでしょうが、校長がその学校からジュニアに生徒がいくという場合に先生を出して付きそわしてやろうという気持がないのじゃないですか。私の学校は校長に話をしたら本校から2人いくのならやたらいいじゃないか、ということになったが。これからはもう少し東京のオリンピックに備えて力を入れてくれる人、あるいは選手後援をしてもらったという気持がする。遊佐君の出た学校は東京にオリンピックが決まった機会に、5カ年計画で選手の強化に校長以下全部力を入れている。そういうようになっていきたいと思います。

鈴木 いまおつしやることは昔の軍隊でいうと軍政方面のことで、そういうようなことはわれわれも考えている。学校教員はそこまで手が回らないので、そういうことをしてもらうには連盟の役員がいいのじゃないか、いろいろな制約のある条件下において、その中でやっていることなんで本当に技術指導一つをとことん迄やるにはそれだけで目がはなせなく手一杯だ。結局われわれは職人なんです。そういう考えでいくか、もう一ついまいわれたような外の方にアツピールしていくのだというふうな考えでいくか、徹底してやるには1人で二つは仲々出来ない、水陸両用作戦の重大性は私にも充分判るが、実際においてはそこまで手が回らないので、そういうことを大いにやってもらいたい。

奥平 技術的な面も大事だが、やる以上はそういうこ

ととは切り離して問題は考えられないと思う。東京大会に向っていくことになるとなお一層研究をしてやらねばならないという意欲が出てくる。それには連盟の役員の人たちだけに任かせてわれわれは現場の職人でやっておけということではわれわれは満足できない、われわれはある一つの目標を定めて次の問題も切り離しては考えられない、みな関心をもっている。だから日本のおかれたわれわれのおかれた地位というものから可能な限りにおける最大の努力ができるようなそういうシステムを考えていかねばならない。こういう機会のときにもお話しなければそういうことはなかなかお話しするチャンスがないので申上げたわけです。

根本 いろいろ聞いていて私は非常に嬉しく思ったことはいわゆるレベルをいまのオリンピック選手級の話から中学校のところへおろして話して下さいです。なぜもう十年前そういうような話が日本に出なかったかということが非常に残念に思う。私は終戦後事情があつてかつてもとつとめていた相当水泳の歴史を有する和田中学に帰った。ある校長が終戦後において選手制度を全廃してしまった為、塩水の25メートルのプールが泥や砂で埋まっていた。そこへ水泳に素人の私が帰ってきて、町の青年団に相談し、港にナワをはって水泳を始めたがそうしたときに一番困まった問題はかかして指導するかということであった。スタートの方法も何も分らんが我武者らに引っぱって行った。そうして22年の初の県下大会は偶然優勝した。そこで町が盛り上り父兄を動かし生徒も働いてプールを直した。

私の話になっておこがましいが、それから立教をはじめ各大学の選手に御世話願ひ中学生をオールジャパンに出すまでになりましたが、私を憤慨せしめたのは大学の一流選手に対してはパチパチカメラが回っているのに中学生で二百で2分24秒泳いでも全然問題にしてくれなかつた。なぜこれに目をつけてくれないだろうか、こういうものに対して激励の言葉を与えてくれなかつたらうか、激励を与えてくれたなら全国の中学生在が少しでも浮び上げてくれるのじゃないかと思つたが、実は今日の強化合宿の姿をみてこれに通ずるものがあつた。もちろん参加されている方々はオリンピック候補として恥かしくない立派な方々であるが、同時にもう一步退いてその次にくらいする選手で、中学生、高校生も入れたらその選手に与えるところのいい影響とともに残された他の中学生なり、小学生なり高校の1年生でも、そういうものに対して一つの発奮の機会を与えてやるところのものじゃないか、経費はかかるかも知れないが、次の東京オリンピックをねらうためにそういう選手もその中に包含させる方法はできなかつたらうか、あるいは来年のことを

考えたなら次にくらいする若い高校の選手あたりをその中に包含したなら私はもつと大きな飛躍があるのじゃないか、その選手を強化するだけでなく次にひかえているものの原動力になるのじゃないかとつくづく考えている

太田 こんどの合宿はローマオリンピック選手の強化合宿という名目でやった。ローマ精神をあらゆる層に広く広げて刺戟をした方がいいんじゃないかという意見もあったが、目前のローマに集中強化する為に候補も精鋭主義の少人数にした。それはよく連盟本部にも御意向を伝えこんどやる時にはそういうことを加味してやりたいと伝えておきます。こんどの合宿についてはローマ候補の合宿ということからはじめたことですから候補選手だけになったが、やはりそういう若い選手を入れて一緒にやることは非常にいいことであると考えられる。而しローマ候補選手として選ばれた人たちの効果をあげるために一まず打った手であったので、次につついているものについての強化方策はまた十分に考えてやりたい、その点は連盟の経済状態もあるので、先生方の方針をご意見として十分伝えるようにしたいと思います。

黒田 同じことを希望するのですが、水連の方で昨年度あるいは一昨年度あたりにジュニアのいい選手が高1高2でどの様な記録を出しているか、お調べになっているかも知れないが、私は偶然昨年度指導した生徒がジュニアで1位をとって今年は高1でどう伸びているか調べて見たら近年にないいい成績を出している。バック、プレスト、フリーにしろいま出しているローマオリンピックの候補が高1に出した記録を上回っているものを出している。従ってジュニアは大きく広げていただいて少なくとも高1の選手なども冬期の合宿として行きたいと痛切に考えました。

赤樫 今年のジュニア大会参加の90名は少くとも東京オリンピックに夢をたくせるので逃がさないようにして行きたい。昨年度からジュニアについての記録を全部調べているので高校1年での伸長度合も全部判ります。高校の合宿をランクだけで決めて行くとジュニアの優秀生が高校在学年の時はピックアップされないで年々の伸長率を重要資料にして今後は合宿を計画したいと考えています。

出田 日米対抗前にはあまりいい記録がなかったが、日米対抗でいい記録が出た。ぼくはこれは精神面だと思う。自分がある自信があっても中学生ならジュニアの県記録、次は市、県、3回しかない。高等学校も記録会とインターハイの県予選、ブロック別の程度ですが、そういう関係で試合数が少ないから精神面でのトレーニングをする機会にも恵まれない。例えばこんな例がある。一緒にやらないかと他の学校の選手をよせてやると競争心

がおきその結果一つ上の記録を出し、そうすると自分がその記録によって自信をもつ。学校単独で練習しても常時その記録が出る。だからいきなり名古屋の大会に連れて行って記録がどの程度伸びるかみているとふんいきに圧倒されてカチカチになって記録が出ない。ですから精神的なトレーニングも多く機会をつくってやるのがいい

太田 やはり精神面に関してオーストラリアのコーチのいっていることは暗示をかけることもコーチの技術の一つといわれているように、そういうふうな精神的なことをやったら必ずこういう記録が出ると云う。精神面でのトレーニングも非常に大切だと思う。現在では中学生なんか結局ジュニア以外には試合の経験がないということで、その選手が高校に行き経験をつんでも昔の人より試合経験が乏しいままだと思う。大きな試合になると試合経験の精神的な面が作用するので、そういう面からいえるべく早く中学生あたりからレースに出れるようにあるいは合宿などによって選手としての精神的な心構えとか、試合に臨んだときの心構えを訓練する。なるべく多く経験をつんだ方が選手の大成する上にはいいと思う。

大変話が水泳連盟の運営という方にまでいってとても私が回答しただけでは解決できないのですが、こういうふうなご意見はなかなかうかがえる機会もないので皆さん方の卒直なご意見を連盟の方にもよく伝えてなるべくご期待にそえるように努力します。これもやはり水泳連盟の経済力もあるので、例えば5年後の東京大会に対する方法というようなものもこれは現在もっている金で賄うことを考えていかなければ砂上の楼閣になる恐れがある。水泳連盟は他の運動団体と比べて日米対抗とかそういうことである程度の収入があるのでこれだけの強化対策がとれるのです。これがやはりよその団体のようにその都度どこからか寄附をあおがないとできないという状態でもないから、ある程度でき得る限りの選手の強化の方面に努力をしてもらうよう十分伝えます。

鈴木 実はオーストラリアのコンラッズが出て20代より10代がいいということですが、私の先輩に津田という人がいるが、その人の話では向うの15、16、17と日本の19、20、21は大体同じじゃないかといっています。

太田 肉体的条件は分らないが、地方によっては早く成熟するということもあるからどうでしょうか。

鈴木 短距離なんか向うは16で早いんだから日本も水泳は20代すぎてしまつたらダメなんだという考えがあると思う。

太田 肉体条件も変わってくるので年齢だけで解決もできないが、現在いろいろな面から医学的にも浮力の面から考えても20代前後のところは浮力と泳ぐ力が一番理想

的ではないかといわれている。勿論人によっては早く成熟して体が固まってしまう人と、おくてという相当年を食うまでまだ体の組織が若いという人もいるので結局年鑑できつく考える必要はないと思う。

鈴木 もう一つ技術面ですが、写真をみていると西洋の人は肩の使い方がうまい。コンラツズなんかうまいと思う。それとプレッシングですね。手と足と呼吸の三つが歯車を噛み合せたようにうまく行っている。その中で今日は肩の使い方をお聞きしたいのですが。

太田 昨日の写真で分るように肩を使って泳いでいるということはいえると思う。腕力の非常に強い外人がうまく肩を使っているのに腕力の比較的に日本選手が肩を比較的うまく使っていないということはいえると思う。感じとしてはローズの泳ぎをみても、いままでは腰は安定して真っ直ぐ保っておかなければならない、上体はいくらかローリングしてもかまわないといわれたが、ローズは腰も真横になるくらい動いている。結局体全体を使って泳ぐ、手なら手、足なら足というのじゃなくて総合された力が強よければいいのだ。ということで、豪州のコーチなんかは現在われわれがやっているのは足については10%、90%は手で泳ぐというようなことを説明しておたが、結局それは手と足の考え方というか重点をおくところの相違だけであって、決して手におけるスピードの割合が90%で、足が10%しか使っていないという意味ではないかと思う。ですからいまいわれた肩を使うということ、確かに日本の選手の泳ぎ方は肩をうまく使っていないということはいえると思う。こんどの合宿でも女子の江坂さんは非常に中学生として有望なんですけれども非常に腕が弱くて体が相当大きいので現在は効率が悪い泳ぎじゃないかと思う。この合宿に入って特に肩をうまく使う様、手の先だけで水をかくのじゃなく肩から前へ出てやる様前へ、前へ出てやるのだと云って練習させたところ、本人もそれを意識してやっていたからいままでもよりピッチも比較的好くなったし、水にもよく乗っていけるようになった感じがする。女子の場合なんかことに腕の力が弱いので肩から前へ、前へ伸びていくようにしてかけばいいのではないかと思うのです。

鈴木 それには肩が軟らかくはないといけないわけですね。

吉田 大体解剖学的にいうと肩そのものは上肢に属する。普通上肢と云うのは自由上肢でケンコウ骨とサ骨が上肢体なんです。いまの体で泳ぐというのは実にいい言葉です。スタートでも同じで、けるのではなく体が飛ぶという考え方をしているが、体全体でやる。自由上肢だけでなく上肢体が動く、そういう意味で肩を使うことが非

常に大切なことじゃないかと思う。何といっても肩の柔軟さ、後ろに行くことと横に行くことも肩の柔軟さの基準だと思うが、この方面に重点をおいて柔軟度を高めていく必要があると思う。

鈴木 冬になると棒切れをもって手をしばってそのまま後ろにもって行き、後ろで握手させたり、いろいろなことをやっているわけです。

太田 そういりことに関連して背泳なんかの場合もいまは体の横をかいているが、人間の体の構造が訓練によって楽になれば自由形と同じように体の下をかくようになり、もっと早くなると思う。

吉田 豪州の連中と日本の連中との年齢の差の話だがこれは泳ぎにもよるのじゃないかな。豪州でなぜ若い連中が強いかというのはプロコーチの下に小さい子供のうちから育てられているようで、日本の選手が泳ぐ以前にかねは2年ないし3年前に泳いでいる。泳ぎというのは伸展的な筋肉なんだから身長伸びにも影響があると思うのです。ほかの運動と違って瞬間的に強い筋肉でなく、伸び伸びとした筋肉が必要ですからその意味で小さいときから泳がしていることは発育方面からも影響があり、ことに浮力が一番ある。胸廓が非常に広がってくる時期、小学校3、4年の時期にもうすでにある程度泳いでいるということが前にも話に出たが、肺活量との問題にも引っかけられて非常に大切な事である。日本ももっとも若い世代、小学校の時代からやるべきで、中学校で初めて泳ぎを教えるようでは遅いと私は考えているそのためにはおそらく先生方は気違いのような集まりじゃないかと思うが、小学校にそういった気違いを沢山つくらなければならないと思う。山中君は輪島だけでなくおそらく北海道にもいるかも知れない、おそらく埋もれているかも知れない。小さいときからいい指導者につく事が最も大切なことじゃないかと思う。豪州の場合は食べものや生活環境にもよるでしょうが、小さいじぶんから泳がしていたそこに大きな一つの原因があるのじゃないかと思う。

太田 豪州あたりでもローマ大会の主力がメルボルンと同じようなメンバーになるのじゃないかといってあわてているようです。若い方がいいには決まっているが、選手がより集まったときに日本のロスアンゼルスのような状態というのは偶然であるか、作られたのか知らないが、そういう時にグッと出てくるのですね。

奥平 やっぱり年によって豊作と凶作がありますね(笑)

太田 ある年代にも関係があるでしょうね。

鎌田 小学校の4年以上を集めて競泳をやらしていたが、折角小学校でうまくなっても中学校へ行くと野球を

やりなさいということになる。片方はバレーボールに行くということになる。日本では野球があるが、豪州では野球がない。

鈴木 名古屋で身体が大きくて運動神経の発達しているものはみな野球へ行ってしまう。何とかものになりそうだととられてしまう、おそらくどこでもだんだんそういうふうになってくるのじゃないでしょうか。

吉田 泳ぐと運動神経が発達してくる。だから野球がやりやすくなる。何か表彰とかしておだてる必要がある

鎌田 私の方は小学校の水泳大会に賞品を与えて教育文化の名の下にやらせるが伸びていくのです。

森 ジュニアには朝日新聞社主催で全国の通信競技大会があるがそれと同様に小学生の学童通信競技のようなものをどこかで計画されるような可能性がないものでしょうか、中学校の通信競技でも5回でしたか、ようやくこれで相当力が入ってきたようですね。初期は知らないから参加したものもしないものもあったが、やはりそういうふうにやっていく中に強くなるようで、連盟で一応水連だけでも指令をとばしてランキングを作ってみようかということでもはじめていただいたら刺激があっでいいのじゃないかと思う。

太田 競泳委員会で一応小学校でやられた記録を本部に集計して20傑くらいを何らかの形で表彰することに決まっている。

金田 昭和34年度の記録を水連に報告してもらって20傑を作ることになっている。

森 私の方は作っている。

奥平 そういう話をしている。

太田 そういうことだけじゃなくて、ジュニアの放送競技ですが、ああいうようになんとかできるように、また連盟の方にもはかってみるようになります。

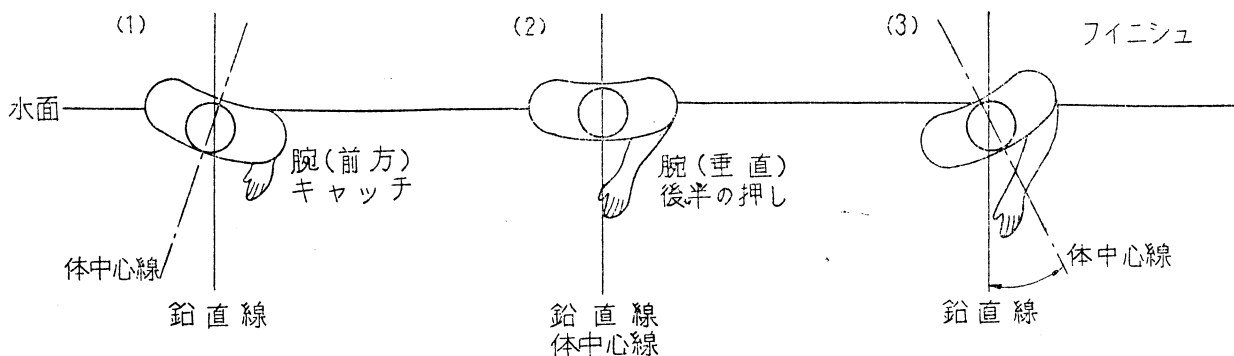
鎌田 記録会だけなら文部省はやかましくいわないと思う。

奥平 水泳を逃げないような決め手はないかという話だったが、こんどの伊勢湾台風で名古屋にあったことですが、私の学校の生徒で10日以上も家が半分以上ついていたこの生徒が水泳をやっていたのでいろいろ外部と連絡をとったり救援物資を届けたりしたために親が学校へきてうちの子供がこんどほど役に立ったことはない。家中で1人だけ水泳ができる。その娘が体力があるために大活躍してくれた。ほんとうにこんどほど水泳のありがたさが分った。と感謝された。そう云うのもまだ他にいたので、10人くらい活躍したものを集めこんどの風水害に水泳をやっていてとくに感じたことはないか聞いたところ水はこわくなかったが、風がこわかったといっている。そういう意味で、野球をやっておった選手には聞いておらないが(笑)ですから女でさえそうであったので水泳を勧めていただくときそういう実例が名古屋にあったということを強調して勧めていただきたいと思う。

太田 まだいろいろなお話をおうかがいしたいと思いますが、今日はこの程度にしてまた連盟に対する要望とかは私からでもよく申し伝えておきます。明日の解散式前に会長が皆様に会うスケジュールになっているので、そのときもお話ねがうことにしてこのくらいで今日の座談会を終らせたいと思います。どうも有難うございました。

訂正のお知らせ

機関誌第128・129号14頁の図を下図のように訂正します。



2. 水泳選手の医事面について

軀 田 幸 徳

水泳連盟に医事委員会が発足して、医事的な調査を始めたのは、今年の春からで、従ってここで皆さんにいろいろと御指導できるようなものを持ち合わせておりませんし、過去の文献を調べても散発的であって、しかもそれが自己の研究のための調査であり、皆さん方の中にもモルモットになられた方もいる事と思います。水泳選手を強くするためには、どういうことが必要か、その裏づけとなる医学的研究はどういうことをしたらいいか、そういうものは一切見られないので、そこでこの席上においては、春からの合宿などを利用して調査した結果について、気付いたこと、あるいは今後研究していく上に、こういうことをやってほしい、というような要望をむしろ承りたいという気がします。

ご存じのように、今年の春3月29日から10日間、オリンピック強化合宿、というよりオリンピックを目標として、全国から選抜された高校、中学校生徒38名について調査を行ないました。項目は身長、体重、胸囲等という体格面、肺活量、背筋力、握力など体力的な面、それから合宿中の疲労度——合宿練習はどの程度の疲労が出るかということを探る目的で行なった。その結果をみるともちろん体格、体力は文部省の全国平均と比較して上廻っているのは、ごく当たり前であって、その時気がついたことは、平均は上廻っているが体力的な面で劣る人が2、3見受けられた。こういう点を十分お考えいただいて、第一線の皆さんが選手を指導するに当って、やはり体格、体力ともにすぐれた人の方が効果は期待できる。その時に行なった疲労度についてですが、行なった項目は、尿のPH（ペーハー）、蛋白、ドナジオ反応、フリッカーテストなどで、簡単に説明を加えると、尿のPHは、疲労すると大体尿は酸性に傾むく、最も簡単な方法としては、PH試験紙をもって比色をみる。これは素人の方でもできる方法ではないかと思う。蛋白については疲労すると、疲労性蛋白が現われるので、ズルフォサルチル酸液を尿の中に1、2滴たらずだけで、これをみる事ができる。これが翌日の朝の尿の中に残っているようでは過労といえる。もっとも練習の後には蛋白は現われるが、これが翌朝マイナスになる。こうなっていけばいいわけです。ドナジオ反応、これは疲労の判定では最も確実だといわれる方法で、これは還元による方法で、

それ以外にフリッカーテストといって、電気の閃光を目でのぞかせでみる。これはちらつきを認める時と認めない時で判定する。主としてこれは精神的な疲労というものを調べるものとされているが、肉体的なものも調査できるわけです。大体これだけの項目について検査をしたわけですが、あの時の合宿ですと、初めには自動車での疲れが現われたものが出ましたが、それがだん んに緩和されてくる。それがまた練習で疲労を帯びるに従って出てくる。これは朝と練習後では違いはかなり出てくるが大体の線を見ると、疲労は加わってきている。しかし過労といえる状態ではない。あの程度の練習では疲労は加わっても過労といえる状態ではない。ただ、これが10日以後にどうなっていくか、あるいは過労の状態に入っていくのか、ということは現在のところ不明である。確かに疲れてはいくが、体力的な調査面からみると、むしろ上昇していく。疲れてはいくが体力は増強されていく、これは運動効果を現わすものではないかと考えられる。だからあの程度の練習では、疲れはするが大した疲れではない。むしろ運動面、運動効果ということを対象にすれば、非常に効果があるものである。ということは自信をもっていえる。大体この程度のことしか判明しない。10日間から先のことは、チャンスがあったら調べてみたい。

その次に、日米対抗の時に、日本の選手と米国の選手を比較してみた。これは一応世界の水準をいく方々で、水泳を行なうには、練習をしていって、最も完成されたものと思われるので調査してみた。日本の選手を米国の選手と比較すると、日本の選手が体格、体力ともに劣るこれは常識的なことである。もちろん日本の選手は、他の運動選手と比較して上廻っているし、特に水泳選手は胸囲が非常に発達している。以前オリンピック選手の体型について調べたことがあるが、その時も水泳選手は広胸型が非常に多い。今度の結果においても胸囲が非常に上廻っている。ただ日本の選手が、数値の多かったのは座高だけだが、これは決して多いからよいことではない。大体、米国の選手の身長が平均180、日本は159。山中あたりが大体このくらいのところ。そうすると座高は米国が93、日本が91で、向うは確かに高いが、差をとってみると、日本の選手は非常に足が短い。比座高とし

て、数値は日本の方が多い。即ち日本の選手は足が短かい、10センチくらい短かいということは、スタートとかターンに劣る宿命ではないかと思う。そこで皆さん方に要望したいのは、足が短かいという体力的ギャップは如何ともしがたいが、それをカバーする。あるいは強くするにはどうしたらいいか、ということは今後いろいろ研究していただきたい。要するに座高が長ければ、折れ曲がり方がどうしてもカジが短かいので、何かこういう点を研究して、この宿命を打破していただかねばならない。

日米対抗の際にも、日本の選手だけにやはり、前述の4つの疲労検査を試合前の合宿中に調査した。この合宿では、どちらかという試合に臨むためのコンディション調整ということになるわけですが、ここでも合宿2、3日目に、大体3日目が多いが、疲労が現われている。その後は持ち直し、試合前日にはいいコンディションとなり、試合に臨むことができた。試合の時はやはり上廻ってくるが、一番最後の日に測定した時には、みんなが最初の時以下に下っている。これは下るのが当然だと思う。2、3の人はこの2、3日目の下り具合が大きいので、太田さんとも協議して、少し対策を講じた方がいいのではないかと監督に伝えてある。その後これを上昇の方向にもっていく、もちろん精神的な面とかみんなの意欲を燃やすとか、身体の状態を整える、ということも監督は苦勞をしていた。あれだけ劣勢を予想された日米対抗に日本が勝つことができたが、そのコンディションの調整ということには、やはり今後は大いに科学的に選手の身体の状態を把握して、それを参考にしてコンディションを調整していくことも必要ではなかろうかと思う。

日米対抗の選手については、このほかに身体柔軟度というものを測定した。(柔軟度については東大体育研究室の方々の調査されたもので、これについては別に掲載してあるので省略する)

柔軟度は7月に測った選手が、やはりこの度オリンピック候補として合宿しているものですから同様な調査、身長、体重、胸囲、並びに柔軟度というものを、合宿第1日目に調査したところ、20歳すぎの選手は、わずか2カ月、3カ月の間に、みんな柔軟度は悪くなっている。それ以下の選手、18歳、19歳の選手はそう劣っていないこれは水泳選手で、何か20歳ぐらゐを境にして記録が伸びないかあるいは下り坂に入っていくというようなものにも、こういうことが関係しているのではないかと、思われる。全体的なものも関係するわけだが、そこで私がいいたいのは、やはり20歳すぎの選手が、自己の記録を保持しこれを一層伸ばしていこうと思えば、ふだん絶えず身体に節制を加えて、自分の身体をもたしていかなければ

ならないと思う。ローズが菜食主義といわれているが、菜食主義自体がいいことではなく、彼がそれだけ自分の身体というものを、絶えず調整している、ということを行っているのではないかと思う。

こういうふうに調査すると、いろいろ体格、体力、あるいは柔軟度というものにおいて、各人の欠点が見えるわけですね。背筋力、肺活量の少ないものは、体力をつけてやるような運動を行なう必要があると思う。柔軟性の足りないものなど、各人のどこが足りないか、他の方がよくても足首が足りないとか、そういうようなものを十分指導者の方々が知ってそれに対する対策を講じていくということが必要じゃないかと思う。それでは柔軟性をつける方法はどういうふうにしたらいいか、ということについては私どもまだ分かりません。もちろん水泳をやっているだけでも十分こういうことを把握しておいて、そういう欠点をできるだけ少なくしていく、ということができれば、選手各人が自分の身体を考えに入れて、この身体を自分で訓練できるようになるのではないかと。この方法を説明したのは、簡単な方法であり、だれでもできる方法だから、ぜひ行なっていただきたい。

先ほど疲労を調べるのに、それはどうしたらいいかというので、簡単な方法として、PH試験紙による尿のPH測定、蛋白の測定を述べたが、この二つぐらゐは簡単にできることでもあり、こういうことも念頭に入れていただいて、やはり選手のコンディションを調整する必要がある時には、科学的に多少ともその対策を講じていただきたい。

大体調査事項はそういうことですが、なおいろいろな方面を検討して、水泳を強くするためにはどういうことがいいか、その医学的裏付けというようなものを、どんどん押し進めていきたいと思う。余談になるが、日米対抗などになると、非常に選手が眠れない。そういうことで疲労が出るということもあるので、ウソの眠り薬をのませてやる。那須なんかは、あの薬はききすぎるからのまない、という始末になったが、何でもない乳糖を眠り薬としてやっただけでそういうこともあるし精神的な面も相当にある。そんなことでもやっで疲労を回復する。これは何といっても休養になり、休養をとるためには、やはりそういうことも問題になる。だまし、だましやっていく、ということも必要になるのではないかと。

以上で私の話を終って、あとは御質問、あるいは、こういうことをやってほしい、という希望があれば、できるだけお答えしたい。

問 尿の検査のPH、蛋白の調査についてももう一度方法を

答 尿を試験管、またはピーカーに入れてそれにPH試験紙を入れるだけです。するとこの試験紙の色が変わるこれを比色表——PH試験紙と一緒に同封されているが——の色と、この試験紙を見比べる。大体比色表の7を中心にして、酸性に傾けば悪い、ということを見る。どのへんになるかを肉眼的に見るわけです。もちろんわれわれは電気比色計を使っているが、簡単にできるこの程度のもので十分と思う。保健所にもあるが、薬局よりは科学実験道具を売るところにある。学校の化学の先生に聞けば簡単に分かると思う。蛋白については、ズルフォサルチル酸液を、前と同様にとった尿に1、2滴たらすると蛋白のある場合は白く濁る。その白く濁る具合によってプラス1、2、3とつけるわけですが、要するに濁るようではよくない。とても全部を検査するわけにはいかないから、非常に疲れたとか、疲れたような恰好をしているところを気づかれたら、そのものの朝の尿をとって調べていけばいいのではないか、この尿がアルカリ性の場合に、よく濁ることがあるが、そういう時には酢酸をちょっとたらし酸性にして調べた方がいいと思う朝の方が蛋白を調べるにはいい。というのは、練習の後だと、やはり疲労は現われているのでみな陽性になる。PHも酸性になる。これがならぬくらいの練習ではまた困ると思う。朝起きて、それが回復しているかどうか、ということが問題で、前日の疲労が朝起きて回復していたら、これは疲労とはいえない。蓄積疲労ということさえなければ。これが蛋白が余計に出るということは、すでに病的に入り、翌くる日になって蛋白があるというような時は、病的兆候とみなしてもいい。

問 医者が尿の検査をただけで、腎臓が悪いから運動をやめろということがある。運動のできる経験豊かな先生ならいいが、それだけでやられるおそれもある。

答 運動選手は練習期間には必ずある。それを直ちに病的にされては、みんな病人になってしまう。この程度の試験では、これだけをもっては判定はできない。私もスピーグレル氏液を使って、両方でプラスになった場合に初めてプラスとする。片方がプラスで片方がマイナスなら、これははっきりしたことはいわない。これだけをもって病気にされては、人間の半分ぐらいが病気になる。選手が練習の後で医者にいけばみんな病人になってしまう。そういう場合に、どういう目的で医者にみせるのかをはっきりしなければならぬ。風邪をひいたじゃないかということちょっとやせた。練習中の合宿でだるいというので医者にみせたら、急性腎臓といわれ、1週間休ませたら、これで最高のものになって、泳ぐと記録が上ってくる、にもかかわらず医者はやめさせろといってくることもあり両方をやらねば本当のことはいえな

い。

問 合宿3日目にマイナスになり、それから疲労が回復していったというが、3日目から試合までの日数は、

答 13日から19日まで合宿で、あとが試合となっている。13日の第1日目は集合だけで、15、16日にかけて落ちてくる。合宿3日目、あるいは4日目になる。だから泳いだのは1日か2日というところですよ。もちろんこの日米対抗の前に全日本があって、みんな非常に練習をつんできている。それが一度休んで、それから始めるからガタッと落ちるのではないかと、いろいろな疲労がたまっているのではないかと、思う、1日休んで、ある程度回復して合宿に集まる。それからまたずっと下って、あとは上ってくる。そして試合第1日、第2日になっていい状態に上って、3日目にガタッと落ちる。だから試合が4日続いたらどうなるか、という気がする。やはりそういう点において体格、体力の劣りというものが、オリンピックとか、そういう長いレースになって、予選、決勝、予選、決勝というものになると、日本の選手ではよほど元気な人でないと、ということは若手の疲れを知らないような選手、というような人でないと、大きい試合で、長く続くような試合には、最後の決勝でいい記録はのぞめないのではないかと、いう気がする。日米対抗でも4日間あれば、最後の日はダメかもしれない。

問 選手の年令的なものと疲労度の関係はどういうものか。

答 あの時にはなかった。その時は若いとかいうことに関係なしにやったわけで、福井なんか九州から出てきて、同じ線でやってはできない、というくらいはあったが、東京の選手に下るものが出てきたりして、軽く休ませたり、あるいはウソの眠り薬をやったりして上げていった。

問 一般的傾向として、水泳選手の年令的な差というのは非常に少らいわけです。18歳から21歳というわずかな差ですが、それをもって同じ量の練習を同じようにやって、しかも疲労度そのものにおいては、そう大きい差は個々はみられないか。

答 この時の練習方法では、はっきりいえば古賀とか長谷は多少練習の制限があったのではないかと。そのために疲労は大体どの選手も同じように現われなし、その後だんだんに回復している状態だった。果して若いものと一緒に泳がしたらどうか、ということはいえない。ただいえることは、年をとった選手、例えば20歳すぎの人こそ、もっとふだんに練習を十分に積んでおいて、こういう試合の前になって、初めて1週間ぐらい前から練習量を調整していった方が、その人の記録は向上していくと思う。それがどうもみていると逆のような感じで、

ベテランというか、年をとった選手は社会人になったせいもあるが、ふだんはブラブラしており、試合の前になって、ちょっぴり練習する、そしてまたダラダラとやって、試合前にやる、という傾向がある。これはむしろ逆にもっていった方がいいのではないか。相撲なんか非常に年をとって伸びたという人がいるが、やはり自分の身体を一応注意し出した人ばかりです。野球の選手でもそうだ。練習量はふだんものすごくやっている。相撲ではけいこですね。場所前になると、簡単に自分の得手だけをちょいちょいやっている。そういうようなことで星をうまく残していく、ということをやっている。やはり同一ではいけないが、水泳の選手もそのくらいの気構えをもっていなければならないと思う。特に体力あるいは柔軟度というものは、ちょっと休んだだけで、20歳すぎの選手は劣っているんですから、十分ふだんから体力的な身体的条件をカバーする方法を絶えず心においていかなければならないと思う。

問 足首の柔軟度では角度のマキシマムはどのくらいか、普通の人間の場合では

答 それは分からない、正常な人間はどこからどこまでということはいえない。ただいろいろ比較していく以外に手が無い。こういう比較をもって、水泳の選手は大体どれよりも沢山なければならぬ。どれよりもっと多い方がいい、ということ推定するだけです。

問 スポーツマンホテルに、合宿している選手の個人別には○印があったりしたが、あれは何を基準にしているか、

答 過去の調査を基にして、水泳選手としてはもう少し柔軟であってほしいとかいうもので、もちろん水泳選手は正常な人よりも指数はいいわけですから、悪いというわけではない。ただこちらのカンでやった。

問 われわれも水泳選手について柔軟度をみるわけだが、その時に基準としてみるのはどれをとるか

答 大体これらの表を基準にさせていただいたらいい、若い人ほど柔軟になっているからこのくらいを基準にして、それより悪い人には、特にお前は足首が悪いとかいってやればいい、それをどういうふうにして増すか、ということは私はよく分からない。一例をあげれば、長距離の梅本は足首だけが非常に固い。そこでバタ足を水の中で、できるだけうたすようなピーテングをやらせて、その後測ったら、ずい分柔らかくなっている。しかしそれでも足りないが、それでも彼には非常にスプリントがついている。そういうふうにごく悪いところのある人には、何か方法を講じてやっていけばいい、これは皆さん方の方がむしろ経験されており、それぞれの場合にこうしたらいい、という腹案があるのではないか、この

ことは後ほどお互いに雑談でもされて、自分はこうしてやった。この方法がいい、ということを検討してもらったら幸いである。

問 過労性関節疾患を医者にみせても治り切らないのが多い。特にヒザですが、これの適切な治療法について

答 大体、ヒザの疾患、関節炎はわれわれの治しにくい病気の一つで、もちろんレントゲンをとっても変化はないし、表からみてもそう変化はない、ただひどいのは水がたまり熱が関節のまわりに少しあるという程度で、それで階段の上り下りに辛いと訴えてくる。この原因が分からないということが非常に多い。要するに、その人は何か関節炎を起こすリュウマチ性の体質とか、そういうものがあるわけです。それが過労になると、リュウマチを惹起して関節炎を起こす、ということではないか、やはりそういった原因があって、過労になると関節炎を起こしてくる。それでじっとしておればすぐ治る、というようなことではないか、陸上の選手がそうならばそれはもうダメだということだが、水泳選手の場合は、水に浮いており、足で体重を支えないということもあるためか、まだいい、ということはあるが、対策は難しい。

問 柔軟度の測定は、強じん度のテストのように、陸上競技の幅跳びとか、体力テストでやる懸垂の方法というもので測定するのは他にないか、お前は肩が強いが、腕が弱い、ということフオームみるだけで判定はできないか。

答 現わす方法はあるにはあるが、非常に専門的な力加わってくる。足なら足、手なら手をわれわれが測ってみても、それは足だけの力ではない。やはり身体の力が入っている、ということもあって、まだ完成されて、手足の力をそれぞれ分けて測る、という方法はない。やはり総合的な力、ということになって、そういうもので判定していく以外に方法はないと思う。そういう点でいまの方法が決していい方法ではないし、また肩なんかでも問題はあつた。多少の誤差も出てくるが、そういうものを検討していつ、日本人の柔軟度というものを決めていきたい。

問 大体によい人は関節が柔らかいということだが、身体が柔らかいということは関節が柔らかい、関節が柔らかいということは筋肉が柔らかい、ということになるか。

答 大体関節そのものは、骨と骨がつながっているだけで、それを動かすものは筋肉である。そうしたものをひくくめたものであって、骨の動きはみな同じだと思う。特別以上に関節の動きがよくなっているとかいうことはない。

問 いわゆる固い中でも適切な方法によればだんだん

柔らかくなるか。

答 必ず柔らかくすることができる。だからそういうことのために、欠点を見つけてやって、直していく必要があるのではないか。

問 日本選手に比べて外国選手の方が身体が固いというが、記録的には日本人を上回っていることを考えるならば、体力的にまさっているからということだけか、それとも泳ぎというものはバランスが一番大切だが、バランスでそれだけの記録を出しているのか、この点がはっきり分らないが。

答 分かりません。ただそういういろいろなことを調べていって、比較したりして、そう考えられるのではないか、ということでは総合されていくわけです。これをもって、これがいいからいいのだとはいえない。日本の選手でも身体が固くても好記録を出している人もいますが、大体好記録をもつ選手、例えば山中みみたいな選手はやはり柔らかい、米国でも平均は下回っているが、いい記録を出している選手はやはり柔らかい、ソマーズあたりは足首は非常に固い、ああいう変則打法をやっているせいもあるかもしれないが、彼がいいピーティングをやっていたら、恐るべきものではないかとも思う。

問 食べ物と柔軟度の関係はあるか。

答 関係ありません。

問 PH試験で比色表の数字と疲労度との関係はどうか。

答 酸性に傾けば疲労しているということで、6よりも5、という数字の判定は難しい。数字がそのまま疲労の数字とはいえないから6よりも5だから、まあいいということはいえない。

問 運動選手の脈はくはどうか。

答 欧州、ソ連あたりでは、運動選手の心電図をとりそういうものを分解しているようだが、データーが入ってこないで分からないが、こちらでもだんだんにそういうことも調べていかなければならないと思う。

問 体前屈の場合、足首をあまり問題にしないが、この場合にはゼロ以上のこともあるのではないか。

答 足首を伸ばしたりして、足首によって大分制限があるかもしれないが、やかましくいっていない。ゼロ以上のマイナスの場合もあり得るが、実際問題として測れない。イスを並べて、その間で測って見たらというが、確かにマイナスの場合もあると思う。

(講師は本連盟常務理事、医事委員長)

昭和33,34年度プール公認

昭和33年度

番号	プール名	長さ	加盟団体
2(再)	甲子園大プール	50m	兵庫
24(再)	会津若松市営水泳場	50	福島
29(再)	県営岐阜プール	50	岐阜
32(再)	大宮公園県営プール	50	埼玉
37(再)	岡山総合運動場プール	50	岡山
75	信愛高校競泳プール	50	静岡
76	掛川市立東中学校プール	50	〃
77	東京都屋内水泳場	50	東京
78	篠原中学校競泳プール	50	静岡
79	袋井中学校競泳プール	50	〃
80	富山県営高岡プール	50	富山
81	鳥取農高プール	50	鳥取
82	思田公園プール	50	山口
83	布施市営プール	50	大阪
84	吉原第一中学校プール	50	静岡

昭和34年度

番号	プール名	長さ	加盟団体
9(再)	呉市営二河プール	50m	広島
36(再)	西京極運動公園プール	50	京都
40(再)	神戸市民運動場プール	50	兵庫
44(再)	伊集院高校プール	50	鹿児島
85	服部緑地競泳池	50	大阪
86	愛知淑徳学園プール	50	愛知
87	浜松工業高校プール	50	静岡
88	豊田中学校プール	50	〃
89	熊本県営熊本城プール	50	熊本
90	徳島市民プール	50	徳島
91	河北中学校プール	50	鳥取
92	詫間中学校プール	50	香川
93	北島中学校プール	50	徳島

(25mプールの公認は次号に記載する)

3. 泳法研究の出発点

角野 晃 二

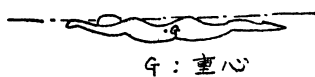
泳法の科学的分析は、海外では可成熱心に研究されているようであるが、水連機関誌の紹介からも察せられるように、進歩しているのは主として医学的面であって、力学的研究がコーチ上に大きく役立ったという話は余り耳にしない。併しながら、それだけに、返って基礎的な研究が地道に進められているやも知れず、我々としても、いたづらに安閑たり得ないと思う。

この面の研究としては、我国では、既に、1930年代に、石本巳四雄、斎藤武五郎、松沢一鶴等の諸先輩によって、亦別に、山県昌夫、土田陽等の造船学者によって、人体の水中に於ける推進抵抗に関する模型実験が諸外国に先んじて行われ、結論的なものも導出されたようであるが、当時のデータは散逸し、その後は実験もたえてなく、現在に至ったことは、まことに残念なことである。

そのようなわけで、現在私の手元にも、定量的な資料は何一つ揃っていない。従って今から述べる事柄も極めて疎雑な初等力学的考察と云うか、或は、むしろ経験者の方が詳しい泳法の現象的観察の域を出ないようなもので、専門家を前に話すのは、聊か釈迦に説法の感さえあり、恐縮であるが、併しこれを専門家を対象としたものでなく、選手に泳ぎを理解させるためのコーチ上の参考として、きいて戴ければ幸いである。

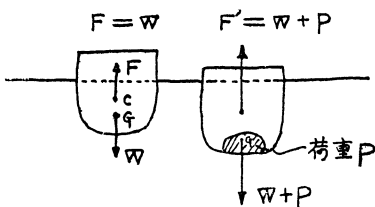
1. 水中の人体の均合

人体の均合



G: 重心

船の均合



G: 重心 C: 浮心
W: 船の自重(排水量)
F: 浮力 P: 荷重
F': 荷重 P を加えたときの浮力

先づ初めに、常識的にも明らかなことと思われるが、人体の比重は、ほぼ一に近いため静かに伏した姿勢又は仰いだ姿勢で浮んでみるとわかるように、水上にでる部分は僅かで大部分は水中にあって、均合うが、その安定性は非常に悪い。今、これを船の

場合と比較してみるに、船に荷重 P を加えると、水中容積(排水量)が増し、従ってそれだけ浮力が増加して均合う。

所が水中の人体では、排水量の増加に余裕がないので、僅かな外力が加わるだけで、水中にもぐることになる。即ち、ヒービング(上下動)やピッチング(重心のまわりのシーソー運動)を起しやすい。(図 I)そして、この種の現象は次に述べる進行を妨げる水の抵抗と非常に密接な関係をもつものである。

2. 水の推進抵抗

先に述べたように、泳行中の人体は安定性は悪いけれども、ともかく鉛直方向(上下)には均合状態にあるので、進むためには、水から受ける抵抗力に打勝てばよいわけである。そして、その限りでは、船と少しもかわりはなく、流体力学や水槽実験により、水の抵抗は大体、次のような成分から成立っていると考えられる。

全抵抗力 { 摩擦抵抗
 { 形状抵抗
 { 渦抵抗その他

(i) 摩擦抵抗 (frictional resistance): これは表面の滑らかさに関係し、水浸表面積に比例するものである。所で人体の皮膚の滑度にそれ程の差はないだろうし、又肥った人とやせた人では表面積には可成の差があるけれども、個人については一定不変で、この抵抗は如何ともしがたいものである。

よく水に乗った泳ぎといっても、それは多分に主観的誇張であって、矢張り、写真でみると大部分は水中にあり、水浸面積が大巾に減少するとは考えられない。

(ii) 造波抵抗 (wave (making) resistance): これは水面に波を作るために失うエネルギーを意味し、体型(姿勢)、動作の如何によって大幅に変化する。先に述べた、ヒービング、ピッチングをするとこれが非常に増加する。例えば波浪中で船のスピードが落ちるのも同じ理由によるものである。

(iii) 渦抵抗 (eddy resistance): 物体が水中を進むとき後方に渦を生じ、これが抗力を作る。

体型を所謂流線型にすれば渦を少なくすることができ、この抵抗の減少をはかることが可能である。

尚、摩擦抵抗に対して、造波及び渦抵抗は何れも、体

形に依存するから、これを合せて、形状抵抗と呼ぶことがある。

人体が2秒米近くで泳ぐ場合は、造波抵抗が相当大で、形状抵抗が全抗力の70%は下らないのではなかろうか。

この推測は、平泳で潜水が有利であったことから、或程度納得できるように思う。

従って、形状抵抗を少なくすることが、泳法技術に於て、大切な要素であることに間違いない。只その先の分析は船の場合のように簡単ではない。というのは、船では、船体と推進器を切離して取扱えるが、泳法の場合は、腕、脚、腰の動作が体型を変え、形状抵抗を作ると同時に一方では推進力の原因でもあるわけで、分析を非常に複雑なものにしているからである。

3. 抵抗の実験について

2. で述べたように、実際の 泳行状態の抵抗値を直接実験的に求めることは、非常に困難な問題を含んでいる。併し、我々は単純な実験を積みかさねて行くことによって、この問題に迫ることも可能であると思われる。

(i) 曳行試験

試験体：実際の人体数列 及びポリチエリンその他の各種泳法の基本姿勢（ポーズ）

- 測定種目：① 肥瘦度による抵抗差
 ② 模型を使用することによる誤差（模型の信頼度）
 ③ 実際の泳行状態と水中深く曳行した場合の抵抗差
 ④ 体と水面の角度による抵抗変化
 ⑤ 試験体にピッチングを加えること、又は波浪中の曳行による抵抗増加。

などを測定することかできる。従って、実際の泳行状態の摩擦抵抗、造波抵抗値も、或る程度、定量的に推定できるのではなかろうか。

(ii) 自行試験

クロールストローク、その他の泳法に近い動作をなし得る模型の作製は、困難ではあろうが、現在の機械技術で不可能ともいえない。若し、これが実現すれば、腕脚のバランスやビートの打幅の有効度などを実験的に研究できることになる。

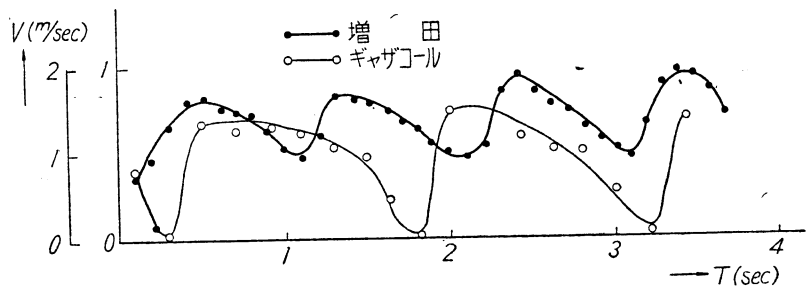
アーム・ストロークの模型はむずかしいかも知れな

いが、ビートの方は案外簡単ではなかろうか。

その他、定常流又は、風洞実験により、ドルフィンキックビートによる渦発生の問題の実験が考えられる。

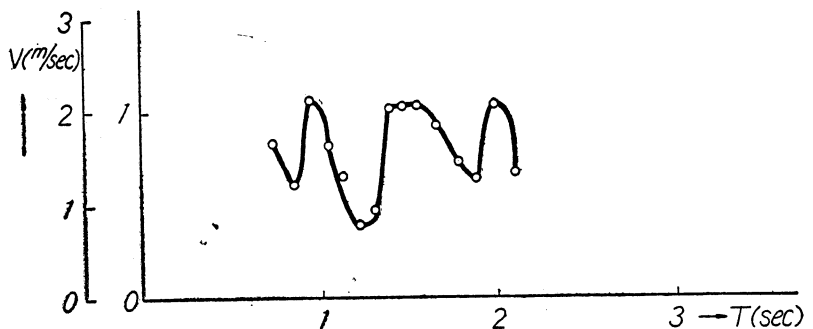
(iii) 泳行速度曲線について

1ピッチ中の速度変化は、平泳やドルフィン泳法では非常に大きい。そして、これをなくすることは、泳法自体の制約から不可能なことであろう。併し、力学的には速度変化がなく一定速度で進むのが、一番、エネルギーロスが少ないわけで、この意味から、クロール・ストロークや、バックストロークは平泳、ドルフィン泳法より効率のよい泳法といえる。また、同じクロールに於ても、巧拙によって、フォームの違いによって、速度変化に差があるかどうかとも、興味ある問題で、我々は、日豪水上に於ける山中とJ・コンラツの速度曲線を比較しようとしたが、精度不足で失敗した。併し、このことは、彼等の泳ぎに於ては、速度変化が、0.5秒米以下であるという証拠には、少くともなったと思われる。平泳では増



田、ギャザコール両選手の曲線を比較し、ギャザコールには一瞬、殆んど、速度ゼロのポイントがあり、増田にはないが、それに引きかえ、速度の谷の時間が非常に長いことがわかった。

その他、石本選手のドルフィン曲線が求めてある、現在のところ、これらの曲線は、全く試験的なものに過ぎないが、測定数を多くして比較研究すれば、可成の利用価値を持つものと思う。



4. クロールストロークの考察

先に述べたような力学的考察をクロール・ストロークに適用し、一連の推定を導出しておくことは、定量的

な研究への指針として大切であると思う。

(i) 先手の動作と腕運びのバランス

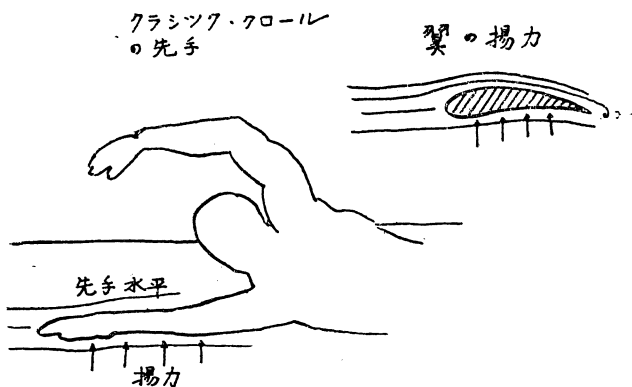
写真(後掲)は日豪大会当時の山中選手(最近のものではない)をモデルとしたもので、決して悪い泳ぎではなく、これから述べる泳ぎの要点のビシビシ合った立派なものである。只問題は両腕のバランス、換言すると、先手のおさえ(遊び)にあると思う。即ち

右腕を抜上げてから水上を前方に運び終る迄左腕をかいていない。従ってその間は、腕による推進力は全然作用していないわけである。泳者にとって、腕のかきは、船の推進器に相当するから、船のプロペラの回転を0.5秒の間隔で断続しているようなものである。

併し、この問題は、今に始まったことではなく、ヘルシンキ時代から論議の中心になって居り、現在は、特に、やかましくコーチされていることで、今更、力学面から指摘する必要はなかったかも知れない。只、私は、未だ、2,3の泳者を除いて、この点を正しく克服したとは思はない。

実は、正直に言って、私自身初めはこの点についての競泳委員会や齋藤武五郎氏の急進的、改革論に疑問をもち、追隨しかねた。

豪州でも、M・ローズは、全く先手をおさえた図のようなフォームであり、また、同じD・タルボットのコーチを受けながら、妹のI・コンラツズは、兄とは違って、矢張り先手をおさえている。この腕のバランスは、キップス好みでもあり、我国でも、特におさえるよう躰けられた時代もあり、日米クロールの特徴と見做すものもあつたようである。所で何故、このような常識的にも無駄の明らかな腕運びがクロールの標準型にまでなりかけていたかについては、一応の力学的理由はある。即ち前述の如く、泳行中の人体の均合は極めて不安定であるところにもつてきて、クロールはビートが、常に下半身に上向きの反力を与え、ピッチングして上半身が伏さり、水にもぐらんとする傾向をもつ、そして先手のおさえとは、水中に水平に伸ばされた腕が、丁度飛行機の翼の作用をなし、もっとも抵抗少なく、浮力を上体と与えピッチングを防ぐ役割をすることである(下図)



もぐりの一番強いのは、腕が頭上にあるときで、腕の分だけ上体の浮力が減少しているのである。注意すべきは、バックストロークではキックは逆に上体を押し上げる作用をもち、腕を空中に上げて、余りピッチングの心配はない。

ピッチングは非常に造波抵抗を増大させるものであるから、先手のおさえで、これを防げば一応なめらかな安定した泳ぎが出来るわけである。

以上のように先手の遊びにも一応の意味があるが、それを止めて、ピッチングを避けることが出来るかと云うことが、重要な課題であろう。それには、先づよい手本として、J・コンラツズ写真(後掲)と石原のフォームを分析する必要がある。彼等の泳ぎは、全然肩がもぐらない。女子では矢張りD・フレーザーが、彼等に近い泳ぎを身につけている。水に入れた腕を直ぐかくには相当腕力がなくては、との考えも一般にあるかも知れない。勿論腕力が不要というのではないが、腕力が強くても、肩腕の使方と、腕、脚間のタイミングが悪くては不可能であろう。例を挙げるならば

戦後古橋選手以来、先手をおさえないクロールも相当あり、むしろアメリカより多かったかも知れないが、古橋以外はどうも腕を一気にかいてなかったと思われる。彼等は腕を水平に伸ばしておくかわりに、顔の真下までゆるゆるとかき降り、それから押すといった二段モーションになって居り、前半は、かくというより、底をさらえるような恰好で、体に直角になっているだけに、推進力より、むしろ抵抗の原因になっている。こういった泳ぎより、腕は水平に伸ばして止めた方がましというわけである。彼等の泳ぎは、みた眼にも、肩の落ちたときのガタが大きく、スムーズでない。

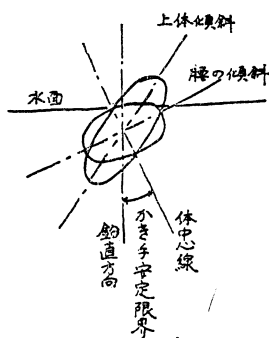
(ii) 体と水面の角度の問題 J・コンラツズのフォームは上体が起きて居る。この点は、M・ローズと比較すると対照的なところがよくわかるが、体は水平と幾分立つのと、抵抗はどちらが少ないかは、よく問題にされる。石本博士らの水槽実験の結論については、詳しいところを知らないのであるが、私は、この問題については、体型自体の相違による抵抗の差よりも、ビートとの関係の方が重要のように思う、即ち、体が水平では、ビートが水上に出て効率が悪くなることに間違いなく、この面のマイナスが大きいと思う。

ビートというものは、板子練習からもわかるように、強く打てば打つ程、反動で水上に足が出る、従って脚だけで上体を起し、ビートを深くすることは不可能であり、上体を起すのは、腕の作用であることを注意しておきたい。

右アーム後上と左足第3ビートの一致——右脚が上りローリング安定(ローリングマキシмумポイント)



かき手(後半の押し)の安定範囲



(iii) ビート数及びビートとアームストロークの関連

クロール・ストロークの1ピッチ間のビート数には、2,4,6, など種々あるが、一番多いのは、6及び4ビートであろう。併し、同じ6ビートにも、ノルマルとリヴァースがある。右腕ストロークに合わせて、ビートを右—左—腕を抜上げて、右と3打し、次いで左腕ストロークに移り、同様に、左—右—左と連続するもの、これがノルマルである。所が、リヴァースというのは、右腕のストロークに対して、ビートが左—右—左となるもので、力学的に重要な相違点は3つ挙げられる。

先づ第一の点は、腕を抜上げた直後の姿勢は、もっともローリングの強いときであるが、ノルマルでは、このとき、同じ側の足のビート(第3ビート)が入るので、反対側の足が上り、ローリングに対する安定なバランスが保てる。従って、かき腕は鉛直線迄内側に入っても、不安定になる懼はない。

所が、リヴァースでは、反対側の足のビートが入るので、同じ側の足が上り、不安定になり、転ってしまう、だからリヴァースのバランスでは、腰を支点とするビートは不可能であって、腰を浮かせてあおる他ない。

4ビート・クロールでは、左右のアームストロークに対して2つつつのものは、例えば、右腕ストロークにビートを右—左と打つとすると、次の左腕ストロークでは、ビートは右—左とならざるを得ないから、どうしても片側リヴァースになる。

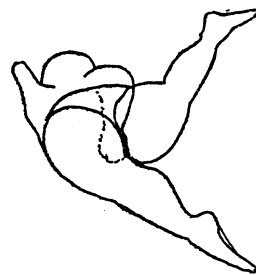
ノルマル4ビートと云うのは、例えば、左腕ストロークに、左—右—左とビートし、右腕ストロークには、右—というふうにして1つ打ち、丁度、ノルマル6ビートの残り2ビートを休んだ、3—1のバランスのもので、これなら、ローリングは安定である、古橋、M・ローズがこれに属している。従来、上体は、ロールしても、腰はひねらないし、ひねってはいけないものと思われていたようであるが、上体より角度は少ないけれども、矢張り、傾斜するし、またしないようでは強力なビートにはならないと思う、この点は水中写真をみれば明らかである。

尚あおり足は必ずしも悪くない、只膝の折れるあおりは渦抵抗を増す意味で拙いが、膝を折らないあおりは、丁度舟の櫓の作用に似てをり、充分研究の余地がある。併し腰が浮き、上体が伏さる体型的な不安定さはどうしても、つきまとい、スプリントの切換には不向きのように思われる。

(iv) 腕脚推進力のタイミングと上体のかき起し、

腕、脚のバランスの第2、第3の要点は腕(右)のストロークの後半即ち顔の真下からフィニッシュまでの押腕と反対側の足のビート(第2ビート)が一致し、

右アーム ストローク 後半の押しと第2ビート(左)の一致(推進力マキシмумポイント)



の中心線にに向って作用しあうことである。これが、クロール・ストロークの最大の推進力と考えられる。

背泳に於ても、うらがえしの姿勢で、同じポイントがあるが、只背泳では、ここが逆足では、とても泳ぎにならない、クロールでは、自由が効くため、反って不利なバランスに落つく危険性が多い。そこで、ノルマルビートでは、右腕のかき起しと右足第一ビートが合致することになる。これが、先手をおさえず、反対側の腕が頭上にある間に、かき起しても、肩の落ちないための要素と考える。尚、腕は伸ばしたままキヤッチしても、直ぐに、少し曲げて、かき起す方が、肩の力を利用して、フオーしやすいうように私は思う。(この点については、異論も多く専門的検討を願いたい)

以上で、クロール、ストロークの腕のリズムから、ビートの正逆、数など、フォーム論の概略を述べたが、最後に注意すべきことは、こういったフォームの特質は、一般に考えられがちなように、決して、個性により決まるものではなく、自由に作り、また改められるものであると云うことである。例えば、M・ローズはスプリントを効かすときには、意識的に4ビートを6ビートにかえている。只、これらの泳法動作は、単純そうにみえて、実は非常に巧緻な運動であり、少しのタイミングのずれで、力学的状態が変り、意味がなくなることが多いので、改めるには、基本になるポイントを正しく把握して、うまくパターンを換えてやる必要がある。

このときは、名取教授の話では、生理学的にも充分証明できることのようなのである。

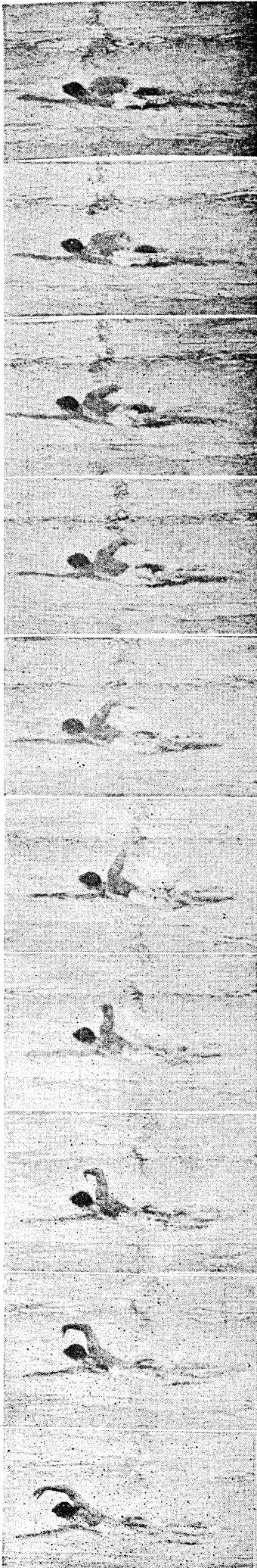
以上の話は、力学的考察の域を出ないものであるが、今後の定量的研究えの手掛りを与えるものとして、まんながら無意義でもないと思う。

(講師は東大生産技術研究所々員)

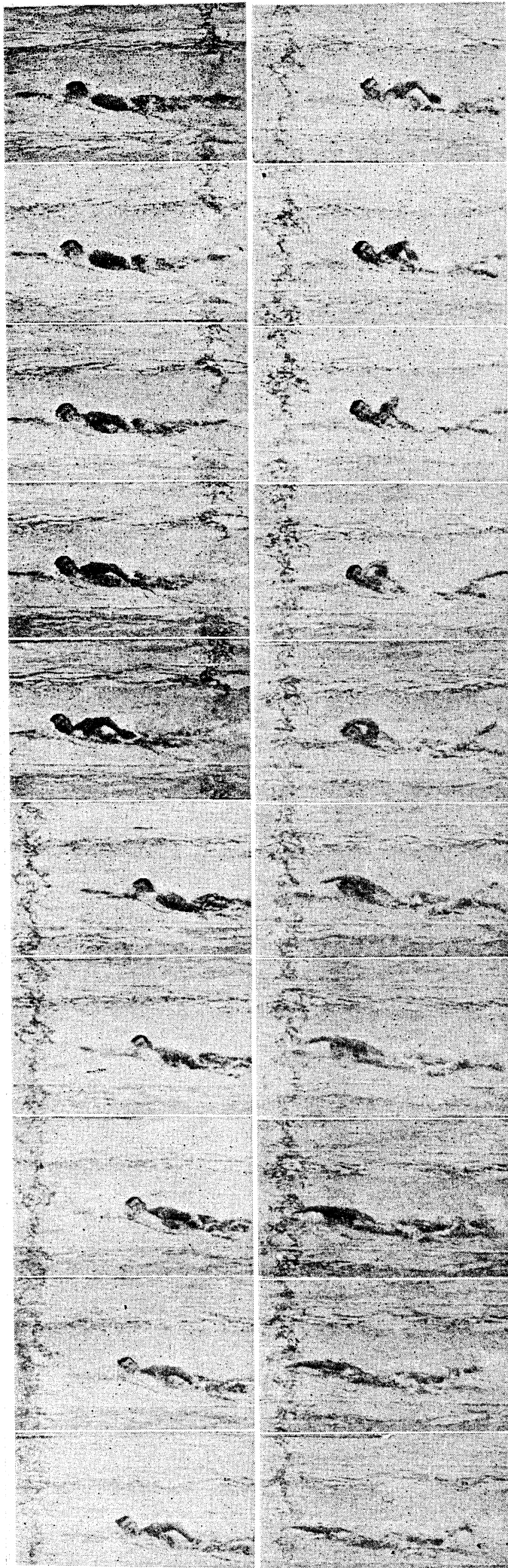
山中・コンラツズ両選手のフォーム分析連続写真

山中選手

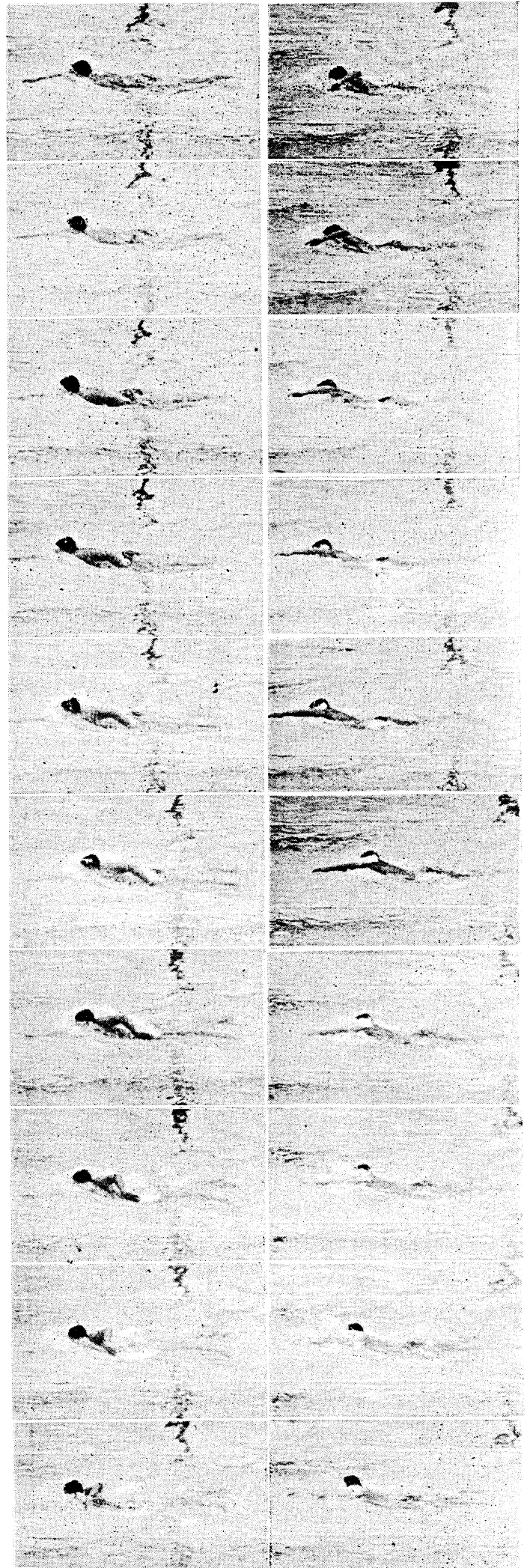
コンラツズ選手



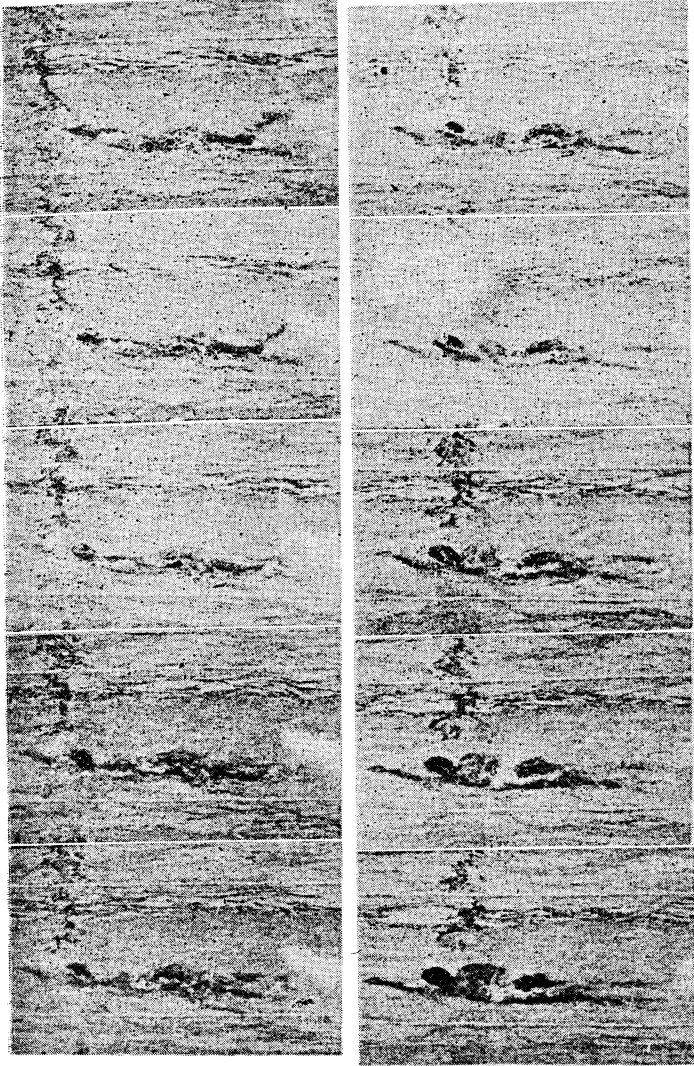
山中選手



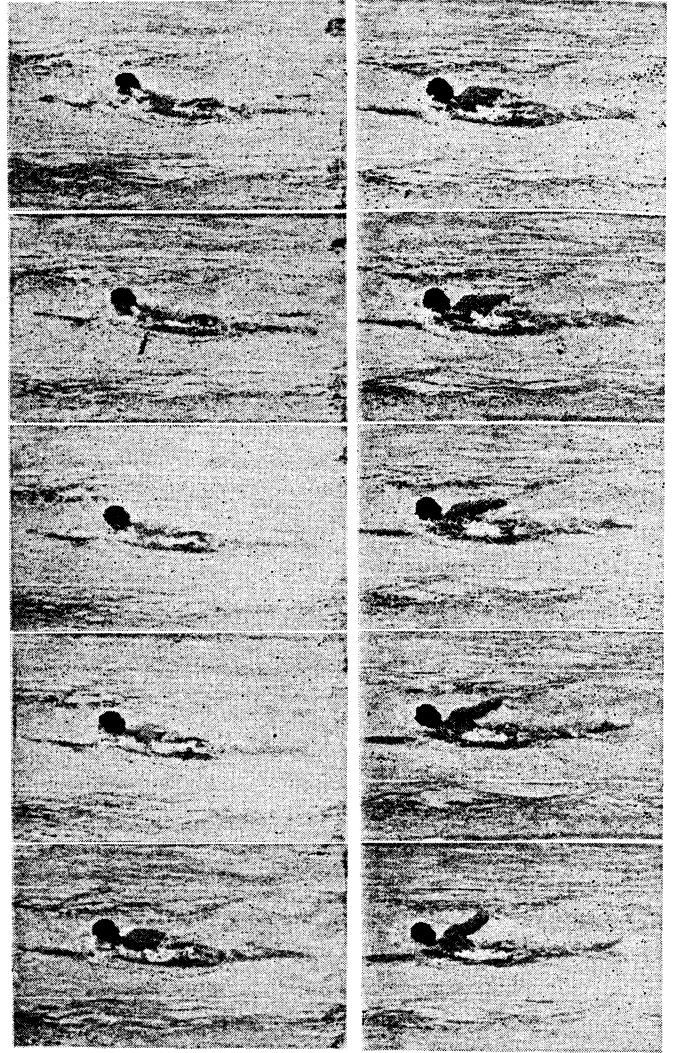
コンラッズ選手



山中選手



コンラッズ選手



(東大 植村研撮影)

ローマ・オリンピック強化合宿練習風景

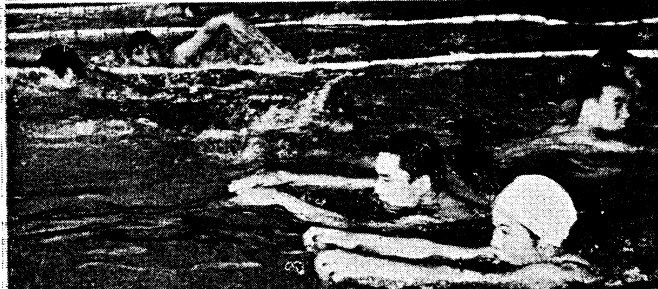
(都営屋内プール
国立競技場プール)



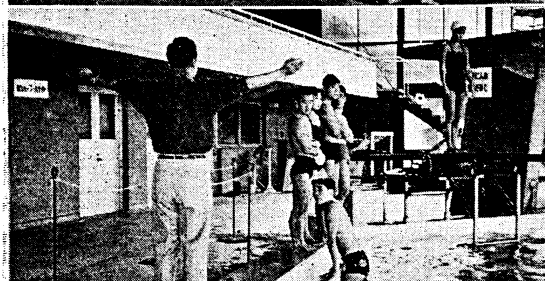
←カ泳ノ那須選手



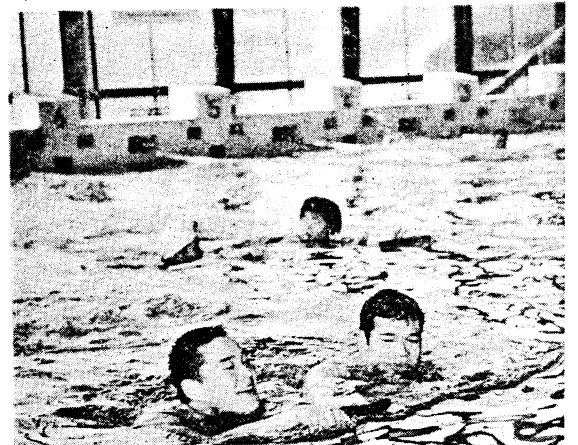
↑田中(聡)選手の力泳ぶり。



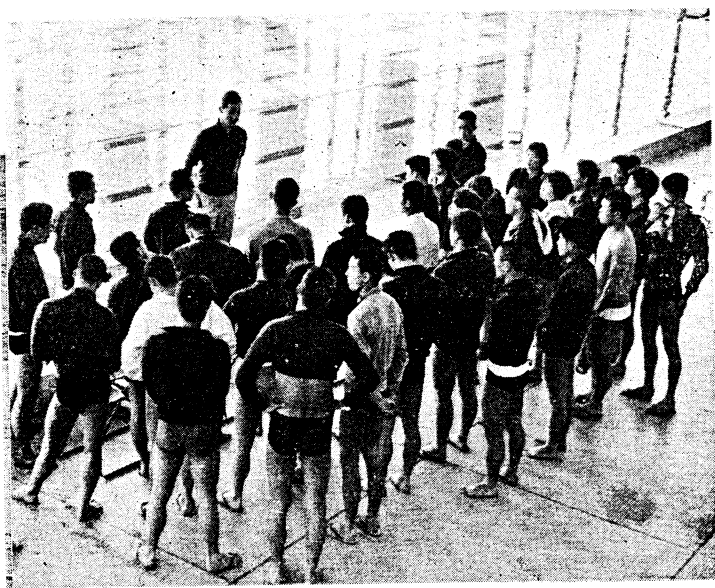
←丸山、藤本の各選手。
自由練習 向って左より山
中、福井、石井、佐藤(喜)



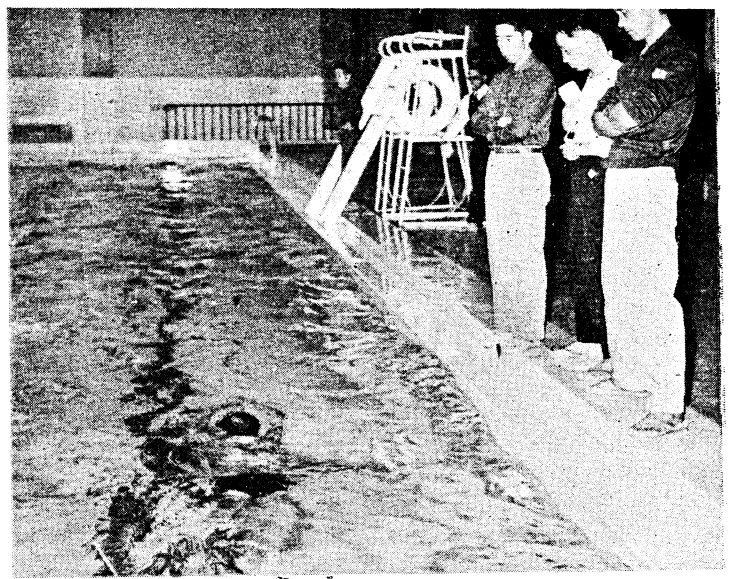
←飛込選手。
永井コーチの指導



↓バタ足練習……石井(左), 山中(右)。



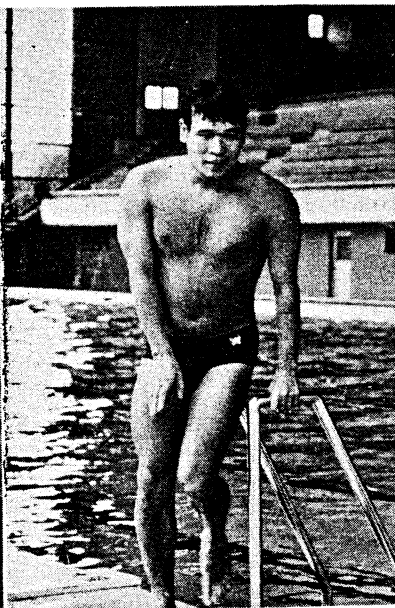
太田コーチより注意を聞く。



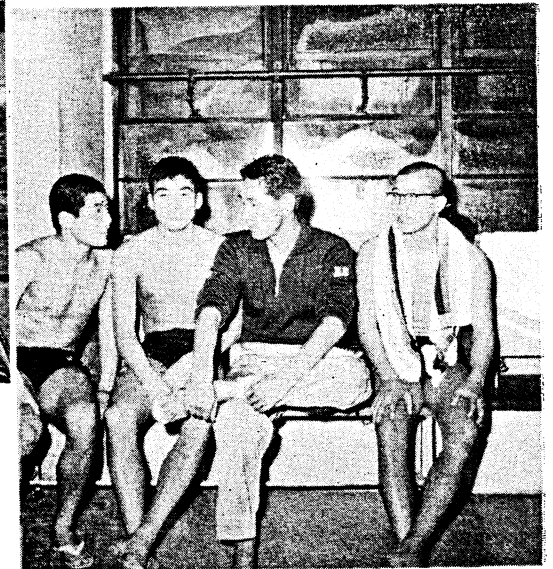
コーチ陣の真剣な顔
左より赤樫，志村，太田の各氏。



オイ，記録があがったぞ！



山中君



憩いのひととき。
左より那須，大崎，太田コーチ，藤本の各選手

食堂にて……余り食べすぎると？



イタリア国営放送のインタビュー。



オリンピック回顧座談会

日時 昭和 35 年 2 月 19 日 (金)

場所 於 丸 の 内 精 養 軒

出席者

宮 畑 虎 彦	(パリ大会出場, アムステルダム大会監督)
木 村 象 雷	(アムステルダム大会出場)
根 上 博	(ベルリン大会出場 メルボルン大会女子コーチ)
小 池 礼 三	(ロスアンゼルス, ベルリン大会出場, ヘル シンキ大会コーチ, メルボルン大会監督)
小 出 靖 彦	(専務理事)
栗 村 中 丸	(編集委員長)
菊 池 章	(常務理事, 編集委員, 競泳委員)
坂 本 亮 四 郎	(編集委員, 記録委員)

小出 改めてごあいさつということもございませんが、お忙しいところを、ありがとうございました。こういう会をかねがね持ちたいと思っておりましたが、なかなか機会がございませんで、申し訳ありませんでした。東京にオリンピックが来ることになりましたので、きょうは日本の輝やかな過去の成績を作っていただきました皆さんに、そのご経験から、練習の方法とか、気持の持ち方などについて、特に、ねらいとしましては、地方の、これから続いて来る若い人たちに、大いに刺激を与えたいわけでございます。非常に思い出の、感激に会った、というようなお話をざっくばらんにお話いただきたいと思ひます。

栗村 本日は皆様ご多忙中のところ、まことにありがとうございました。二、三の方が止むを得ない事情により欠席されましたが、ここにお集まりの諸先輩は、いまさら私から申し上げるまでもなく、かつて数々のオリンピック大会や、その他の国際大会におきまして大活躍をなされ、いわば水泳日本の礎石を築かれた、日本水泳界の功労者の方々でございまして、本日一堂に会され、お話し合いの機会を得ましたことは、まことに意義の深いものがあるものと存じます。ただいま専務理事からお話ありましたように、実はかねがねこのような機会をぜひ一度つくりたいと考えていたのですが、幸い本年は待望のローマ・・オリンピック大会の年でもございまして、ちょうどよい機会と存じましたので、諸先輩にお集

まりいただき、後輩、現役選手に対しまして、激励とはなむけのお話をいただきたいと存じた次第でございませぬ。

本日は小出専務理事も見えておりますし、もちろんローマ大会、それにつながるところの東京大会へ臨むに当たりましてのご希望なり、あるいは諸先輩の貴重なご体験を通じて、かくあるべきだという建設的なご意見も、多々あろうかと存じます。しかしお話の順序としまして本日は主として、目下私どもが直面しておりますローマ大会へ、いかに対処すべきか、その心構えなり、その他種々のご意見をお聞かせ願いたいと思ひますが、その前に諸先輩が出られましたオリンピック大会や数々の国際競技大会の往時をしのび、回顧談と申しますか、その辺から漸次お話をうかがいたいと存じます。

申すまでもなく、日本が一番最初にオリンピックに参加いたしましたのは、大正9年の第7回アントワープ大会でございまして、この時は内田正練さん、斎藤兼吉さんのお二人が参加されました。勝敗は別といたしましてこの大会におけるお二人の活躍は日本水泳界にとりまして、永久に忘れることのできない歴史的な1ページを飾ったものといえると思ひます。次いで、第8回のパリ大会でございまして、この大会にご出場された宮畑さんあたりに、ひとつお話をうかがいたいと思ひます。

宮畑 そうですねえ、あのころは、斎藤兼吉さんたちがその前に行った時が大正9年でした。斎藤さんに聞く

と、クロールで泳いだというのですが、どうもそういうふうには思っていないので、もうちょっと長い距離は、ちょっと片抜き手で泳いでいた。はっきりしませんが、とにかく入谷君が、戸田で大正9年初めて200メートルをクロールで泳ぎ切ってビックリした。それから、大正10年の上海大会の時には、とにかく全員クロールで泳いだというので喜んでいました。大正12年が大阪での極東大会でしたが、上海で負けたものですから、この時は「何が何でも勝たなければ」というので、がんばった。それから例の関東大震災。それが、梅沢親光さん、飯田光太郎さんという先輩が、記録に詳しいから、いろいろ外国の記録を調べている間に、800リレーに出ると4等になれそうだという。何しろ、そのころ日本ではオリンピックで等に入るなんていったらたいへんなことなんです。うそみたいな話だけれども、細かい計算したら、そうなるというので、「来年は4等ねらってリレーに出るんだな」ということになっちゃった。結局、リレーは4位でした。あの時、高石君は100と1500に出た。あれも面白い。決勝を5人で泳がしておいて、準決勝までに1番レコードのいいものを6等にする。とうとう、わたしは知らずに帰って来た。だから、斎藤巍洋さん背泳で6等になったが、あれは決勝に出ない6等なんです。そういわれれば、いつも決勝は5人で泳いでいましたよ。

木村 その時高石が400飛ばして、100と1500泳いだというのは、日本の参加史上に珍しいでしょう。

宮畑 珍しいですね。

木村 こんどは例の山中、コンラッズが100から150まで出ようとか出ないとかいう話があるが……

栗村 400を抜いたというのは、どういうことなんですか。

宮畑 結局、あの中距離の400なんてのはそうグイコしてなかった。高石君自身も、中学4年で、短距離も相当やれるようになって来たし……。

栗村 高石さんが出場されたのは100と1500だけですね。

宮畑 そうです。

栗村 それは日本を出発される時から、そういう作戦だったのですか。

宮畑 申込みだけはしておいたでしょうが……。

木村 予選は泳いだ。決勝を捨てたんじゃないかな。

宮畑 違う。日が違うから、そんなに泳がされなかった。わたしは100も400も出た。出ておいて、みんな棄権した。

栗村 そうすると、入賞は高石さんの100、1500、宮畑さんの800リレー、斎藤巍洋さんの100のバック、こ

れだけです。

小池 800と400の関係はなかったですか。

根上 入賞の時、かみ合ったとか。

宮畑 そんなこともあったかも知れない。ところが、当時は日本の400の記録とオリンピックでの400泳ぐ人との間には、非常な開きがあった。そして1500は人が少ないですから、1500がしよっぱなだった。やってみたら、これは何とかかなりそうだというので、ずっと準決勝、決勝と追っかけていったんじゃないかと思えます。

栗村 第1回の初の入賞を勝ち得たわけですが、パリ大会におけるご感想はどうですか。

宮畑 多分に個人的になるけれども、わたしはあの時アメリカの女の選手と日本の選手の泳ぎが非常に似ていると思った。結局、結論は日本は腕を強くしなければ、とてもダメだ、ということですね。日本の人の腕がまっすぐにかけるようにならなきゃあ、とうていおっつかないと思った。

栗村 パリ大会は大正13年でしたが、いわゆるクロール・ストロークとしての外国泳法が日本に輸入されてから何年目ですか。

宮畑 4年目です。

根上 13年ごろというと、小学6年生でしたが、その時はすでに、北海道あたりでもクロールが入って来ておりましたね。わたしは小学校6年の時にクロールを習ったです。

小出 パリ大会では、他の国はみんなクロールで泳ぎましたか。

宮畑 多少トラジオンというのが残っておりました。イギリスのハッピー・フィールドは明かにトラジオンだったが、ほとんど全部の人がクロールでした。

木村 ぼくの調べたところでは、クロールがお目見得したのが大正3、4年です。横浜か神戸か、どっちが古いかかわらないが外人です。東京の方では、鶯飼弥三郎が一番早い。関西の方ではドナルドという神戸、外入でこれから中田さんが教わった。それで2、3年たったらあちこちで外国渡来のクロール泳法をやっておったのですよ。しかし、平素あまり使わなかった。長い距離の最後の25メートルかその辺で、ボジャボジャッと行く式のもので、大体ノー・ブレッシングで泳ぐ程度のものでした。おそらく、パリ大会の前あたりまでは、バジャバジャと泳ぐくらいで、呼吸はよくできなかったらしいね。大阪築港の極東大会の時に、クロールをちゃんと泳いだのは一鶴さんに、高石さん、入谷さんだろう。そのほかは、大体茨木の方はブレッシングやったが、関東の連中伝明さん、小野田一さんなどは、目をつむって、息つめて50メートルくらい……。

宮畑 3回くらい息した。

木村 それで入谷君が200メートル、クロールで行ってやってビックリされ、それからパリの連中になって行くわけでしょう。

栗村 木村さんのお話ですと、大正3、4年ごろといえますと、パリ大会が13年ですから、近々10年で高石さんが100と1500に入賞され、800リレーでも入賞されたということは、非常なもんだと思います。アントワープはともかくとして、パリ大会の成果というものは、非常に顕著なものがあったと思われま。

次は、アムステルダム大会でございますが、この大会においては、ここにおいでの木村さん、宮畑さん、高石さんが参加されておりますが、当時の模様を木村さんから……。

木村 この時は高石なんか明かに優勝をねらっておりましたね。相手がワイズミュラーで、これに勝っちゃおうというんだから、パリからすればずいぶん進歩しておったわけです。ギューッと、その辺に出て来たのが鶴田さんですね。鶴田さんは、その前の年に、ラーデマッヘルの世界記録を日本で破ってしまおう——それで、急に鶴田株が上がった。しかしオリンピック前に鶴田さん、コンディションが悪くてダメのような予想だったが、結局高石君はワイズミュラーに勝てずに3等でした。2等がハンガリーのバラニーだった。ワイズミュラーにバアーッと飛び出されちやって、高石が後半の50メートルをクックッと少し詰め始め、かなり詰めて、体一つくらいあいておった。ぼくは見ておったが、何とか詰めようとしておるその間に、バラニーが出て来て、タッチで敗けたやはり、ワイズミュラーに体一つ敗けた。

宮畑 58秒6と1分だからね。

木村 鶴田さんは、心ひそかに勝ってやろうと思っておったらしいなあ。(笑)それで、あの人、ウォーミング・アップをたくさんしたい人で、レース当日の朝5時くらいに、ひとつ泳いで来よう、というわけで、出かけて行った。ずると、入口に鉄条網が張ってあって、だれも入れないようになっている。番人つかまえて、手まねで「泳がせろ」と話してみたが、中へ入れてくれないので、タバコを一つ順番にやって、中へ入れてもらった。(笑)そして、1人で泳いだんです。そこは、オーバーフローのないプールなもんだから、鶴田氏はオーバーフローをもたないターニングを一生懸命にやった。オリンピックでは、ラーデマッヘルより、初めから飛ばしたが鶴田さんがあのくらい早いピッチで泳いだのは、見たことなかったですねえ。

栗村 元来、非常に遅いピッチの方でしょう。

木村 それが初めからピピッと……。

宮畑 どうしても1分16秒で行かないと間に合わない「100で5メートル抜いて来い、後は追っかけられるから……」というんでね。

栗村 鶴田さんがここで日章旗を掲げられたことは、日本水泳界にとって、永久に忘れることのできない歴史的な意義だと思いますが、あの時は高石さんは100で3着、木村さんは？

木村 100バツクの第2予選で失格ですわ。

栗村 入江さんは？

宮畑 100で4着。

栗村 800リレーは？

宮畑 2等。この2等は予定されていた。ただ、決勝にだれを泳がせるかが、問題になった。というのは、リレーというのはいつもそうなので、高石、佐田、米山、これは決まっている。あとの1人が全くわからない。その日のコンディションでね。だから記録を見ると、予選準決勝、決勝と、しよっちゆう最後の人は変っている。これは窮余の一策で、一番まずいが、2等取ることだけは確実に決まっている。内輪をできるだけ丸く収めて行くために、その日のコンディションのいいのを出すよりほか方法がない。だから、決勝の時は朝6時起きして行って予選をやった。(笑)そして、だれを出すか決める。

栗村 参加者はどのくらいでしたか。

宮畑 選手は11名、役員を入れて15名でした。

[小出専務理事退座]

栗村 アムステルダム大会で、特に記憶に残るといえるか、今の若い連中にお聞かせいただきたいという点がありましたら、ぜひひとつ。

木村 あそこでは、高石勝男氏は決勝の前日の晩眠れなかった。これを寝せようと宮畑さんは、「おもり」です。なかなか眠れなかったですね。体をこすったり、いろいろしたが……。

栗村 相当、興奮されたわけですね。

木村 やはり、だれもアガルんで。それから、寝られないという状態は、選手にとってどのくらい、いざとなつてがんばりにこたえて来るか、ぼくらあれをみて、特にそう思いました。同じようなことで、鶴田さんに聞きましたら、やはり寝られなかったそうだが、「寝ようと思って、仰向けになって、本をワザと上へ上げて広げて読んだところが、だるくなって、目が疲れて、そのうち寝た」といっておりました。やはり、自己催眠というのか、自分で寝るように努力することが必要ですね。あまり頭に残らないような映画を見て目をくたびれさせるとか、特殊の工夫を選手はした方がいい。そういう手は最近よく使うようですね。

宮畑 水泳はそれがかまわないが、ボクシングなどでは困るわけですよ。

栗村 オリンピックのふんい気にのまれない心構えはいついかなる時代でもいえることだと思います。今お話のように、一流のベテランでも、そういうふうの前夜眠れないとか、アガルとか、そうしたことに対処すべき心構えは、十分考えて行かなければならないと思います。

宮畑 もちろん、本人はそうだけれども、本人よりも周囲が気づかないで、そうしてしまうんだね。あんまり期待が大きくなって……。

小池 眠れない問題だが、各個人によっても、先天的に違うわけです。その個人差によって、チーム・ドクターとか、以前に監督なり、コーチなりが、ある程度そういうことを頭において、日ごろリードして行ってやらないとね。放っておけば、先天的にどうにもならないものがあるし、同じような環境におっても、自分で自分を苦しめちやって、どうにも気持ちのあがきが取れない人もあるし、案外平気であるものもあるしね。

宮畑 体だけからいっても、くせがあり、食べ物のかせがあり、生活のかせ、みなありますからね。

木村 それに、今はいいですが、当時は向うへ行くまでの旅行が長かったですよ。

栗村 パリは船でしたね。

木村 50日くらいかかる。

宮畑 42日でしたよ。

木村 アムステルダムの時は、14日間汽車、シベリヤ鉄道で行った。この間に、鶴田さんのような体質の人は太りましたね。大体、若い人はみんな太ったようです。少し年かきの人間はみんなやせましたね。

小池 ほとんどみんなやせておった。

木村 鶴田君だけは1貫目から2貫目くらい太った。

小池 あとの話になるが、ドイツの時は逆だね。ドイツの時は汽車の中で太った。

木村 給与がよかったからだよ。アムステルダムに行った時は、駅に汽車が着くたびにキュウリだとか、コウリヤンのパンだとか、食堂がないから買いに出たよ。

栗村 敗戦による民族約な劣等感とか、体質、体格的な劣等感、日本人としては、なかなか潜在的に払拭することはできにくいと思いますが、その点はどういうふうにお考えになりますか。

宮畑 そういうことは、今の人はあまり感じていないでしょう。

小池 むずかしい問題だね。もうなくなってもいいころだと思います。しかし、私たちがやっている時は、そんな意識なんてありませんでした。

栗村 しかし、当時は日本の興隆期でありましたからね。戦後15年になりますと、そういうことはないでしょうね。

栗村 次は、ロサンゼルスでございますが、これもすでにご承知の通り、日本が完勝とか、世界制覇をなし遂げた時で、小池さんが行かれて非常な成績をおさめておられますので、全般的な意味合いで、当時の模様をひとつ。

小池 小さい時で、忘れちやったが、あの時はちよほど、今の、メルボルンの前の豪州みたいなもんでしてね。日本の水泳がアムステルダムで鶴さんが勝ち、全体の成績も上位へ行っているということで、この次には、またそれ以上のものが、確りやれば出るんじゃないかというわけで、いろいろ準備を始めた。若い選手を集めた合宿とか、全体を集めた合宿だとか、そんなものを取りまぜて、数回やったり、当時とすれば、画期的なフィジカル・トレーニングというものを取り入れたり、前年には日米対抗をやってアメリカに勝ってしまったりで、やることなすこと、全部、順風満帆とか、そういうふんい気でなかったかと思うんですよ。それを国際的にみてもあれだけロサンゼルスに準備をした国は、日本以外にやあそらくなかったんじゃないかと思います。向うへ行っただけでも、カリフォルニア州というところは、非常に気候のいい所でした。暑い所だけれども、湿気がなくて過ごしやすい。食べ物も果物なんかもうまいし、またいいことには在留邦人がたくさんおまして、非常に心強い。食堂もみな日本人のコックがおって「ユーとミーとは同じシステム・カントリーじゃけん」といって、いろんな料理を作ったりしてくれた。さっきの劣等感の問題なんだけれども、当時としては連合艦隊もあった「守るも攻めるもくろがねの……」(笑)

栗村 国力のバック・アップがあったわけですね。

小池 威勢のいい時代でした。そういうふうには、コンディションがいろいろ整ったし……。また、相手側からいけば、日本は非常にラッキーだったと思うね。ワイズミューラーがターザンの映画に出て引退してしまった。恐らく、あの当時泳いでいけば、宮崎の58秒2と匹敵するくらいの記録で泳いだと思う。バックが完勝した時も、コジヤックが学資をかせくんで、出場しなかったとか、それやこれやが重なって、ああいう結果が出たと思う。だから、日本が非常に準備もし、努力もして、それで幸運の女神がほほえんでくれた。全体的には、そういうことじゃないですか。個々の戦評はいろいろありましようけれども……。

栗村 非常に準備が行き届いておったし、国家的なバック・アップもあって、それが完勝の原因になっておる

わけですが、オリンピックというものは、個人の技の優劣ということの一つのプリンシプルにしておりますが、しかし何と申しまして、その根底はあくまで全選手団のチーム・ワークじゃないかとも思うわけです。その点については、当時ロサンゼルス大会を終って選手団が帰国し、その歓迎報告会における末弘厳太郎会長の挨拶を、私読みましたが、その中に「今回の勝利は監督、コーチを中心とした人の和の勝利にある」ということを、いみじくもいわれておるわけです。これは、こんどのローマ大会、あるいはそれに結びつくところの東京大会でも非常に含蓄のある言葉として受け取るべきではないか、と思うわけですが、その点はどうでしょうか。

小池 それは、私、当時はそう気付いておりませんでした。あとでそういうめんどろを見る立場になってみて、当時のことをひるがえってみると、チーム・ワークがよかったと申しますか、あの時は、田畑さんが総監督、松沢さん監督兼ヘッドコーチで、アシスタントが野田さん、チームとしては野村さんがマネージャーみたいなことをやっておりました。あの時は高石さん、亡くなられたベテラン片山さん、武村寅雄さんなど、当時としてはうるさ型のベテランがおったのですが、あの時活躍した主体となったのは、横山、大横田、清川、河津——鶴田さんは別格ですが——それ以降の連中でございますから大体、松沢さんが準備を始めて2年目くらいで100で優勝した宮崎1500優勝の北村という連中が、コーチとか監督に対する信頼感というものは、外部から毒されることなく、安心して委しておったといえるんじゃないか。チーム全体がすみからすみまでということ、言葉でいやあけっこうですが、なかなかあり得ない。けれども、全体の和という点では、100点満点でいうなら、少なくとも80点から、85点くらいあったんじゃないかと思うね。

木村 ちょっとうかがってみたいのですが、非常に成功のオリンピックだというけれども、その時に活躍した北村だとか、小池選手だとか、宮崎だとか若い人はその前年はどうですか。

小池 前年は日米対抗の年ですが、1500で北村が20分を切って優勝しておったと思います。横山が800で優勝、100は宮崎はよくなかった。強い強いといわれているながら、やはり高石、片山、という人達に負けちやった。けれども、これは望みがあるというんで、オリンピックのチームに入った。当時のアメリカのスプリント、ハウランドとせり合って、日米対抗そのものは元気でした。

木村 その年の春から、非常に頭角を現わした例はなかった？

小池 宮崎がそうでした。1分切って

木村 そうというのが今度も出ればいい。

坂本 杉本もそうでしたね。

木村 つまり、ローマでプラス・アルファが出るか出ないか。

小池 その質問が非常に面白い。鶴田さんは例外として、ロサンゼルスで活躍した連中はみんな——病気とかけがで自分の水泳生活をさえぎられた人以外は、ほとんど全部が、自分の水泳生活の頂点に行く少し前の連中でした。ですから、ロサンゼルス過ぎてから、自分の最高潮に達したという連中がほとんどでした。清川しかり、宮崎しかり。宮崎はあとで病気になったが、北村が世界記録を作ってしかり。私なんか、それから4、5秒記録を上げて行っているし、大体そういう状態でしたね。

栗村 今の木村さんの話から行きますと、小池さんの最高記録は昭和10年、根上さんも昭和10年の日米対抗が最高記録、遊佐正憲さんも同年57秒2の最高記録を出しているし、牧野正藏さんも同年400自由形で最高。要するに、昭和10年ころ、ベルリン大会の前年が、当時の日本の一流選手の最高にあったといえることができると思います。これは記録の上からですが。

小池 年齢からいっても、北村が14歳と何カ月、宮崎が15歳と何カ月、私、石原田、遊佐などが16歳から17歳だった。

宮畑 あの時は、やっているったって、まだそんなに普及していないし、そこへもって来て、冬から春と初めて合宿して練習をやった。これは、わたしの経験からいうんだが、「この次はぜひ、前の年に監督を決めて、冬と春、練習してくれ」ということを水連に頼んだんですが、いまくらい盛んになると、春急に出て来るかどうか体力的にバカッと強くなるのはあるでしょうが……。

小池 あの時は、ああいうふうにならざるを得んような条件ちゆうものがあつた。外国にもあつたし国内にもあつた。ところが、今は、おそらくその逆のような条件しかないような気がしてしょうがない。戦争を中においての、戦後の思想的な傾向、外国が非常に若いところに普及しているのに日本は逆に中学生の対外試合の禁止とか、野球が熱狂的に普及しているとか……。当時は、陸上とか水泳は非常にほこりを持って打ち込んだが、今は野球なんかと比べると、地味な方に回ちやっている。今の時代と当時とを比べると、いろんな条件がプラス・マイナスになっているような感じでしょうがない。

栗村 中学生の対外試合の制限撤廃の問題などについては、連盟本部でも着々と手を打ちつつあるわけです。その点のはのちほどお話が触れると思います。

次いで、ベルリン大会でございますが、ご承知の通り、ロサンゼルスに次いで大きな成果をあげたわけで、男子6種目中3種目優勝、女子は前畑さんが優勝をさらうと

いうわけで、都合4種目に第1位を勝ち得たわけであり
ます。同大会では、ここにお出の小池さん、根上さんが
参加されたわけですが、根上さんからひとつ。

根上 当時の模様って、特別なものはない。ロサンゼ
ルスが日本の水泳の興隆の頂点とすれば、ベルリンの時
はすでに追われるものの立場にあったと思うんです。日
本水泳自体の考え方からすれば、「もう1回勝ってやろ
う」ということであつたし、その次に東京大会がある
というので、選手団の構成も非常に大きかった。そうい
うことが、実際に向うに行つて、予期していた成績より
もあがらなかつたという原因じゃないかと思うのです。選
手をよけいもつて行つたとか、全体主義的な考え方が選
手団全部に流れておつたとか——選手ではなくて、むし
ろ指導する方ですよ。そういうことが割合と、しばられ
ることが好きじゃない選手に、心理的な影響を与えて、
結果的にはあまりいい成績が出て来なかつたんじゃない
かと思います。心理的な面から申しますと、そういうも
のに左右されない若手の選手が、むしろ活躍したとい
うことはいえるんじゃないかと思つます。

栗村 ロサンゼルスの場合は、男子だけで22名、ベル
リン大会を記録によれば、やはり男子だけで22名にな
つておりますが、これは出場種目とエントリーの関係から
いってどうでございましょうね。

根上 私ども行つた時には、初めは水泳だけで非常に
いいふんい気で練習やつていたわけですよ。それが、だ
んだん大会が迫つて来ましたし、宿舎は変えられる、み
んな一緒だからガサガサして落ち着かない。それに、向
うへ行つてエントリー決めるので、その間における競争
も激しくなつて来る。

宮畑 食堂へ行くのにも、軍事教練みたいに、毎日行
進だとか、生活環境が非常に悪くなつて来た。ぼくらも
、どっちかというとなんか神経質だし、年齢もいつても
んですから、こういうことがコンディションに悪い影響
を与えたね。

小池 それは、ロサンゼルスとの因果関係があると思
う。それは松沢監督がロサンゼルスの時と、そういう意
味では進歩してなかつたんじゃないかな。ですから、ロ
スの前にどっか島へ遊びに行つて来て、その結果よかつ
た。ベルリンの時もバトシヤンダルかどっかへ行つて成
績がよかつた。手のうちは見えている。当時とすれば、
遊佐君だとか、牧野、根上さん、われわれにしても、技
術的には高度なものになつてはいるけれども、スタミナ
という点では、どっちかというとなんか落ち目になつて
いる。それをスケジュールとか、そういうもので、旧態依
然と、画一的にやつてしまふということがあつたんじゃない
ですか。あの時には、バックだけは勝てなかつたけれど

もは全部勝つて。あのくらい日本の水泳界が充実して
おつた時はない。800リレーなどは、だれが泳いで、
1人2分9秒で泳いだ。

栗村 さきほどもお話がありましたように、その前年
の10年には、ここにおられる小池さん、根上さん、それ
に牧野さん、遊佐さんは、ご自分の最高記録を出され、
隆盛期だつた。そういうことからいつても11年のベル
リンは、もう少しいけるんじゃないかという気もいたしま
したね。

根上 新旧入り乱れて激しいせり合いでした。

木村 せり合いは100でした。田口、遊佐、新井、こ
の3人が「おれがやつてやろう」と思つて……。

根上 そのほか宮崎、吉田、鶴岡など短距離選手。

木村 400では根上さん、牧野、鶴藤、杉浦、この中
でだれが勝つか、われわれもわからなかつた。1500も同
様だつた。どの種目も日本が優勝候補ですよ。

宮畑 全体が強くなると、表立ってけんかはしないが
内輪もめが始まる。

栗村 互いにケン制し合つてしまふ。

坂本 オリンピック・プールでレコード会をやりまし
たが、その時がトップじゃなかつたですか。

小池 ベルリンの体育大学でやつた。

宮畑 時期が悪いといつて心配してはいたが、非常にい
い記録が出ました。

小池 1500がひどかつた。寺田、石原田、田中一男、
永見、本田——永見と田中一男は途中で病氣になつた。
とにかく、余分な選手を連れて行つて成功したというの
は、ロサンゼルスと遊佐と豊田、ベルリンの杉浦、これ
だけですわ。800リレーのスペアなんかは、200なら100
の連中より強いというようなデータが出てはいる時以外
はいらんね。200やらしても100の連中より弱いような
スペアはいらん。気分的に、長距離の連中がカバーする
方が、チームとしてはいいと思ふ。

宮畑 これは昔から気をつけておつた。補欠選手が一
番、あとで困る問題を起すということですよ。

栗村 といつて？

宮畑 選手みんな一生懸命になれば、だれだつておれ
は強い、と思ふ。「おれをやつたら負けん」と思ふ。し
かし、客観的にはそうじゃない。それで「君はきよう泳
がないんだ」といふことになると、どうかすると、これ
が不満をぶちまけるんですよ。そいつが、出る者にまで
影響して来ることもあり得る。

小池 表面は、チーム行動をいっしょに取つてはいる
けれども、精神状態は必ずしもいっしょじゃないです
からそこるところから出て来る、ふんい気があるわけ
ですよ。

栗村 しかし、常に世界の王座をコンスタントに維持

するという事は、至難中の至難事だと思います。とにかく、ロサンゼルスを頂点とし、4年後のベルリンと、2度のオリンピックで世界の覇権というか、1級的存在であったということは、まことに賞賛に値いすると思います。ロスとベルリンとなれば前後を含めて、足かけ12.3年間くらいは、考え方によっては王座にいたともいえるんじゃないかとも考えられるわけです。ところが、記録的にみますと、例へばベルリンの1500では寺田登さんが19分13秒、4年前のロスでは北村さんが19分12秒で、むしろ1秒遅い。その意味では、記録的にはあまり上らなかったわけですが、記録的にはどうですか。

小池 しかし、あの時は100で宮崎が58秒0だったし遊佐、牧野、田口級は56秒8から7という力をもっていたし、400は当時50秒切れれば良いといわれていたんですから……。

木村 ベルリン大会の2週間前に練習会をやりました。2日ほど休んだあとでやったんですが、あの時はものすごいレコードをみんな出したんです。400なんてのはみんな36秒から9秒、優勝記録よりいい記録がバンバン出た。200も8秒9秒はザラ、100が56秒だよ。根上さんなんかは、まだその時調子が出ていなかった。どこかへ出かけた後でしたね。

根上 いや、出ていたね。あの時は、ぼくはそう大したことはないと思っていたんですが、40秒そこそこで泳いでいましたよ。あの旅行に、実をいうとわたしは行きたくなかった。というのは、「非常に疲れて来ているので、村で休ましてもらいたい」といったんです。そうしたら「チーム行動だから、休むことはいかん」といわれた。行ってみたら、割合と歩いたり、山荘みたいなところに泊った。ところが寝台がボッコリへこんだりして寝られないんだね。試合前にこんなことしてつまらないことだなあと思いました。

小池 あれは、木村さんの記憶違いでしょう。バトシユンダールへ行く前に練習やったんですよ。

根上 エントリーが決まってから行った。ところが、はずれてしまった連中は、口にはいわないが、動作、その他をみると、やはりくさっている。

小池 根上さん。いわれたことは、考えてみる必要があるね。自分がプラン立てて「こういうふうに行って行くんだ」というときに、他の人に何かいわれると、「おれのやっていることに対して……」というんです。やはり、そういう時は、自分が決めたことに対して、従うとか、従わないとかいうことじやあなくて、その選手の個人差をみてやるべきですわ。「医者に診せたところ、彼はかなり疲れているから、こんどの旅行に行くよりも村で休養しておった方がいいから、彼は残す」といって

、全部に徹底させてやればいい。それが勢い、カッコしている。「何だ、お前チーム行動から離れるのか」ということになる。コーチでも、監督でも、そここのところをもう一度、頭を冷やして考えれば、ちっともチームワークをこわさずに、個人差を満足させてやる方法はあるんですよ。その点はよほど考えないとね。

栗村 監督なり、コーチング・スタッフは、レース前の練習量というか、そういうものに対しても、気を配る必要があるわけですね。

小池 全体のヤマというものは、スケジュールを出して決めるけれども、全部がその通りに来ませんからね。

宮畑 わたしなんか行った時には、水泳歴から考へると監督であるわたしよりも、選手の方が古いんだね。しかも、予選の時に決まって、引っぱり出されてすぐ行った。手がつけられないわけです。これじやいけないから前年に監督を決めろといった。それで種目別にやって、うまいこと行った。これにも限界があって、これを金科玉条のように守ってしまった。監督だって、やっていけば自信ができる。「おれのいうことを守ればいいんだ」ところになってしまう。だから、自分の決めた計画に反対されると、ついぶんまけたくなる。

木村 そうすると、ベルリンは練習に2週間のズレがあったんですね、全部優勝するには。

根上 そうじゃない。

木村 1週間？

小池 1週間以上、2週間くらいあった。というのは計算が間違った。シベリヤ鉄道で来て、計ったところがみんなブクブク太った。今まで、最終予選で疲れて来ているのを、列車に乗せて、長旅で、選手は比較的食料をとった。今まで締めているところを、バツとたるんだから、下痢なんかかしていながら、目方がふえたという傾向があった。これはたいへんだ、というわけで、それから毎日ハカリとにらめっこでやった。ところが、休んでいる期間も10日間くらいですから、途中で、ときどき体操などやった。戻るとなったら早い。バババツと来ちゃった。

木村 予定より回復が2週間早過ぎた？

根上 早過ぎたというより、行ってからすぐ泳いだ。初め、2、3日休養してからということだったが、プールを見た、水が入った、それゆけ、というわけでワッと行っちゃった。

小池 平泳はよかったが、他の連中はエントリーされんがための、あせりがあった。それで、コーチが拍車かけなくても、監督が拍車かけなくても、本人がかけちやっている。

根上 「練習に負けたら出られない」というんでね。

宮畑 それが一番大きい。

小池 それが、チームの構成人員とむずかしい関連が生まれて来る。

宮畑 それは今でもある。早い時期に全部決めておくのがいいか、どうか。メルボルンの時も、大分迷った。

坂本 ベルリンの時も、プールの近くに休養所がありましたか。

根上 遠いので、あとでプールの近くに借りて、出る者だけが休む。そこへ行くと、私たちはグウグウ寝てしまう。これは、ある年齢に達した時に気がついたのですが、いよいよ出る者が決まった時に、部屋替えをやった。わたしはずれておって、ちようど寝ているでしょう。わたしの部屋の方は、朝早くから陽がさすんです。ですから、朝は早くから陽が当たってしまうし、夜は遅くまで陸上の連中が、わいわいやるでしょう。これで、すっかりおかしくなってしまうと、夜は寝られない、朝は早く目がさめる。飯は食えるけれども、目方が落ちるといって、「これはいけない」といろいろ相談したんですが、巍洋さん、おとなしいもんだか、「そんなこといったって、他の者もあるんだからなあ」というんで……。

木村 ここで紅一点の前畑さんの話を出さないかね。相手のゲネンゲルはまっ白、柄がでかい。「前畑ガンバレ」の蓄音器の録音があるでしょう。ぼくらのところには、「グラティが勝つか、前畑が勝つか」と聞きに来てこれが水泳の、ドイツの最大の呼びものでした。ゲネンゲルが頭上げると、みんな「ワアーツ」という。前畑が頭上げて、ドイツ人は応援しない。応援しておったのが、河西三省ですよ。あの時はヒッターは来ていたかな。

根上 ぼくは見に行かなかった。

栗村 とにかく、前畑さんとゲネンゲルの一騎討ちは私も東京にいて、ラジオにしがみついで一喜一憂したのですが、全ドイツをあげて声援したゲネンゲルを鎧袖一触して破って「やまとなでしこ」というか、日本人女子が初の優勝するということになったことは、非常なものだと思います。

木村 あの時ね、ゴールへ着いて行った話が、アムステルダムで鶴田氏が勝った時とおなじ話をするんだね「自分は負けたと思った」という。「自分がふと見たらゲネンゲルがもう着いておった」——鶴田君もそういうんだ。鶴田君の場合は、ラーデマツヘルに勝った時にも「負けた。向うが先に着いたと思った」という。「勝った」と聞いて「ほんとか、ほんとか」と聞いたらしい、2人とも。

根上 そういうせり合いの時は、負けたと思った方が勝つらしい。勝ったと思ったやつは負けだ(笑) ぼくは

メデイカとやった第2回の日米の時に、わたしは、「絶対勝った」と思った。今でも勝ったと思っているくらいだ。(笑) 発表されたら負けていたよ。

栗村 当時の記録によると、ゲネンゲルが最後の20メートルで力泳して、再び追い詰めると見えたが、前畑嬢のラスト・スパートが非常によくきて、ゴールインでは半メートルほど離して、前畑さんが3分3秒6、ゲネンゲルが3分4秒2となっております。

栗村 戦後のヘルシンキとメルボルンは、皆さま十分ご承知で、あえて申し上げる必要もありませんが、さて目前に控えたローマ・オリンピック大会でございます。これにつきましては、水連執行部といたしましても、種々計画を持ち、すでに2回にわたる強化合宿練習も終え、近く第3回の強化合宿に入るわけですが、特にローマ大会に対するご意見なり激励の言葉をお聞かせいただきたいと思ひます。

木村 ことしの春に、プラス・アルファが出て来てもらいたいですな。さきほどのお話にあった、ロサンゼルスの前年に出て来た人のように、去年出て来た人は、当然、さらにことしの前半期においてガンとプラス・アルファで、去年上ったカーブを、さらにギューッと上げてくれないと、レコードを比べてみると、山中だとか、かなり人数が決まって来るんじゃないかと思ひます。だから、それをこしらえてくれるか、自分で開拓してくれるかしてくれないと……。しかし、スイ星型で現われるというのは、現代の競争の激しい時代には、ちょっとあり得ないだろうね。

根上 わたしはね、木村さんのご意見に、半ば賛成で、半ば反対なんです。というのは、ことしの夏までに、年とった人に伸びろといったって、なかなかそうは行かない。だから、最終予選の時、ベスト・コンディション作るようにしてもらえばいい。しかし、若手の伸びざかりのやつは、この5、6月中にワツと出て来なければならぬと思ひます。やはり、素質のあるのが、今の若手の選手の中にあるんじゃないかと思うのですがね。

栗村 その点、すでにご承知おきの通り、今回、ローマ・オリンピック大会の第1次候補選手として男子30名、女子8名一応決定をみております。この内訳は社会人が4名、大学選手が18名、高校選手が8名ということになっております。

根上 候補選手というものの選び方の対象もありますし、連盟のいまのコーチング・スタッフが候補というものについての、ものの考え方が、わたしにはどうも納得が行かないところがある。

栗村 という、具体的に……。

根上 石本が候補を辞退したというが、「合宿に来な

いから候補を辞退せい」とかなんとかいうことをたまたま、本人か、コーチか、いったかどうかわからないけれども、そういうことが報道されているようなこともあります。そういうことは、あんまりいう必要はないと思うんです。

栗村 私が聞いておりますのは、石本君は結婚され、一応家業に精励するという、身分的な問題があるというふうに聞いております。

根上 ですから、オリンピックに行くか行かないかということになれば問題は別だと思ふ。けれども、候補というのは、だれでもつければつくようなもんだし、とやかくいわなくたって、来たものだけ一生懸命やればいいんで、来らせなければならぬものは、むりにでも呼んでやらせればいいと思うのですが……。

小池 候補にもいろいろあるわけだ。公認候補ともなれば、本人がこれを辞退するしないは自由だからね。

栗村 太田委員長も専務理事もここにおりませんが、いろいろ検討して、公認候補と名をつけた方がいいかどうか、それを早く発表すべきかどうか、十分デスクツシヨンしたわけです。しかし、これにもれたものが、萎縮するということでは、その選手自体大した人ではないともいえるし、いろいろ他のスポーツ団体などのことも参酌しまして一応昨年30名出しました。これは、このうちから出すということじゃなくて、あくまで4月から、それ以降に続く選手権大会、それまでの最終的な成績、結果によって選び出すわけですから……。

小池 こういう選手を決めるためには、太田君なんかの意見もかなり入っているから批判はしたくないけれども、最終予選をやらないなら、少数に固まってやるのもいいが、これから最終予選をやる限りにおいては、わたしは候補というものは最大限、取れるだけ取ればいいと思う。中には、むだな人も出て来るだろうが……。

栗村 事実、あと1回の強化合宿が終われば、学生は4月の選手権大会、各大学対抗戦があり、7月の最終予選というわけで、終いまで練習せざるを得ないわけです。

小池 わたしは、金銭的な援助とか、チャンスとか、いろんな希望を持たせるというねらいが候補をつくる意義であるならば、もう別府も近い、東京での室内も近いということで、最大の候補を取るべきである。なぜならば、ぼくはいつも会計理事にいわれたですよ。「小池さん、むだがあるから、もう少しへずりなさい」「ばかいうな。お前らむだの効用ということをしらん」いつもぼくはそういつて来た。候補を30人しか取らんと、30人目はピツケツだと思ふ。ところが50人取れば、30番目は後ろに20人おると思ふ。だから、候補というものの目的がどこにあるか、ということをはっきり見きわめてやって

もらいたい。片足オリンピックに突込んでいるんだという考えで候補を選ぶのか、オリンピックのために一番いいものを候補に選ぶのか、そこのところをはっきり見きわめてやってもらいたい。オリンピック最終予選でいい成績をとらせるための候補を選ぶんだったら、広く、最大限、思い切って取る方がいい。ただ、みる人が、こなし得ない、プールのスペースがないという制限があれば別ですよ。

栗村 もちろん、この30名だけに対して、特別の便宜を与えとか、特別の待遇をするということでないので小池さんがいまいわれたように、これに続くもの、あるいはこれに匹敵する選手は、日本全国に相当いると思ふ。おそらく3月の最後の強化合宿が終われば、それぞれ自力で、最終予選会にぶつつくということになるかと思ふ。

小池 どうも、その点うやむやになりそうなので、結論を出したい。30名の候補というのは、水泳連盟の財政ということでもって、やり切れぬ数字じゃない。今までやった水泳連盟の強化のスケールからいって、一番小さいもんじゃないですか。統計を取ってごらんください。

栗村 予算の問題は、私担当でございませぬが、相当取っているはずでございませぬ。同時に太田君なり、その他のスタッフは、小池さんがかっておやりになったような、相当数の人間を抱えてやったわけですが、それだけのものを抱えての効果なども、もちろん考えなければいけないので、30人というのは一応のメドじゃないかと思ふのですが……。

小池 それだったら、手足をあげればいい。

根上 別に栗村さんに方針をうかがうつもりじゃありませんが、さっき候補の構成を伺いましたね。ぼくら考えるのには既製の、固体の、できてしまった選手を、候補とすることはもちろんけこうです。それにつき込む費用と時間が、ローマ大会のためになるのか、あるいはもっと新しいもの開拓して行くことが、ローマ大会のためになるのか、ということですよ。私にいわせると、ここの夏のシーズンこそ、いいものがたくさん出ると思ふ。そうしてみたら、シーズン初めから夏にかけて、大いに伸びられるようなものを、なぜ、もっとたくさん選んでやらないか。納得が行かない。

栗村 ごもっともです。

根上 もし、候補と名付けるのが悪いというなら、高校なり中学なりのいいものを連れて来て、「オリンピックの練習の会」というのを、なぜやらないか。

宮畑 東京じゃなくて、地方でやってもいいでしょう

木村 コーチというのは、だんだんに専門化して来ているんだけれども、1人について何人くらい持てるもん

でしょう。ダルボット、コンラツズのごとき、アメリカじゃ、みんな1人ずつですね。グリーンに別の人、ヨージックには別の人というぐあいに……。

小池 むずかしいね。

根上 その点は、いわゆるオリンピック・デレゲーションとしては199名以内と決まっておりますね。そこにおのずと、水泳連盟の決められるワケは決まっているわけです。しかし、外貨も不自由じゃないから、その他に各大学でやればいいでしょう。

木村 もう一つお聞きしたいんですが、日本の候補選手が決まって、コーチ、指導してまとめて行こうというスタッフが決まってやるだけけれども、選手は学校に通うから、コーチがある時間、その選手を把握しない状態がかなりある。そこを、どう解決して行くか。日本の場合は、インカレとか、大学対抗などで、対抗意識が強い。手放すと、ある時間帰ってしまう。帰れば、そこにはその学校のしきたりがあり、やり方が違うんでね。そうすると、違うグループに入って、また出て来て違うやり方のチームの中に入って行く。ここに矛盾があると思うんですが……。

小池 むずかしいけど、今の制度じゃしょうがない。だから、折衷論をとれば、水泳連盟から「日本チームの監督である」とか「コーチである」とかいうことを任命されたから権威がつくんじゃなくて、コーチそのもの、監督そのものが、本質的にオーソライズされているというだけの識見がある者になることが一番いい。

木村 もう一つの方法は、インカレはたくさん選手を持っているから、コーチが逆に足を運んでみる。こういうことをやればやれないことはないという気持ちもするが……。

小池 というと？

木村 コーチが日大に行ったり、早稲田に行ったりして、練習の量だとか、選手のクセだとかを、早稲田なら早稲田の監督といっしょに、ハラを合せてやることは、やろうと思えばやれぬことはないでしょう。

栗村 つまり、各大学のコーチとか監督が横の連携を取り、いいエッセンスを取り合って行って伸ばして行くわけですね。

木村 それができないならば、それをできるように、水泳連盟がくふうすべきだと思う。

小池 こういっては失礼だけれども、今の学校の監督なりコーチは、それだけのことをやるほどの情熱があっ
てやっているのか、それだけの待遇を受けているのか、そういう問題がひっからんで来る。もし、これがプロ・コーチでいいならば、プロ・コーチ組合みたいなのを作ってやれば、一ぺんに解決できると思う。アマチュア・

スポーツだから、そのところにむずかしい要素があると思いますが……。

木村 選手がアマ、コーチがプロであることは矛盾しない。ただ、日本の経済状態がそこまで行かない。

栗村 スキーの猪谷みたいだね。まあ、太田君にしても、人格は立派だし、手腕も力量もあるし、私個人としては、非常に信頼し、尊敬してをりますが、ローマ大会は世界からフット・ライトを浴びて注目されているだけに、責任は重大だと思います。小池さんの思いやりのあるご発言から、そんなくしましても、もちろん、先輩からご批判なりご意見はあろうと思いますけれども、その点は熱心にやっておるはずでございます。

木村 今の監督連中は大したことないというお話をされたけれども……。

小池 いや、そうじゃない。プロの問題を、経済的な問題と、熱意の問題——ほんとうの、骨のズイまでの熱意であるか、いわゆる上っ面だけの「おれは監督だ」とか「オリンピックに行きたい」というのを見分けるのはむずかしい。シンから熱意のある人をつくるのが望ましいけれども、世の中がせち辛くなって来ると、なかなか全部が全部そうであるとはいえない。もし、できるなら学校の監督なり、コーチをオリンピックへでも連れて行けばいい。見せて来て、技術なり何なり、全部習得させてくればいい。流体力学の講座もいい、体力医学もいい臨床心理学もいいけれども、そういうこともやればいい。

栗村 そこで、今、高校生がちょっと記録的にみると非常に伸び悩んでいる。これは、中学生の県外試合禁止とか、文部次官通達などが、相当影響があるんじゃないかと思うわけですが、こういった点とローマ・オリンピックの関連において、宮畑さん率直なご意見を。

宮畑 水泳教室があるんだし、相当やっているんじゃないですか。いろいろ問題をはらんでいるけれども、全国を対象にすると、やはり現場は困る。

木村 この記事はいつ出ますか。

栗村 なるべく早く出したいと思います。

木村 じゃ、ひとつお願いしたい。中学生や高校生、特に中学生は上がり早い。短期間で、ずっと強くなるところが、田舎の端末には、お手本がない。シーズン初めに、せめてお手本がほしい。大体の練習スケジュール、最近のインターバルですか、どういうぐあいに伸ばして行くか、選手の見本を10ぐらいを、中学校を想定した理想的なスケジュール、高校生でこれから伸びようとする人のスケジュール、こういうものを調査されて、ぜひ載せて下さい。早いのは、ローマ大会に間に合うのが出て来るかも知れない。北村氏に頼んだことがあるが、各大学のコーチをみな呼んで来て「どういうのがいいの

か」というんで、座談会をやってみたところが、意見マチマチで、返事が出なかったんです。

根上 しかし、それは出ないのが普通じゃないの。

木村 だから、いろいろ出せばいい。お手本がないために、間違っただけ練習方法をやっている。

根上 間違っただけ間違わないか知らないが、たまたま本を読んでみたが、インターバル練習法というのは、内臓を強くし、筋肉を強化させるというのが、今のインターバル練習だと思う。そうすると中学生のような、まだ発育していない者に、そういうことをやった方がいいのか、悪いのか、大きな問題だと思う。

木村 だから、いろいろ出すんだよ。

根上 体協あたりも、科学的とかコーチがどうのこうのといっただけ、一つのを形づくろうとしている。カンだとか、天分は見分けつかないと新聞をみていると書いてあるが、ぼくは反対なんです。オリンピックで勝つとか、何とかいうことは、「マスで計って、一升だ」なんというのは、絶対勝てっこない。

小池 逸材を出すためにも、一応の基盤となるものをつくっておかなければならない。だから、未完成でもいいから「インターバルとは」ということを水泳連盟はやってほしい。例えば、インターバルにはこういう方法もあるんじゃないか。若い者向きにはこういう方法がありゃしないか、シーズン初めはこう、実力を養成する期間はこうだ。試合前はこうだ。そういうことやればいい。今は、ぼく然と、インターバルがどうのこうのと、論じているだけで、これに対しての是非論がやられてない。

根上 是非論はやらなくとも、一つのテーマを出してみんなで検討すればいい。

小池 広義でいったら、インターバル練習でない練習は一つもないからね。

栗村 統制するわけですか。

木村 統制じゃない。モデルをいろいろ出す。その中から、先生がこしらえる。同じことをいっておっても、表現の仕方が違う、というのが、水泳の話に多いんじゃないですか。ある人が「足はこうだ」というと、その表現が、端末に行くと違って来る。

小池 それは、たしかにある。アメリカではプロのコーチの資格に、言語学というのがある。これをどうふうに表示したら、小さい子供たちに一番よく理解されるか、という学問があるわけです。

木村 例えば、「足を伸ばし切って打て」という指導もあり、「曲げて打て」という指導もある。ところが、よく聞いてみると、同じことなんです。それが端末では大いに違って来るわけだ。もう少し、表現が一定して、うまい説明ができればいい。端末へ行くと、「高橋先生

は足を折れという、遊佐先生は足を曲げるなという。泳ぎの先生は、いうことがまるで違い」こういわれる。

小池 地味ではあるし、時間と大へんなデータがかかるとは、連盟で取り上げるべきですね。

栗村 ごもつともです。ただ、ローマ大会まで、あと半年しかないんで、次代を背負う人間に対する連盟の責務だと思いますが……。

木村 そのスケジュールはローマ大会にも役立つと思う。

根上 今からでも遅くない。

宮畑 強くなる時は強くなるんですからね。

木村 ぼくが今考えているのは、この間の山中、前の古橋、橋爪らの水中写真があるんですが、これを焼き直して幻灯にかける。幻灯は止まるから、画面をみながら根上さんみたいな人が、これについて話し合ったのをテープレコードに入れて行けば、だんだん話も軌道に乗るだろうし、表現も一致しこ来るんじゃないか。それを各種目にわたって幻灯でやれば、かって黒川委員会があちこちのプールでやったが、あれは水の上の観察だから、こちらの水中の観察の方がいいと思う。ひとつ来て見ませんか。

小池 いまそれをやったら、批評する方の感覚がズレているんじゃないか。(笑)

木村 かまやせん。若い人も入れてやればいい。

宮畑 ただ見せておくだけでいい。

小池 早い話が、自分が泳いでいる時でも、「あれのタイミングはああいうのかなあ」——自分の感じとは違うんですね。

木村 それをやって、せめての利益は、先生たちが教える際に、いうことが一致してくるんじゃないかしら。

菊地 戦前は長い時間かかって行ったが、戦後は小池さんなんか飛行機で行かれたが、こんどの場合、早く行った方がいいか、遅くなったらいいか。

栗村 情報によれば、豪州は2月末の全豪選手権で代表を決定して、6月15日から向う2カ月、8月中旬くらいまで、北豪州のタウンズビルで合同練習をして、直ちに飛行機で行ってしまう。

木村 直ちにとすると？

栗林 8月中旬出発。

木村 大会の10日くらい前だね。

栗村 日本とシーズンの関係は違うから一律に行かないが……。

小池 ぼくが今でも反省しているのは、メルボルンだが、インカレ終わって、国体を横にいらんで、12月のあの期間のメルボルンの前に、10月10日から練習に入れればいい、という結論出した。というのは、名取さんと体力医

学のあれから、練習を止めて筋肉の疲労が戻って来るのが、カーブでこれくらいかかって、こうなる。この計算をしてやったところが、ものみごとにダメだったね。だから、ぼくは——水泳連盟から直感ではいかんといわれるかも知れないが、インカレからずうっと続けてトレーニングした方がいい。これは医学的データではない。カンだけでいっしょにもらえるならば、絶対に1カ月間まるまる休んだのは失敗だったですね。こんどはそういうことはないだろうね。

宮畑 こんどはシーズン中だからね。

栗村 デレゲーション全体の出発のスケジュールと、練習のかね合いは……。

小池 こんど水泳は前半でしょう。

栗村 早めに行きますか。

根上 早めにとりよりも、いつ向うに行くかを体協に決めさせたのでは困る。こちらで決めないと……。

木村 国内での成績が一番いい状態が、遠征で向うへ発揮される状態が一番いいということになる。それに定説がある。所違えば、食い物が違う。それで選手が受ける疲労——疲労を分けてみると、精神的疲労と肉体的疲労がある。練習をしなくても、向うへ行った時は、言葉から来る、食物から来る変化で、精神的な疲労が大きい。それで、1週間前に出掛けるのは一番まずい状態になる。というデータが出ている。むしろ、2、3日目にゲームに出ることになると、出発前の状態がまだ続いておるとい状態になるというケースは、陸上では出ている。

根上 1週間前がまずいなら、10日だったら。

木村 そうすると、なれて来る。

根上 練習やっている、何日目くらいが一番いいかすぐわかる。

木村 それを間違えぬようにやってもらえば……。

小池 しょっぱなの100と最後の平泳と1500までには、1週間から10日近い間がある。その間の問題をどうするか。

木村 オリンピックは、開会式に外国の選手は出ない習慣が出て来る。やって来てボンと参加して、負けたらさっと帰ってしまう。ヨーロッパ選手権でも何でもそういう状態だからね。しかし、日本からローマへ行くんだから、それを勧告して計画を立てるべきですね。それに、体の疲労だけでなく、精神面の疲労も考えなければいけない。現実には80%以上、頭の疲労で、これは相当きついということのようです。

小池 監督なり、コーチが十分考えて決めるべきだろうけれどね。日本としても、いろいろこれから実際のデータをそろえなければいけんのだから、こんど少し余分

な人が行ったら、ローマへ到着したチームの日数の問題とか、成績をよくメモして来た方がいい。何でもないとだけれども、なかなかできない。

宮畑 細かな記録を取っておけばいい。

小池 当事者は疲労困パイでオフィシャル・レポートだけもらって帰るよりしようがない。

根上 ソ連では、メルボルンにそういう人が来ていた全然、人の練習ばかり見ている。

木村 選手たちは、練習ばかりだと、水を見るのがいやになる。そういうとき、2日ほど水から離れて、ほかの遊びごとやり、何の気なしに水のところに出て来ると飯食いたいように、ちょっと降りてみたい気になる。そういう時がレコードが伸びる。これは科学説よりは、カンだね。だから、選手をくさらせる要素をなくすことが一番だ。これはコーチの8割までの責任だと思う。

小池 ぼくはいつもいうんですよ。選手に、あさしてはぜいたくだ、こうさせてはぜいたくだ——もちろん必要以上のぜいたくをさせることはない。選手の心理状態は、ソクシンショウガイ説からいうと、身の回りのものでも、スマートなものを身につけさせておくと気持がよい。ところが、ベルリン大会みたいにパッチみたいなものを着せたら、恥しくて気持がせいせいとしない。だから、リフアインされた、スマートなもの着せた方がいい。

菊池 装備が大切だというわけですね。

根上 「大和魂で行け」じゃダメだ。

木村 体育心理学のレポートに出ているが、怒った時にレコードがいいか、うれしい時にレコードがいいか、口惜しい時にレコードがいいか、不幸があった時にレコードがいいか、こういう要素を20くらい上げて、それについて結論を出したような学問がある。これは、簡単に統計が出ない。これほど人の心理に関することはむずかしい。それは去年の春、北村氏がインターバル泳法というものを信頼しておったけれども、最後はやはり人間の闘志である。闘志が勝負をするんだ。ちようど、日米の前の時に、そういう意思表示をしたと思うのだけれども闘志みたいなものが科学に勝ちますね。というのは、いま、喜怒哀楽がレコードにどのくらい影響するかという学問は、緒に着いたばかりだ。「きょうは顔色がよいか、調子がよさそうだ」とフンワリやることが、現実には効くんだ、ということ、ボツボツ科学が勉強し始めているところじゃないか。1対1、経験も同じということになったら、最後の勝負は闘志である。とすれば、闘志は一体どうして作るか。

栗村 非常に重要なことだと思います。豪州の合頭、その他アメリカなど、その力は、虎視たんたんとして、

端倪すべからざるものがあるわけでありまして、それだけにわれわれとしても、非常な覚悟というか、これらの強國を相手に対して闘い抜く力、最後は精神力に帰着するものと思いますね。

小池 オリンピックのスケジュールが最近変わったかどうか知らんが、まず100が来て、比較的早い時期にバタフライとバックが来るんじゃないかと思う。そうだとすると、今の状態でいくと、前半は日本は非常に苦しい。だから、それに負けぬように「初めから予定の行動だ」ということを、監督も、選手も考えて行かないとね。初めの100にだれも決勝に残らなかった、バタフライは那須がよくやったけれども、トロイとか豪州、ヨーロッパ勢にやられたとか、バックは第1予選も通らなかったというんで、苦い気持ちになってはいけない。

栗村 そうですね。

小池 やっと芽を出すのが、400、800だろう。その点よく考えて行かないと……。これは必ず予期されることだから、選手はもちろんだが、国内の人も、考えておいてやらんといけない。

宮畑 新聞なんか、気をつけてもらいたい。

根上 このごろは向うで日本の新聞を見られる。「おれのこと悪く書いているな」(笑)

小池 「陸上は小掛が勝ちそうだ」とかなんとかいっておきながら、「日本の陸上は20年にさかのぼった」という報道もする。前と後との記事の違い。いやになっちゃやう。

木村 国際競技の経験があるかないかで、大分、違って来るわけだ。うろうろしておって、2、3日たったら便所へ行くのにも英語使わなければならないって、がっかりしてしまったりする女の子も出て来る。

小池 新聞記者の連中が来て、ぼくらに話かけるでしょう。ぼくら疲れているから、話せない。木村さんが来て、専門的なことで何かいってくればまだいい。ところが、水泳のスの字もわからないやつが、どうですか、こうですかと聞きに来るから、水泳のスの字から話さなければならぬんで、ぼくは黙っている。そうすると「小池監督はノイローゼになっている」(笑)

木村 監督というのは、応援団長のような面構えで、一応、かけひきをやる、意気ケンコウで、選手の気持をひっぱって行くようなパーソナリティーがいいね。新聞記者に災いされぬように、ばかなこといって、選手をグラグラ笑わせるようじゃないとダメですね。

小池 それはそうだ。ぼくらがイライラしていると、選手たちにも気が映ってしまうらしい。だから、ぼくらだって、本部へ行って、いちいち「ごむりごもっとも」といってはいられない。ある時はバリンバリンやらんと

ね。

根上 だから、本部ではケンケンゴウゴウ。

小池 ところで、ベルリン、メルボルン、こんどのローマと、三つの大会を比較して、こんどが特別にいいというデータはないね。古川みたいに、必ず優勝するものがない。けれども、うまく行けば、みんなうまく行っちゃうような、潜在的なものがあると思うんです。山中が2つのうち1つうまくいけばバタフライが、今の調子で若い連中が出て来れば、中距離の連中が5秒以内の平均の力を出すことになれば、4つ優勝するチャンスがあると思う。ところが、山中がよくないとなると、参加チームのうち一番悪いということも考えられる。1つも取らなかったといつて、こんどのローマじゃ、チームを責めるとかいうことはやらんでほしい。その試合の経過をよう検討して、ほんとうにベストを尽したかどうか、よう見てやるべきだと思います。

栗村 可能性の問題から論ずれば、山中の400、1500増田の200ブレスト、那須の200バタ、800リレー、新しく参加する400メドレー、全部で6つあります。しかし、これも、さきほど来お話のあった推進力、長期間にわたって闘い抜く力があるかないかによって、どうなるかわからない。豪州も強いが、それ以上にアメリカの躍進はすばらしい。昨年の日米対抗に來なかつた若い連中が、汎米大会で、非常に伸びている。これは、エージ・グループ・システムから発らつとした活躍をしている人がたくさんいますよ。記録からみても、油断ができません。

根上 いまの中学生が、伸びて来ないというのは、対外試合禁止の問題があるけれども、ちようど今の中学生は戦争末期に生まれたため、体力的に悪いために伸びないという考え方はできませんか。

宮畑 それは考えられますね。

根上 ベビー・ブームに乗って来た、こんど中学に入るぐらいの人は、体格的によくなっているから、これはどんどん伸びて行くんじゃないですかね。

坂本 体力の問題じゃなくて、今は、われわれが泳いだ時分と違って、もっと面白いゲーム、楽しいスポーツがあるから、そっちへ行ってしまふんじゃないですか。

宮畑 面白いことは、いくらでもあるからね。

栗村 それでは、この辺で。長時間どうもありがとうございました。

(おわり)

今日の背泳技術の特徴

N・M・クリュコフ

稲垣兼一訳

背泳技術は近々数年の間に、かなり変化した。戦前および戦後の初期の年間を通じて、模倣の対象となったモデル泳法は、当時、何回一世界記録を更新したA・キーパー（アメリカ）がおこなったところの、腕を真直ぐに伸ばしたままで掻く泳ぎ方であった。しかし、その後数年の間に、世界で強豪と目される大方の背泳選手は、水を掻く瞬間に腕を肘関節において屈接させる泳法を用いるようになった。

肘関節における腕の屈曲を伴う掻きの泳法は、以前に採用されていた泳法と比較して、背泳種目の今日の技術が示す、主要な、しかも優れた特徴である。しかし、これが唯一のものではなく、他にもまた重要な特徴が存するのである。叙述の便宜上はじめに、この泳法を採用しているソビエトおよび外国の強豪選手を例にとり、彼らの技術の個々の要素と技術完成化の過程を分析しよう。その後、これを基として若干の統論をひきだすのが目的であろう。

ソ連記録保持者L・バルビエルの泳法（100 m背泳における彼の best time 1分3秒9）

姿勢 水上の姿勢は比較的lowで、平面的で、頭部がわずかに肩より上がり、顎は微かに胸の方へひきつけられている。

脚の働き 水中の平面姿勢は浅い水深面における脚の活動を予定している。高速で力泳中に、とりわけ決勝点までに残った最後の距離において、彼の膝は時おり水面上に現われるにもかかわらず、脚は、さほど振幅が大きくないとはいえ、非常に精力的にしかも効果的に活動するのである。L・バルビエルは、脚と腕の運動のバランスは、一般に採用されている two stroke-six best（二腕六脚）をおこなう。

腕の働き one stroke 終了後、真直ぐ伸びた片腕は、水から抜きだされ、水面に対する垂直面から（力をぬいて）のびのびとした振る動作で前方の水面へ投げだされる。それから、腕は肩幅の広さを保って掌の小指から水中へ下ろされると遅滞なく動いて円滑に掻きが始められる。one stroke の最初の3分の1区分の末尾において、真直ぐ伸びた片腕は、手首が水面付近で動き、肘がいくらか下方に位置するような具合に、肘関節から次第に屈折される。続いて one stroke する過程のちょうど中間

において、つまり手首と肘が肩の高さまで上がり、腕の屈接が最大に達すると、肩をいくらか上方へ持ち上げながら、その上、腕を再び真直ぐに伸ばしながら、前肩と手首を使用して斜の後方の大腿部めがけて水を撥ねかける運動が始められる。L・バルビエルの腕はいわゆる「連鎖」的に働らく。すなわち、片腕が one stroke を終るとき、第二の腕は既に水中にあって次の stroke を開始しているのである。

1958年の欧州選手権大会において、L・バルビエルは100 m背泳で1分3秒9の記録で第二位を占めたが、そのとき彼は、われわれが未だ世界の強豪選手のうち誰のところでも見受けなかったような、1分間102.8 というまったく速い腕の回転を伴う急な pitch であったことを想起しよう。

100 m背泳の種目の競泳において、L・バルビエルは最大の（われわれが知悉するかぎりにおいて）回転 Pitch をもっていないが、一方彼は最短の「歩幅」を有している。彼のばあい one stroke の前進距離は90cmであるが、他方、世界の強豪選手たちの「歩幅」は、クリストフ（仏）92.7cm、モニクトノー（豪）96.5cm、タイラー（豪）107cm である。

100 m 1分5秒6の time を示した1957年から、1分3秒9の新記録の樹立に成功した1958年までに、L・バルビエルの泳法には、どんな変化がおこったのであろう。1957年には彼の one stroke の前進距離は93cm 1分間の回転 pitch は96であった。したがって1957年と1958年とを比較すれば、彼が自己の「歩幅」を僅かに縮め、そのかわり回転 pitch をそれだけ速めたことが、うなずかれる。

Start の跳躍 プール壁を蹴り離す彼の力は不十分である。（附言すれば、これが1958年の欧州選手権大会でR・クリストフに敗れた最大の要因であった。両者の間には start の跳躍で既に半米以上の差があった。）start の際、彼は上り後方へ蹴るので跳躍時の身体は反身になる。水中への潜度は浅く、殆んど滑走の合間をまたずに、水へ体が潜るやいなや直ちに脚と腕の活動が始められる。

彼は脚を水上に突き上げてとんぼ返りをなすところの somer-sault turn とよばれる速度の早い turn をなす。

1958年歐洲手権覇者、兼、記録保持者 R・クリストフ（フランス）の泳法。1958年の歐洲選手権競技の決勝レースにおいて、R・クリストフは100米背泳に1分3秒1の記録を示した。彼の水上に浮ぶ姿勢は水面すれすれに位置することは注目に値しよう。

脚は比較的大きな振幅をもって中位の水深において弾力的にしかも効果的に活動する。彼の腕と脚のバランスも two-stroke-six beat である。

高速の回転テンプにも拘らず、彼の脚の働きは高度に完成化された技術と明瞭性の故に傑出している。クリストフは水面にたいして約45度の角度面に真直ぐ伸ばした腕を空間で運び、掌の外面を下向きに転ずるとともに肩と手首を合わせた幅よりもいくらか広い幅を保って、正確な素早い動作でその腕を水中へ入れる。腕が水中へ没するやいなや、たちまち stroke が開始される。初めは腕を伸ばしたまま水を掻き、one stroke の3分の1過程を過ぎたところで、腕は肘関節から次第に屈接される。one stroke の中央において、手首は水面附近、肘は少し下方の位置をそれぞれ占める。

続く後半の stroke においては、手首を斜め後の大腿部の方向へ向けながら急速に腕を伸ばす運動がおこなわれる。クリストフの腕も「進鎖」状に、——（すなわち片腕が stroke を終るとき他の腕は既に水中に在って次の stroke を開始している。）——働く。前記の競技会にて彼が1分3秒1の記録を示したとき、彼は97 stroke をなした。彼の「歩幅」つまり one stroke の前進距離は62.7 cm pitch の頻度数は、きわめて大きく1分間 101, 8であった。

ここで若干の興味ある比較をしてみよう。第16回オリンピック競技において1分4秒6の time で泳いだクリストフの「歩幅」は97.8cm であったが、1958年の欧州選手権大会では92.7cm となった。このように、「歩幅」は5.1cm 短縮されたのであるが、そのかわり回転 pitch は著しく増大した。すなわち、前者において1分間92.6回転であれば、後者の大会では101, 8となったのである。かくのごとく、クリストフにとって1.5秒の記録更新は「歩幅」の減少に伴う回転 pitch の著しい増大によりもたらされたものである。

クリストフの start の跳躍は体があまり高く上らず水平の方向になされる。その際、足の踵は水から離れない。水中への体の侵入は平面的で、体が水中へ没する（浅く）と忽ち、脚と腕を動かし始めるので、start の跳躍に伴う滑走の間は殆んどない。全体的には、クリストフの start は非常に効果的でしかも迅速である。それで、1958年の欧州選手権大会の決勝レースにおいては彼は start するや既に隣に並んで泳いでいたL・バルビ

エルを半米以上抜いていた。

クリストフのなす turn は前述のバルビエルと同様に somer-sault turn である。

女子100米背泳のソ連選手権ならびに記録の保持者L・ヴィクトロワの泳法。彼女の best time は1分13秒2である。

姿勢 水面にたいし浅い角度をとって水に浮ぶ。体は肘関節からわずかに曲げられ、肩は比較的高く保持される。頭は、微かに胸の方へ引き寄せられた顎とともに、高すぎるほど高所に位置しているが腰部と脚はそれよりも低い場所を占めている。

脚の働き 脚は適度の振幅をもって、適度の水深位で働らく。腕と脚の同時運動は two stroke-six beat である。つまりヴィクトロワは腕を2回掻きする間に脚を6回打つのである。

腕の働き one stroke 終了後真直ぐ伸ばした片腕は水から抜きだされ、水面にたいして約45度にある平面内を上、前方へ振りまわされる。次いで腕は肩幅より若干広い幅で水中へ下ろされる。彼女は掌を下、外面に転じ、わずかに曲げて、つまり指を少し前肩の方へ近づけて、水を“catch”する。stroke の最初速度への“dash”が殆んどない。

掻きは最初に腕を真直ぐ伸ばしたままでおこなわれるが、one stroke の4分の1過程を過ぎると腕は次第に肘関節から屈接される。故に手頭より下方で動く。肘関節における腕の屈接が最大にあるのは stroke の中間である。それから大腿部めがけて後方および僅かに下方へ、体に沿って曲げた腕を急速に伸ばすと同時に、同方向へ手頭を使って水を寄せる運動が続いて始められる。手頭が大腿部から5~10cm 離れた位置にくると水掻き動作は終るのである。

L・ヴィクトロワは肩帯を腕の働きにたくみに利用している。腕が水中から抜き出されて空間を進行するとき、肩は少し起されて、いくらか上がり気味であるが、水掻きの前半においては沈められたかのように、いくらか下がり気味となる。かような肩帯の働きは胴体の大筋肉群を水掻き運動へ動員するために、水を掻く力は著しく増強される。彼女の腕も、前述の二人と同様に、みごとに「連鎖」状の働きをなす。

最近までL・ヴィクトロワの「歩幅」は長かった。例えば、1958年の欧州選手権大会において100米、1分13秒9の記録をだしたとき、彼女は one stroke で90.2 cm 前進した。この大会において、プリンヘム（イギリス、1分12秒6）の「歩幅」は84.4 cm、エドワードス（イギリス、1分12秒9）は87.6cm でヴィクトロワより少数であった。前記大会において、ヴィクトロワの腕の回転

pitch は1分間88.8であったが、一方グリーンヘムは96.8 エドワーズは82.6回転であった。

ヴィクトロワのトレーナーであるS・V・ボイチェンコは彼女の腕の回転 pitch を高めるべく今年になって多くのことをなしたと云わねばならない。すでに現在、彼女は、昨年おこなったよりもずっと浅い水深面で stroke をなしているが、このことは、いうまでもなく、回転 pitch を一層促進し、より高度の記録達成へと導いたのである。

これと関連して次のごとき比較をなせば、興味が深い。既述のごとく、ヴィクトロワの記録は1958年に1分13秒9であったが、1959年の「コムソモリスカヤブラウダ」新聞社主催の全連邦水泳大会において1分13秒2を示した。この二つの競技における彼女の pitch と「歩幅」はどのように異ったであろうか。昨年の pitch は1分間88.8であったが、今年は93.3になった。つまり4.5だけ高まった。「歩幅」は昨年は90.2cm 今年86.8cm つまり3.4cm 短縮されたわけである。このようにヴィクトロワは stroke の「歩幅」を縮めると同時に回転 pitch を高めて記録を更新したのである。

start の跳躍 とともに彼女は腕を上越して後方へ投げ伸ばす。その際、潜水は浅く、体が潜水すると時を移さず腕と脚が活動しはじめるので、跳躍に伴う滑走の間は殆んどない。

彼女のおこなう turn は水面上方へつきだして方向を変える転換、すなわち通常の急速度 turn である。

わが国の日常トレーニング活動において、われわれがみた上で、十分に注目と利用に値いするところの、今日の背泳技術における特徴的性格とは一体何であろうか。

1. 肘関節において腕を曲げる方が、腕を真直ぐ伸ばしたままで stroke するよりもいっそう効果的であることは、今日もはや誰も疑念を抱かない。

2. 水に浮ぶ泳者の体は、頸と肩が腰部と脚より高くなるような姿勢で、殆んど水平（水面にたいして浅い角度で）に仰臥せねばならない。その外、脱関節においてわずかに体を屈し、水面にたいしてできうるかぎり高い姿勢をとるべきである。しかし体の屈接（下方への角度で）があまり大きいと、水の抵抗がめだって増えるので不利であり合目的ではない。

3. 背泳専門の強豪選手の脚は、いずれも強力な、律動的な働きをなす点で特色がある。かような脚の活動は泳者の前進を促進し、バランスのとれた運動姿勢の保持を助成する、つまり siro beat 泳法で泳ぐ。

4. 急 pitch で泳いでいる時には、運動テンポが高いため滑走の時間がなく、したがって stroke に入る前に滑走を伴わない。

5. 腕はいわゆる「連鎖」状に働くべきである。つまり、片腕が stroke を終るとき、他の腕はすでに水中に在り次の stroke を開始してはならない。

6. 掻きの運動力を増大させるために、肩帯と胴体の大筋肉群を、腕の掻きの運動に包含すべきであろう。

7. 背泳種目の強豪選手にとって特徴的であるのは回転 pitch が高いことである。例えばバルビエルは1分間に102.8回転、クリストフは101.8、モンクソンは95.5（これは1分3秒4の記録にたいしてであるが、彼の1分1秒5の記録にたいしては、明らかに、いっそう高い pitch であろう。）グリーンヘムは96.8、カマエワは96.8などである。

8. Start の跳躍は潜水を浅くして、滑走時間を最小にすべきであろう。

9. 背泳の一流選手は背が急速度 turn —— いわゆる somer-sault turn とよばれるところの脚を、水面上方へ投げ伸ばす転回をなす。

10. ソ連および外国の主要選手の記録向上の跡を辿ると同時に背泳技術の若干の変化（水掻きがおこなわれる水深位、stroke の「歩幅」、回転 pitch の変化）を観察すれば明らかなごとく、彼らは、すでに上級のマスターであるに拘らず stroke の「歩幅」を維持するか或いは短縮すると同時に、主として回転 pitch を増大させて、自己のスポーツ水準を高めている。これに附随して水掻きはいっそう浅い水深位（以前より）でおこなわれるようになってきている。（例えば、クリストフ——フランス、バルビエルとクワディナ——ソ連、カマエワとヴィクトロワ——ソ連、においてしかり）。

結論的に言えば、ソ連および外国の大方の強豪選手は立派に背泳技術を修得している。しかし、それにも拘らず、彼らの技術は外見的には千差万別である。彼らは、めいめいがたがいに相手の選手の模倣したのではなく、創造的に考案した、「己有」のスタイルを完成させたのである。この技術変種の多様性は、各選手が自己の個人的、肉体的条件へ背泳技術を最大限に適応すべく努力していることを物語っている。

数人の強豪選手の泳法分析が示すごとく、彼らは各人各様ではあるが、しかし高い回転 pitch と相異なる「歩幅」を有している。

もちろん、これらの要因は高度のスポーツ成果の達成にたいして影響を及ぼしている。しかし、すべての強豪選手に共通する特徴はと云えば、それは、動作が明瞭であること、のびのびしていること、余計な拘束がないこと、着実な活動リズム、休止局面で力を弛めうること（例えば、空間における腕の移動）すなわち、力を経済的に消費することにも高度の記録を達成する能力をもっていることである。彼らは皆、自己の水泳技術の改善を心がけ、これに向って努力している。そして、これこそ、よりいっそう高度のスポーツ水準に到達する確実な途の一つである。（ソ連邦・「体育実技と理論」誌1959年第8号651～656頁所載）（訳者は中京大学教授）

「競泳の適齢調べ」について

競泳に適した年齢は他の競技よりも若いとゆうことは常識である。コンラツツが16歳で驚異的な世界新記録を出しているし、日本選手でもむかし北村選手は14歳、宮崎選手は15歳でオリンピックに優勝している。

然し最もよい記録を出す年齢は日本史上100傑の各種目の平均を見るとやはり18歳～20歳である。戦前は小学生の頃から本格的な猛練習を経て、中学の中期から世界水泳界の第一人者といわれた牧野、小池、遊佐、新井葉室の諸氏も最高は19歳から20歳であるし、戦後、中学生或は高校生になってから競泳を始めた選手も平均するとやはり20歳位が最高である。つまり10歳から競泳を始めても16歳から始めても20歳位が最高で以後は技がいくら円熟しても、体力的に衰えて記録が進歩しないとゆうことがわかる(勿論例外はあるが)即ち戦後は技が円熟しないうちに体力的に衰えて、世界的レベルに達しない

うちに終るとゆう結果になっているように思う。

戦前の日本水泳界はよくこの若い年齢層を活用して、オリンピック優勝者をたくさん出しており、ロサンゼルスとベルリンの両大会には競泳に総合優勝をしている、ところが戦後は若い年齢層の活用を封じられてしまってオリンピックにもサッパリ振わない。これが日本水泳界最大のなやみなのである。

そこでこの競泳にとっては致命的な前記の理由……戦後、文部省通牒による小、中学生の競技制限(最近はやや緩和されて水泳教室ジュニア指導会など強化策を講じているが)を徹廃してもらって米、豪のように自由に強化して東京オリンピックには是非共勝とうじやないかと体協が委員会を作って真剣に文部省に働きかける。その資料の一つとして作ったのが次の表である。(島田)

水 泳 適 齢 調 べ

男子の部

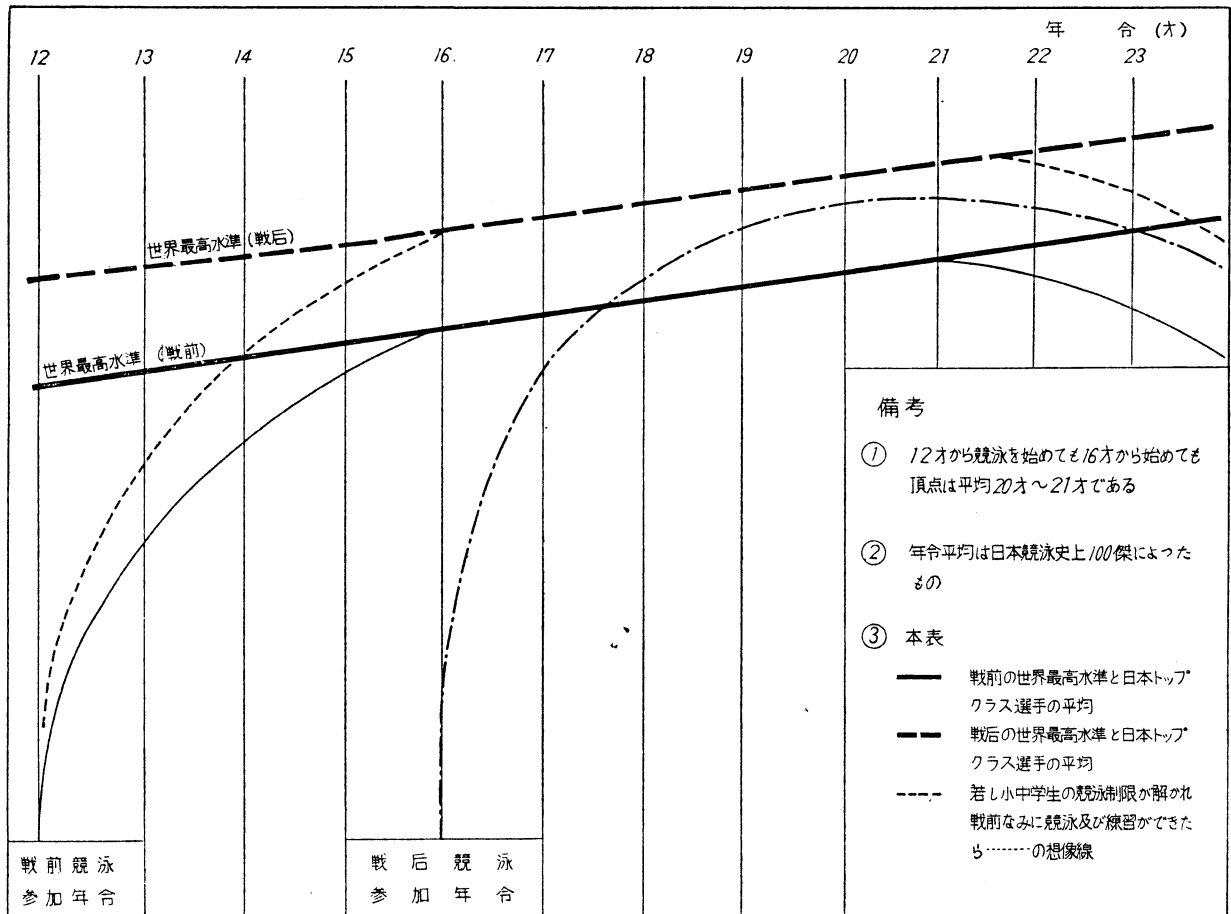
○内数字はオリンピック順位

氏名	種目	最初	最初	オリ	自	己	氏名	種目	最初	最初	オリ	自	己	
		日本	世界						日本	世界				日本
		記	録	ン	最	高			記	録	ン	最	高	
		才	才	ピ	最	高			才	才	ピ	最	高	
高石勝男	100m自	17		21③		18	山中毅	800m自	17				20	
	200m自	17		リレー		19		1500m自	17		17②		20	
	400m自	17		21②				鶴田義行	100m平	23	25			27
	1500m自	17		17⑥					1200m平	22	25	24	28	28
宮崎康二	100m自	14		15⑤		15	小池礼三	100m平	16	19			19	
遊佐正憲	100m自	18	20	21②		20		200m平	16	18	16②	20③	19	
	200m自	18	20	17⑤		20	葉室鉄夫	100m平	20	21			21	
鈴木弘	100m自			21⑤		21		200m平	19	19	18⑤		19	
	200m自	18	18	18②		18	古川勝 (バタより平泳 に転向)	100m平	18	20			20	
谷 訥	100m自	21		リレー		21		200m平	18	20	20⑤		20	
	200m自			18②				100mバタ	16					
				22⑦		21		200mバタ	16					
新井茂雄	100m自			20③		20	木村基	100m平	17	17			17	
	200m自	22	22	リレー		22	増田勲 (自より平に転向)	100m平	21				21	
牧野正藏	400m自	15	18	21③		20	200m平	22				21		
	800m自	14	16	17②		17	石本隆 (自よりバタに 転向)	100mバタ	21	21			23	
	1500m自	14		24⑤		23		200mバタ	21	21	21③		21	
根上博	400m自	23	23	19③		19	那須純哉	200mバタ	19				19	
	800m自	23				23	入江稔夫	100m背	16		16④		20	
大横田勉	400m自	19			19	200m背		14	16	20②		16		
横山隆志	200m自	18		リレー		18	清川正二	100m背	19		19⑤		23	
	400m自	16		18⑤		18		200m背	19	19	23③		20	
北村久寿雄	1500m自	14		14④		15	吉田喜一	200m背	16		100m		18	
天野富勝	1500m自	18	18			17⑥		児島泰彦	200m背	17		17⑤		19
古橋広之進	200m自	18				19	河津憲太郎		100m背	16		17③		17
	400m自	18	19			19	長谷景治	100m背	19				23	
	800m自	18	19			20		200m背	19				23	
	1500m自	18	19			20	富田一雄	200m背	16				19	
橋爪四郎	1500m自	16	19	23②		20	平 均							
	200m自	17	19			20			17.9	19.6			20.0	
山中毅	200m自	17	19			20								
	400m自	17	20	17②		20								

女子の部

氏名	種目	最初日本記録	最初の世界最高	最初のオリンピック	自最	己高	氏名	種目	最初日本記録	最初の世界最高	最初のオリンピック	自最	己高
小島一枝	100m自 200m自 400m自	15 15 16	才 才	才	19 16 19	才	和田映子	200m自 400m自 800m自	17 17 18	才 才 才	才	17 18 18	
守岡初子 (背より自に転向)	200m自 400m自 100m背	16 16 14			20 21		芝原笑子	400m自	16			16	
古田つね子	100m自	14			15		横田みさを	100m背	15			15	
山下貞子	100m自 200m自 400m自	19 19 19			19 19 20		小椋とみ子	100m背	18			18	
篠野富美	200m自 400m自	14 16			16 16		野口幸子	100m背	16			16	
新子富子	100m自 200m自 400m自	22 18 19			22 21 19		森前みどり	100m背 200m背	17 18			17 18	
田村美佐子	200m自 400m自	17 20			17 20		田中聡子	100m背 200m背	16 16		17	17 17	
佐藤喜子	100m自 200m自 400m自	16 17 16			20 21 20		前畑秀子	100m平 200m平 400m平 500m平	13 13 19 19		18② 22②	21 22	
大高幸子	400m自 800m自	16 17			16 17		坂本和子	100m平 200m平	16 16			16 16	
							高松好子	100m平 200m平	18 19			20 20	
							宮部シズエ (自よりバタに 転向)	100mバタ 200mバタ 100m自	19 19 16			20 21 13 出場	
							平均		16.9			18.4	

日本男子競泳各種目トップクラス(平均)の年齢より見た進歩過程



日本史上競泳女子50傑 (4)

(昭和35年3月15日現在)

男子自由形が終ったので、女子関係から御希望もあって、今号は女子自由形(女子は50傑)のをせることとした。

- ◎ 左肩に(日)とあるは当時の日本記録
- ◎ 順位は同記録のものは同位とした、但し同記録を2回出したものは、その上位とした。
- ◎ 記録のところに②とあるは最高記録を2回出した者、但し表には先に出した年、月、日、場所、大会のみを記した。
- ◎ 次号は男子平泳の予定 (島田)

100m自由形

順	氏名	所属	時間	年令	場所	年月日	会大名
(日) 1	佐藤喜子	天理大	1:05.2	(20)	大阪	33-8-22	日豪大阪
2	神野眸	淑徳教	1:06.7	(21)	都屋内	33-5-31	アジア競技
3	江坂君子	椋山高	1:07.6	(15)	振甫	34-7-4	早大対愛知
4	鳥田節子	東洋レ	1:07.7	(20)	神宮	33-8-16	日本選手権
5	和田映子	天理大	1:08.2	(20)	大阪	34-6-20	関西選手権
6	中沖滋代	白木屋	1:08.3②	(18)	都屋内	33-5-10	アジア選考会
7	芝原笑子	天理高	1:08.8	(16)	大阪	33-8-22	日豪大阪
8	大高幸子	東洋レ	1:09.3	(19)	神宮	34-9-23	国体女子
9	後藤貞子	奈良県	1:09.7	(20)	高岡	33-9-16	"
(日) 10	新子富子	"	1:09.8	(22)	天理	29-9-21	"
11	小牧順子	旭化成	1:09-9②	(19)	神宮	32-8-17	日本選手権
(日) 12	山下貞子	東洋レ	1:10.0	(19)	神宮	27-6-22	"
13	宮部シズエ	日本	1:10.5	(16)	マニラ	29-5-7	アジア競技
	中西満子	旭化成	1:10.5	(18)	大阪	34-8-30	全国勤労者
15	田村美佐子	奈良県	1:10.6	(20)	天理	29-9-22	国体女子
	田中聰子	筑紫女高	1:10.6	(17)	浜松	34-8-22	日本高校
17	殿上玲子	成女中	1:10.8	(14)	神宮	34-8-29	全国通信予
(日) 18	小島一枝	日本	1:11.0	(19)	ベルリン	11-8-8	オリンピック
19	窪美代子	五条高	1:11.2	(17)	布施	34-8-8	近畿高校
20	高松千歳	"	1:11.4	(17)	天理	34-8-30	国体奈良
21	坪井查雅子	天理大	1:11.5	(19)	大阪	31-9-8	関西女子
	稲葉孝子	旭化成	1:11.5	(19)	神宮	34-7-11	日本選手権
23	松田昌子	伊都高	1:12.0	(18)	大阪	31-9-8	関西女子
	原富子	朝羽高	1:12.0	(16)	浜松	34-8-23	日本高校
25	斎藤典子	淑徳高	1:12.1	(16)	振甫	34-9-6	国体愛知
26	行繩美代	二階堂高	1:12.2	(17)	神宮	34-7-28	東京高校
27	薦野良江	天理高	1:12.3②	(18)	天理	34-8-30	国体奈良
28	長田久子	宮崎県	1:12.3	(21)	甲子園	31-9-24	国体女子
	松中佐江子	帝塚山高	1:12.3	(17)	大阪	33-9-21	大阪高校
30	大石康子	天理大	1:12.4	(20)	神宮	27-6-22	日本選手権
	千葉幸子	成女高	1:12.4	(16)	都屋内	33-6-28	都民体育

32	西岡佐代子	伊都高	1:12.5	(17)	布施	34-8-8	近畿高校
33	端谷八重子	石川繊維	1:12.6	(14)	神宮	27-6-22	日本選手権
	黒田梶子	二階堂高	1:12.6	(15)	"	34-6-27	東京選手権
	上原恵子	熊本県	1:12.6	(16)	"	34-9-22	国体女子
36	島川浩子	二階堂高	1:12.7	(16)	浜松	34-8-23	日本高校
37	新子節子	小川ポンプ	1:12.8	(16)	神宮	28-8-1	日本選手権
38	岩井鈴子	天理高	1:13.0	(16)	大阪	34-9-6	関西女子
39	大宮涼子	淑徳高	1:13.1	(18)	振甫	31-7-31	愛知選手権
	石渡稚子	梶山高	1:13.1	(17)	"	34-9-6	国体愛知
41	鍵山陽子	土佐女	1:13.4	(17)	高知	33-9-28	高知高体
	中井陽子	五条高	1:13.4	(17)	大阪	34-9-6	関西女子
43	岡照子	天理大	1:13.5	(20)	神宮	32-8-17	日本選手権
	吉村睦恵	白木屋	1:13.5	(18)	"	34-6-28	東京選手権
	虎野昭子	帝塚山高	1:13.5	(16)	布施	34-8-8	近畿高校
46	坂口文子	五条高	1:13.6	(18)	神宮	27-6-22	日本選手権
	前佳子	東洋レ	1:13.6	(18)	大阪	30-6-25	関西選手権
(日) 48	古田つね子	中泉女	1:13.8	(15)	神宮	11-5-30	オリンピック予
	村山康子	帝塚山高	1:13.8	(18)	"	31-8-19	日本高校
	小林由美子	五条高	1:13.8	(16)	高知	33-8-22	"
	中岡角子	白木屋	1:13.8	(18)	大阪	34-8-28	全国勤労者

200m自由形

順	氏名	所属	時間	年令	場所	年月日	大会名
(日) 1	佐藤喜子	天理大	2:24.1	(21)	神宮	34-7-10	日本選手権
2	江坂君子	梶山高	2:30.2	(15)	"	34-7-12	"
(日) 3	和田映子	五条高	2:30.6	(17)	"	31-8-18	日本高校
4	神野眸	淑徳教	2:31.0	(21)	都屋内	33-5-11	アジア選考会
5	芝原笑子	天理高	2:31.6	(17)	浜松	34-8-22	日本高校
6	大高幸子	伊都高	2:31.7	(16)	神宮	31-8-18	"
7	窪美代子	五条高	2:33.6	(17)	浜松	34-8-22	"
8	島田節子	東洋レ	2:34.2	(20)	神宮	33-8-14	日本選手権
9	大宮涼子	"	2:35.3	(20)	都屋内	33-5-11	アジア選考会
10	中沖滋代	白木屋	2:35.5	(18)	"	"	"
(日) 11	山下貞子	東洋レ	2:35.6②	(19)	神宮	27-6-21	日本選手権
12	新子富子	天理水	2:35.8	(21)	"	28-8-1	"
13	小牧順子	旭化成	2:36.0	(19)	鎌倉	32-8-31	全国勤労者
14	後藤貞子	天理大	2:36.6	(21)	神宮	34-7-12	日本選手権
(日) 15	田村美佐子	伊都高	2:37.0	(17)	天理	26-9-30	奈良選手権
	前佳子	"	2:37.0	(17)	神宮	29-8-21	日本高校
	中西満子	五条高	2:37.0	(17)	高知	33-8-23	"
18	松田昌子	伊都高	2:37.4	(17)	神宮	30-8-20	"
19	西岡佐代子	"	2:37.6	(17)	浜松	34-8-21	"
20	行縄美代	二階堂高	2:37.7	(17)	"	"	"

21	二階カズ	五条高	2:38.2	(16)	神宮	29-8-21	日本高校
22	虎野昭子	帝塚山高	2:38.6	(15)	大阪	33-9-20	大阪高对抗
23	原富子	朝羽高	2:39.0	(16)	大分	34-7-5	九州各県
	殿上玲子	成女中	2:39.0	(14)	神宮	34-8-28	東京都中学
25	中岡角子	白木屋	2:39.6	(18)	大阪	34-8-29	全国勤労者
26	島川浩子	二階堂高	2:39.8	(16)	宇都宮	34-8-9	関東高校
27	小林由美子	五条高	2:40.1	(17)	大阪	34-9-6	関西女子
28	岡照子	東洋レ	2:40.3	(20)	神宮	32-8-18	日本選手権
(日) 29	旗野富美	東府四女	2:40.4	(18)	"	17-8-30	神宮女子中
30	宮崎亮子	五条高	2:41.2	(18)	振甫	28-8-30	日本高校
31	高松千歳	"	2:41.5	(17)	大阪	34-9-6	関西女子
32	川村ヨネ子	二階堂高	2:42.5	(17)	都屋内	34-4-12	室内選手権
33	寺井貴子	五条高	2:42.6	(16)	大阪	32-8-10	近畿高校
34	長田久子	旭化成	2:42.7	(21)	天理	31-8-25	全国勤労者
35	中井陽子	五条高	2:43.2	(17)	"	34-8-2	奈良高校
36	石渡雅子	梶山高	2:44.0	(15)	振甫	33-7-22	愛知高校
	鍵山陽子	土佐女高	2:44.0	(17)	高知	33-9-28	高知体育生
38	和田多恵子	天理大	2:44.1	(18)	大阪	32-8-31	関西学生
39	平谷銀子	東洋レ	2:44.2	(19)	神宮	33-8-14	日本選手権
40	安部佐和子	伊東高	2:44.4	(17)	"	25-7-24	"
41	坪井查雅子	東洋レ	2:44.6	(20)	大阪	32-9-8	関西女子
42	薦野良江	天理高	2:44.8	(17)	天理	34-6-6	天理記録会
	稲葉孝子	旭化成	2:44.8	(19)	神宮	34-7-10	日本選手権
(日) 44	小島一枝	梶山女	2:45.0	(16)	振甫	8-7-30	名古屋予選
	六嘉南海子	熊本商高	2:45.0	(17)	熊本	34-8-8	九州高校
46	相沢秀与	横浜学	2:45.2	(17)	神宮	32-8-23	日本高校
	平山礼子	朝羽高	2:45.2	(17)	大谷	34-5-30	末弘牌高校
48	山下美智子	小川ポンプ	2:45.3	(16)	大阪	31-8-14	大阪勤労者
49	伊豆千鶴子	筑紫女高	2:45.5	(17)	大谷	34-5-30	末弘牌高校
50	森茂子	川口女高	2:45.7	(15)	神宮	31-8-12	日本選手権

400m自由形

順	氏名	所属	時間	年令	場所	年月日	大会名
(日) 1	佐藤喜子	天理大	5:12.7	(20)	大阪	33-8-23	日豪大阪
(日) 1	芝原笑子	日本	5:15.8	(16)	都屋内	33-5-30	アジア競技
3	江坂君子	梶山高	5:19.6	(15)	神宮	34-9-23	国体女子
4	窪美代子	五条高	2:21.4	(17)	"	"	"
(日) 5	大高幸子	伊都高	5:23.8	(16)	"	31-8-19	日本高校
	和田映子	五条高	5:23.8	(18)	"	32-8-17	日本選手権
7	虎野昭子	帝塚山高	5:28.0	(16)	布施	34-8-8	近畿高校
8	高松千歳	五条高	5:39.7	(17)	浜松	34-8-23	日本高校
9	寺井貴子	"	5:30.9	(18)	大阪	34-7-26	日米大阪
(日) 10	田村美佐子	日本	5:32:2	(20)	マニラ	29-5-7	アジア競技

	薦野良江	天理高	5:32.2	(18)	布施	34-8-8	近畿高校
12	大宮涼子	東洋レ	5:32.9	(19)	神宮	32-8-17	日本選手権
13	前佳子	伊都高	5:34.4	(17)	大阪	29-8-7	近畿高校
14	小林由美子	五条高	5:34.5	(17)	〃	34-9-6	関西女子
15	小牧順子	宮崎県	5:37.2	(20)	高岡	33-9-16	国体高校
16	松田昌子	伊都高	5:37.9	(16)	大阪	30-6-25	関西選手権
17	二階カズ	奈良県	5:38.3	(16)	天理	29-9-5	国体奈良
18	宮崎亮子	日本	5:39.4	(19)	マニラ	29-5-7	アジア競技
(日) 19	簇野富美	東府四女	5:40.0	(16)	神宮	17-7-7	東京女子中
	島川浩子	東京都	5:40.0	(16)	〃	34-9-23	国体女子
21	新子富子	天理水	5:40.6	(19)	大阪	26-8-11	日本選手権
22	川村ヨネ子	二階堂高	5:40.8	(16)	神宮	33-8-17	〃
	西岡佐代子	和歌山県	5:40.8	(18)	〃	34-9-23	国体女子
24	中岡角子	五条高	5:41.3	(17)	都屋内	34-5-10	アジア選考会
25	平谷銀子	東洋レ	5:42.2	(18)	神宮	32-8-17	日本選手権
	宮井洋子	福岡県	5:42.2	(18)	〃	34-9-22	国体女子
27	後藤貞子	奈良県	5:43.0	(19)	浜松	32-9-25	〃
(日) 28	小島一枝	日本	5:43.1	(19)	ベルリン	11-8-15	オリンピック
29	島田節子	東洋レ	5:43.2	(20)	大阪	34-6-28	大阪選手権
30	石渡雅子	相山高	5:43.9	(16)	神宮	34-7-11	日本選手権
31	長田久子	宮崎県	5:44.2	(21)	甲子園	31-9-25	国体女子
32	山下貞子	東洋レ	5:44.8	(20)	大阪	28-7-12	大阪選手権
33	和田多恵子	天理大	5:45.5	(20)	〃	34-6-20	関西選手権
34	平山礼子	朝羽高	5:46.4	(17)	大分	34-7-5	九州各県
35	安部佐和子	伊東高	5:47.8	(17)	神宮	25-7-25	日本選手権
(日) 36	守岡初子	日本	5:49.1	(21)	ベルリン	11-8-14	オリンピック
37	浜岡育美	二階堂高	5:49.6	(17)	神宮	34-7-28	東京高校
38	上原恵子	熊本県	5:52.2	(16)	〃	34-9-22	国体女子
39	森茂子	川口女高	5:52.4	(15)	〃	31-8-11	日本選手権
40	正野好子	天理高	5:52.8	(18)	大阪	34-9-6	関西女子
41	新井恵子	東府四女	5:53.0	(15)	神宮	18-8-22	神宮一般
	殿上玲子	成女中	5:53.0	(14)	振甫	34-7-31	全国ジュニア
	原富子	朝羽高	5:53.0	(16)	瀬高	34-9-13	福岡学年別
44	森あき子	伊東高	5:53.4	(17)	野毛山	24-8-25	東西高校
	小野竜枝	淑徳高	5:53.4	(17)	神宮	32-8-25	日本高校
46	六嘉南海子	熊本県	5:53.7	(17)	〃	34-9-22	国体女子
47	高野洋子	淑徳高	5:53.8	(16)	振甫	34-9-6	国体愛知
48	神野眸	天理大	5:54.0	(19)	天理	31-6-2	天理記録会
49	滝本弘子	土佐女	5:54.2	()	神宮	17-7-29	全国女子中
50	坪井查雅子	天理大	5:55.4	(19)	〃	31-8-10	日本選手権
	斎藤弘子	相山中	5:55.4	(14)	振甫	34-8-30	全国通信



坂本宗隆

オーストラリア

○ブリスベーン 1/7 55y

女 110y平 1. ラッシング⑩ 1:21.3 (世新)

○ニューサウスウェールズ州選手権 1/7~23 シドニー
55y塩

男子

110y自 1. デヴィット 55.8 (26.1) 55.9
2. シプトン⑩ 56.8 (27.0) 55.9
3. コンラッツ 56.6 (27.2) 56.1
マクファーレン 57.6
ウエブスター 57.7
スタプレス 57.9

220y自 1. コレラッツ 2:01.9(世新)2:02.2(世対)
(27.8 57.9 1:29.8 2:01.9)
(27.9 58.2 1:30.4 2:02.2)

2. デイ 2:08.0 2:07.1
3. デヴィット 2:08.1 2:07.8
4. ウッド 2:08.5
ウエブスター 2:08.4
トムプスン 2:09.6

440y自 1. コンラッツ 4:27.6 4:20.5
2. ウッド 4:39.3 4:32.8
3. トムプスン 4:40.6 4:33.4

880y自 1. コンラッツ 9:21.9 9:13.8
2. ウッド 9:25.0
3. ウインドル⑩ 9:30.0

1650y自 1. コンラッツ 17:54.5
2. ウッド 18:29.3
3. ウインドル 18:34.0

110y平 1. ギャザコール 1:16.8 1:14.8
2. ジャング 1:17.7

220y平 1. ギャザコール 2:45.3 2:43.6
2. ジャング 2:48.7

110yバ 1. ヘイズ 1:04.0
2. ベリー⑭ 1:05.4
3. ターナー 5:05.8

220yバ 1. ヘイズ 2:24.7(豪新)
(1:06.9) 2:21.5(豪新)
2. ベリー 2:27.6 2:23.9 (〃)
3. ターナー 2:28.5 2:25.6
ヒル 2:27.1

110y背 1. モンクトン (30.1)1:04.2
2. ヘイヤーズ 1:04.9
3. キャロル 1:06.1

220y背 1. キャロル⑰ 2:27.2 2:20.0
(31.6 1:06.9 1:44.2)
2. モンクトン 2:26.5 2:21.9
3. ヘイヤーズ 2:22.4

440y混 1. ケープル 5:34.2

880y継 1. バンクスタウン 8:45.1

(コンラッツ, ヘイ, フェルプス, グドマン)
2:05.5

ジュニア

440y自 1. マッカラム 4:40.7

女子

110y自 1. コンラッツ⑱ 1:04.8 1:02.6
2. クラップ 1:06.7 1:03.7
3. モルガン 1:06.4 1:05.8
220y自 1. コンラッツ 2:19.6 2:15.3
2. モルガン 2:25.4 2:22.2
3. エヴァルス 2:29.0 2:22.9
4. パーティエル 2:27.5
5. クラップ 2:23.4 2:23.7

440y自 1. コンラッツ 4:56.2 4:45.4(世新)
(31.0 1:05.8 2:18:0 3:30.8)
2. クラップ 5:04.7 4:59.7
3. モルガン 5:06.1 4:59.9

880y自 1. エヴァルス⑲ 11:08.6 10:34.3
2. パーティエル 11:15.4 10:55.4
3. ヘイワーズ 11:04.9

110y平 1. ホーガン⑳ 1:26.7 1:26.2
2. エヴァンス 1:27.4

220y平 1. ホーガン 3:04.6 3:02.1

110yバ 1. アンドリュ⑳ 1:13.4
2. キングストン 1:14.2

220yバ 1. アンドリュ 2:46.8
2. キングストン 2:50.5

110y背 1. ベケット㉑ 1:15.1 1:13.6(豪新)
2. ブラネズ 1:15.3 1:14.4

220y背 1. ブラネズ⑩ 2:44.6 2:39.4(豪新)
2. ベケット 2:48.7 2:42.3(〃)

220y混 1. マギル⑭ 2:50.9

○クインズランド州選手権 1/16~23 ブリスベーン50m

400m自 1. リグビー⑰ 4:31.7

800m自 1. リグビー 9:35.3

女200m平 1. ラッシング 2:56.6(豪新)

〃200m混 1: ラッシング 2:44.8

○カンターベリー (シドニー郊外) 2/6 55y

440y継 選抜チーム 3:46.8(世新)

(コンラッツ, デヴィット, シプトン, ウエプスター)

○全豪選手権 2/19~27 シドニー 55y 塩

男子

110y自 1. デヴィット⑳ 56.7(26.0)55.4

2. シプトン 57.1 57.2

3. ディクソン 57.1 57.7

4. ウエプスター 57.5 57.7

5. マクファーレン 58.3 58.4

6. マッケンジー 59.2 58.4

7. ウエルド 57.6 58.4

220y自 1. コンラッツ⑰ 2:05.7 2:01.6(世新)
(28.4 58.4 1:30.4)

2. デヴィット 2:06.6 2:05.8

3. デイ 2:08.0 2:07.7

4. ウッド 2:08.0 2:08.3

5. ウエプスター 2:07.5 2:09.7

6. リグビー 2:08.4 2:11.2

7. ディクソン 2:07.1 2:14.2

440y自 1. コンラッツ 4:25.2 4:15.9(世新)
(59.6 2:04.6 3:10.0)

2. リグビー 4:31.7 4:30.4

3. ウッド 4:32.0 4:31.2

4. トムプソン 4:43.4 4:40.7

5. キッセイン 4:39.3 4:41.3

880y自 1. コンラッツ 9:21.1

2. リグビー 9:36.9

3. ブラウン⑮ 9:38.6

4. ウッド 9:38.6

5. デューネ 9:48.3

6. キッセイン 9:55.5

1650y自 1. コンラッツ 18:14.6 17:11.0^(m y)(世新)

(29.4 1:03.0 2:10.8 3:19.3)
(4:28.4 5:37.3 6:46.4 7:55.3)
(9:03.7 10:13.1 11:22.3 12:31.8)
(13:41.5 14:52.2 16:02.0)

2. ウィンドル 19:10.3 18:07.5

3. ウッド 19:10.3 18:08.2

4. リグビー 19:00.8 18:17.9

5. ブラウン 19:01.5 18:32.1

6. デューネ 19:10.1 18:47.5

110y平 1. ギャザコール 1:15.0 1:15.4

2. パートン 1:17.3 1:15.4

220y平 1. ギャザコール㉓ 2:45.9 2:43.0

2. パートン 2:49.5 2:46.5

3. ハンプレーズ 2:46.0 2:47.3

ギャザコールは選手権に8連勝

110yバ 1. ヘイズ⑩ 1:05.7(31.5)1:03.0(世新)

2. ベリー 1:03.8

3. ベネット 1:05.6 1:05.9

220yバ 1. ヘイズ(30.9 1:05.0 1:41.2) 2:17.9(世新)

2. ベリー 2:20.7

3. ギルモア 2:28.9

4. ターナー 2:27.7 3:29.3

110y背 1. タイラ 1:06.7 1:03.0

2. ヘイヤーズ 1:04.3 1:04.2

3. モンクトン 1:05.5 1:04.3

4. キャロル 1:04.3

5. フィングルトン 1:06.8

220y背 1. キャロル 2:19.7

2. モンクトン 2:20.0

3. タイラ 2:21.6

440y混 1. ケーブル 5:33.6

880y継 1. ニューサウスウエールズ 8:39.8

(ウエプスター, デヴィット, ウッド, コンラッツ)

440y混継1. クインズランド 4:20.5

(タイラ, パートン, ベネット, ウエルド)

2. ニューサウスウエールズ 4:21.0

ジュニア

110y自 1. アンガー 58.4

2. フェルプス 58.6

440y自 1. ウィンドル 4:33.3

2. フェルプス 4:35.0

3. マッカラム 4:38.6

110yバ 1. ヘイズ 1:03.6

2. ベリー 1:03.6

女子

110y自 1. フレイザー㉔ (29.6)1:00.2^(m y)(世新)

2. コンラッツ 1:03.3

3. クラップ 1:03.5

4. コルクホーン 1:03.7 1:04.1

5. モルガン 1:05.0

6. クレイグ 1:05.2

220 y 自	1.	フレイザー	2:22.9	2:11.6 ^(m y) (世新)
		(29.8	1:03.1	1:37.4)
	2.	コンラッズ	2:23.9	2:18.2
	3.	モルガン	2:27.7	2:21.8
	4.	パーティエル	2:25.3	2:23.1
	5.	クレイグ	2:28.0	2:24.8
440 y 自	1.	フレイザー	5:04.2	4:47.4 ^(世新) (1:05.8 2:19.5 3:34.4)
	2.	コンラッズ	5:02.5	4:50.0
	3.	モルガン	5:06.2	4:57.4
	4.	クラブ	5:05.3	5:03.5
	5.	クレイグ		5:06.7
	6.	パーティエル	5:06.2	5:07.5
	7.	ペイン	5:07.0	5:07.5
880 y 自	1.	コンラッズ		10:17.9
	2.	ペイン ^⑩		10:46.9
	3.	ラング ^⑭		10:57.2
	4.	バーグス		11:00.7
110 y 平	1.	ラッシング		1:22.2
	2.	ホーガン		1:25.5
	3.	エヴァンス	1:25.8	1:26.0
220 y 平	1.	ラッシング	3:00.4	2:57.7 ^(豪新) (39.7 1:23.8 2:10.3)
	2.	エヴァンス	3:05.3	3:03.1
	3.	ホーガン	3:04.8	3:04.0
110 y バ	1.	フレイザー		1:10.8 ^(世新)
	2.	アンドリュ		1:12.5
	3.	キングストン		1:14.3
220 y バ	1.	アンドリュ		2:44.1
	2.	フォイ		2:52.5
110 y 背	1.	ウイルソン		1:13.7
	2.	ベケット		1:13.7
	3.	カップー ^⑭		1:14.5
	4.	ネルソン		1:14.6
220 y 背	1.	ウイルソン ^⑩		2:39.0 ^(豪新)
	2.	ブラネズ		2:40.9
	3.	ネルソン		2:41.2
440 y 混	1.	コルクホーン		5:54.5 ^(豪新)
440 y 継	1.	ニューサウスウエールズ	4:18.3	
		(エヴァルス, モルガン, クラップ, コンラッズ)		
	2.	南豪州	4:25.0	
		南豪州チームの第1泳者フレイザー		
		は1:00.3の世界新記録をマークした。		
440 y 混継1.	1.	ニューサウスウエールズ	4:59.5 ^(豪新)	
		(ベケット, ホーガン, アンドリュ, コンラッズ)		
		1:15.2 1:25.8 1:13.8 1:04.7		

ジュニア

110 y 自	1.	エヴァルス	1:05.7
220 y 自	1.	ベエイテス	2:24.7
110 y 平	1.	ホーガン	1:25.2
110 y バ	1.	アンドリュ	1:11.8
	2.	フォイ ^⑭	1:12.8
110 y 背	1.	ネルソン	1:14.1
	2.	カップー	1:14.9

この結果オリンピック候補として次の選手が選ばれた。

デヴィット(主将)ディクスン, ヘンリックス, ローズ
 コンラッズ リグビー シプトン ウィンドル
 ウッド ヘイズ ベリー ギャザコール(副将)
 バートン モンクトン タイラ キャロル

女 フレイザー クラップ コルクホーン エヴァルス
 クレイグ コンラッズ モルガン アンドリュ
 ラッシング ホーガン ベケット(主将) ウイルソン

この大会に出場しなかったアメリカ留学中のヘンリックスとローズは過去の実績によって選考され、男子16名、女子12名のチームを以て、6月中旬からローマに出発までの約8週間豪州の北部タウンズヴィルでトレーニングを実施する由。それにはもちろんヘンリックス、ローズも参加の予定であって、この合宿中数回の記録会を行い、代表チームを決定する模様である。

豪州は昨シーズン休養の意味で、気を抜いたため、米日に追い抜かれ、世界の王座を滑ったが、オリンピック、イヤーともなれば流石に見事に立ち直った。しかし前回のメルボルン大会のような成果を納めるつもりなら、この程度の成績では不十分である。

ソ 連

キエフ対レーニングラード	2/下旬	キエフ
女200m背	1.	ヴィクロワ ^⑩ 2:38.4 ^(ソ新)

ア メ リ カ

アメリカのローマ、オリンピックチームのコーチ陣は次の通り決定した。

男子ヘッドコーチ	Gus Stager	ミシガン大
〃 飛 込 〃	Philip Moriarty	エール大
〃 マネージャー	Ray Daughters	シヤトル
女子ヘッドコーチ	Gerorge Hains	サンタクララ
〃 飛 込 〃	Dr. Sammy Lee	サンタアナ
〃 マネージャー	Mrs. Betty Baldin	ヤングスタウン

今回世界新記録の出た種目の史上ランキングの上位を、参考までにお目にかけます。

注： ×……ヤード S……塩水 ラ……途中計時

200m自 (2:06.0以内)

1.	山 中 毅	日		2:01.5	59
2.	J. コンラッズ	豪	S × 2:	01.6	60
3.	M. ローズ	〃		2:04.2	59
4.	藤 本 達 夫	日		2:04.9	59
5.	J. ヘンリックス	豪		2:05.2	58
6.	G. チャプマン	〃	S × 2:	05.2	58
7.	福 井 誠	日		2:05.6	59
8.	G. ニコラーエフ	ソ		2:05.6	57
9.	I. ブラック	英	S × 2:	05.6	58
10.	J. デヴィット	豪	S × 2:	05.8	60
11.	I. ルシコフスキー	ソ		2:05.9	59
12.	R. ブリック	米		2:06.0	59

400m自 (4:31.0以内)

1.	J. コンラッズ	豪	S × 4:	15.9	60
2.	山 中 毅	日		4:16.6	59
3.	M. ローズ	豪		4:22.9	59
4.	藤 本 達 夫	日		4:28.4	59
5.	I. ブラック	英	S × 4:	28.4	58
6.	A. ソマーズ	米		4:29.0	59
7.	B. ニキーティン	ソ		4:30.1	57
8.	J. リグビー	豪	S × 4:	30.4	60
9.	福 井 誠	日		4:30.6	59
10.	J. ボワトオ	仏		4:30.7	52

1500m自 (18:15.0以内)

1.	J. コンラッズ	豪	S × 17:	11.0	60
2.	A. ソマーズ	米		17:44.4	59
3.	M. ローズ	豪		17:46.5	59
4.	山 中 毅	日		17:47.5	59
5.	G. ブリーン	米		17:52.9	56
6.	I. ブラック	英		18:05.8	58
7.	R. ウィンドル	豪	S × 18:	07.5	60
8.	A. ウッド	〃	S × 18:	08.2	60
9.	G. モンセレー	仏	S	18:12.0	57
10.	J. カトナ	洪		18:13.0	58
11.	G. ウインラム	豪	S × 18:	14.8	58

200mバ (2:20.0以内 △…旧ルール)

1.	M. トロイ	米		2:16.4	59
2.	那 須 純 哉	日		2:17.8	59
3.	N. ヘイズ	豪	S × 2:	17.9	60
4.	D. ギランダーズ	米		2:18.0	59
5.	W. ヨーシク	〃	△	2:18.6	56
6.	W. パートン	〃		2:18.7	59

7.	F. デンネルレイン	伊		2:19.5	59
8.	石 本 隆 日	△		2:19.6	56

400m継 (3:48.0以内)

1.	米 (フォレット, ラースン, ファーレル, アルカイア)			3:44.4	59
2.	豪 (チャプマン, コンラッズ, シプトン, デヴィット)			3:46.3	58
3.	〃 (コンラッズ, デヴィット, シプトン, ウェブスター)	×		3:46.8	60
4.	日 (鈴木, 谷, 後藤, 古賀)			3:46.8	55
5.	ソ (ソローキン, ポレヴォイ, モルガチェフ, ルシコフスキー)			3:47.1	59
6.	〃 (ソローキン, ルシコフスキー, ニコラーエフ, ポレヴォイ)			3:47.4	58
7.	米 (マッキンタイヤ, ウールジイ, パタスン, ギデオンス)			3:47.6	55
8.	日 (山中, 古賀, 見上, 石原)			3:48.0	59

女100m自 (1:04.0以内)

1.	D. フレイザー	豪	S × 1:	00.2	60
2.	L. クラップ	〃		1:02.3	56
3.	I. コンラッズ	豪	S × 1:	02.6	60
4.	C. ハステラールス	和		1:02.9	59
5.	C. フォンソルツァ	米		1:03.0	59
6.	A. コルクホーン	豪		1:03.1	58
7.	M. ボトキン	米		1:03.8	58

女200m自 (2:20.0以内)

1.	D. フレイザー	豪	S × 2:	11.6	60
2.	I. コンラッズ	〃	S × 2:	15.1	59
3.	C. フォンソルツァ	米		2:17.1	58
4.	L. クラップ	豪	S × 2:	19.1	56
5.	A. コルクホーン	〃	×	2:20.1	58
6.	C. シムメル	和 (400m)	ラ	2:21.7	59
7.	S. モルガン	豪	S × 2:	21.8	60

女400m自 (5:00.0以内)

1.	I. コンラッズ	豪	S × 4:	45.4	60
2.	D. フレイザー	〃	S × 4:	47.4	60
3.	L. クラップ	〃	S × 4:	48.6	56
4.	C. シムメル	和		4:52.4	59
5.	C. フォンソルツァ	米		4:55.9	59
6.	S. モルガン	豪	×	5:59.2	58

女100mバ (1:12.0以内)

1.	N. ラミー	米		1:09.1	59
2.	B. コリンズ	〃		1:09.5	59
3.	A. フォールバイ	和		1:10.5	57
4.	D. フレイザー	豪	S × 1:	10.8	60
5.	S. マ ン	米		1:11.0	56
6.	M. ボトキン	〃	×	1:11.1	59

7. K. シメセック	米	1:11.4	59	4. A. デンハー	和	1:21.1	57			
8. S. ルースカ	カ	×1:11.5	59	5. R. ラッシング	豪	×1:21.3	60			
9. J. アンドリュ	豪	S×1:11.8	60	6. H. メンゲ	東ド	1:21.3	59			
10. T. ラヘルベル	和	1:11.9	58	7. E. ウースミース	ソ	1:21.6	57			
女100m平 (1:22.0以内)				8. A. ロンスブロー				英	1:22.0	59
1. W. ウルセルマン	西ド	1:19.1	60	なお、バタフライのヘイズ 1:03.0 は 110y の世界						
2. K. バイエル	東ド	1:19.6	58	新記録ではあるが、100mのランキングでは、やっと20						
3. B. ヴァルター	カ	1:20.5	59	位に過ぎないので、次の機会に譲ります。						

内外主要選手の年次成績

内外の主要選手の年次成績をとの要望がありますので、紙面の都合のつく限り順次発表するつもりです。

(太字は最高記録)

100自由形

		1659	1958	1957
Devitt, J.	豪	① S × 55.1	① S × 55.5	① 54.6
Farrell, J.	米	② 55.8	② 57.9	-
Konrads, J.	豪	③ × 55.9	① 9 S × 57.5	S × 61.2
Louchkowski, I.	ソ	⑥ 56.3	⑫ 57.1	⑫ 57.9
山中 毅	日	⑦ 56.4	⑫ 58.4	
Shipton, G.	豪	⑧ S × 56.4	⑩ × 57.0	S × 59.5
Sorokin, V.	ソ	⑨ 56.6	⑤ 56.4	④ 56.6
Webster, W.	豪	⑩ 56.6	× 59.2	
Dos Santos, M.	伯	⑪ 56.7	⑦ 56.6	⑫ 58.1
Pucci, P.	伊	⑫ 56.8	④ 56.1	⑤ 57.0
Gregor, H. G.	東ド	⑬ 56.8	⑫ 57.7	⑫ 58.7
Fu Ta-ching	中共	⑭ 56.8	⑫ 58.9	
石原勝記	日	⑯ 57.0	⑫ 58.5	⑫ 58.3
Cass, W.	米	⑯ × 57.1	⑫ 57.8	⑫ 57.5
林 錦珠	中共	⑰ 57.1	59.5	⑦ 57.2
Morgatchev, P.	ソ	⑱ 57.2	⑱ 57.5	
Ericksen, P.	豪	⑳ 57.2	S × 59.6	
古賀 学	日	㉓ 57.3	⑳ 58.3	③ 56.6
見上勝紀	カ	㉓ 57.4	⑳ 58.6	59.6
Treillet, M.	仏	㉓ 57.4	⑳ 58.4	⑳ 58.6
Polevoj, V.	ソ	㉓ 57.5	⑨ 56.9	⑪ 57.4
Kocmur, J.	ユーゴ	㉓ 57.5	⑳ 57.6	
Larson, L.	米	㉓ 57.5	⑥ 56.4	

200自由形

山中 毅	日	① 2:01.5	① 2:03.0	③ 2:06.9
Kourads, J.	豪	② S × 2:02.2	② 2:03.2	⑩ S × 2:09.2
Rose, S. M.	カ	③ 2:04.2	-	② S × 2:06.5

藤本達夫	日	④	2:04.9	⑦	2:06.4	—
福井誠	〃	⑤	2:05.6	⑥	2:06.2	⑳ 2:10.6
Louchkowski, I.	ソ	⑥	2:05.9	⑫	2:08.2	④⑦ 2:12.5
Black, I. M.	英	⑧ S	×2:06.0	⑤ S	×2:05.6	⑭ S ×2:10.0
Sorokin, V.	ソ	⑩	2:06.7	⑳	2:08.8	⑧ 2:08.3
Farrell, J.	米	⑪	2:06.9	⑪	2:11.8	
Devitt, J.	豪	⑫ S	×2:06.9	⑮	×2:08.5	⑤ S ×2:07.3
Breen, G.	米	⑭	2:07.3	⑳	2:09.0	⑱ 2:10.5
丸山長敏	日	⑯	2:08.2	④⑥	2:11.2	2:15.6
十河英記	〃	⑱	2:08.3		2:13.1	③⑨ 2:12.0
Troy, M.	米	⑲	2:08.3	④⑤	2:11.3	
見上勝紀	日	⑳	2:08.4		2:13.0	2:15.2
Nikitin, B.	ソ	㉒	2:08.4	⑩	2:07.8	⑫ 2:09.5
Zierold, H.	西ド	㉓	2:08.5	⑬	2:08.3	④ 2:07.2
Nikolaev, G.	ソ	㉔	2:08.8	⑧	2:06.8	① 2:05.6
Winters, F. T.	米	㉕	2:08.9	⑱	2:08.6	
芳野真任	日	⑳	2:09.2		2:13.0	

1959年度順位が欠番（前号，世界ランキング参照）になっている選手は，57,58年度のデータ不足のため削除した。

編集後記

会長を初め各競技委員長よりローマ大会に対する抱負を伺い意を強くした次第。願くば単に東京大会のための踏台たらしめず，ローマへの道へ直進して貰いたい。今号は昨冬開かれた泳法研究会における座談会や講演記録を掲載した。原稿と紙面の都合で残念ながら次号に譲ったものがあるが，愈々水泳の科学性が強調せられ関係者の責任も倍加してきた感がある。更に今回は，宮畑さん初め先輩四氏の御出席を得て座談会が持たれ，後輩，現役選手に対し激励の言葉を戴いたが，目睫に迫まったローマ大会を前にして啓発されるものが多々あり有意義な会であった。紙上をお借りして厚く御礼申します。（栗村）

編集委員（いろは順◎委員長）

金田平八郎 多治見祐孝 高橋静子 上野徳太郎 ◎栗村中丸
 坂本宗隆 三枝美貴子 菊池章 島田桃一郎 島田博史
 鈴木祐一

日本水泳連盟
 機関誌

水 泳

第132号

昭和35年3月20日印刷

昭和35年3月25日発行

日本水泳連盟

編集兼 栗村中丸

印刷所 株式会社成島印刷所

東京都中央区日本橋本石町3の4

電話日本橋(241)1701・6509・7082

東京都千代田区丸ノ内2-2

丸ビル722区

発行並 日本水泳連盟

申込所

電話和田倉(201)3090・4885番

振替口座東京5178番